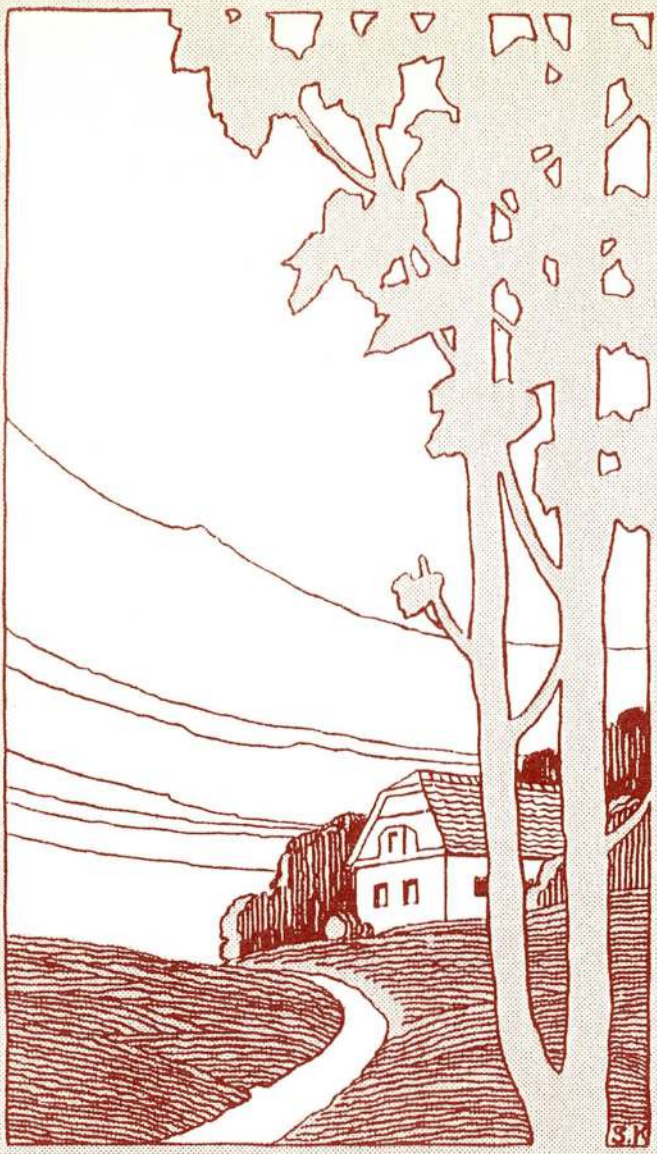
建築ト社會



大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正九年五月一日發行（毎月一回一日發行）

第三輯
第五號

大正九年五月一日
日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ學實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ノ入會ニハ學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員ニ入會ヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ學術ヲ擁助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關係スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼサルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ若キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ若キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經タル其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

除名ノ決議ハ會員總數ノ三分ノ二以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ要ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳ケ年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　主　計　一　名

三　編　輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ國產研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認メルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ノ事務ニ關スル諸般ノ事項ノ調査研究

一　建築ニ關スル諸般ノ事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　建築事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第十九條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納出ス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ又金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓ヲ前納スヘシ

但六箇以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費及金百圓賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立金ハ確實ナル銀行ニ預入シ又ハ國債證券ニ換ヘ置キ其利子ハ會計ニ編入ス

本會ノ財產積立金ハ特別ノ事由アルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第二十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ始マリ十二月ニ終ル

第二十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第二十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第二十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第二十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第二十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第二十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十一條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十二條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第三十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十一條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十二條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第四十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十一條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十二條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第五十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十一條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十二條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第六十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十一條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十二條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第七十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十一條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十二條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第八十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十一條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十二條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十三條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十四條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十五條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十六條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

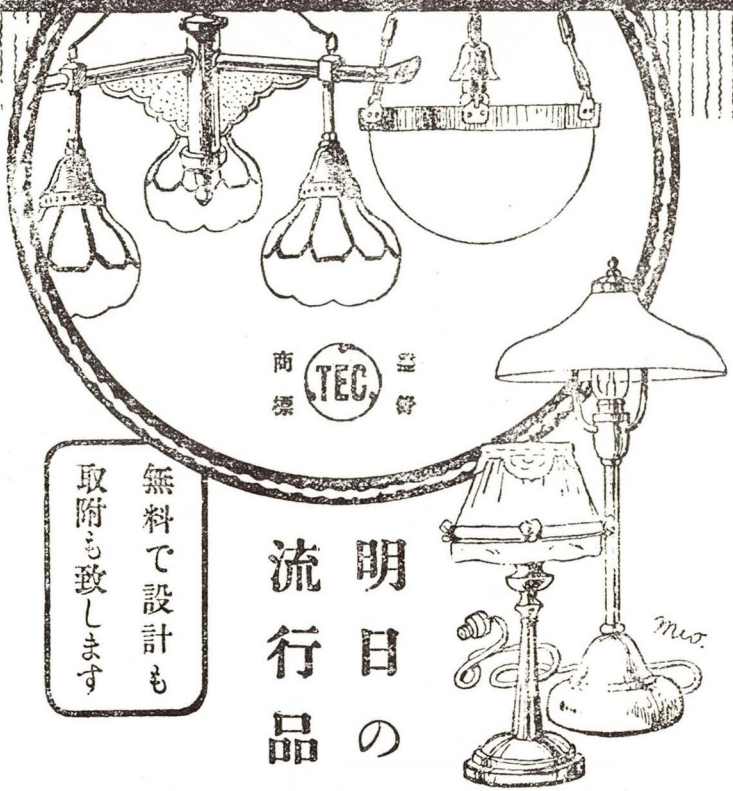
第九十七條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十八條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第九十九條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

第百條　本會ノ會計ハ毎年一月ニ於テ前年度ノ收支決算ヲ調製シ理事會ノ承認ヲ經テ總會ニ報告ス

■ 具器明照な品上 ■



商標 TEC 登録

無料で設計も取附も致します

明日の流行品

神奈川縣川崎町

東京電氣株式會社

仙臺市大町五ノ一五	電話 長一三二	東京市京橋區銀座尾張町一ノ一	電話 銀座 一三七〇、一三七二
札幌區南一條通西四ノ一二	電話 九八九	大阪市西區阿波堀通一ノ五	電話 長 六三〇、八九九、八八八
大連市山縣通四五	電話 一二五五	門司市西本町三ノ二九	電話 長 四六、六八二
上海南京路東首五六四	電話中央 三二六七、四八〇七	名古屋市中區南大津町二ノ三ノ二	電話 本局 長 二五九八

出張販賣所

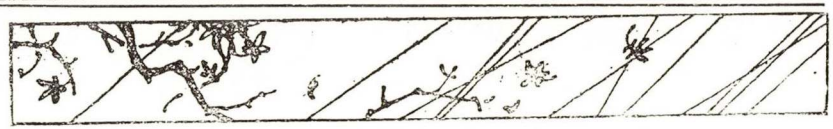
D-2

『建築と社會』第參輯第五號

目次

口繪（内田信也氏須磨の別邸（三色版）
全内部（寫眞版）
懸賞改良住宅設計案 第二等第二席（寫眞版）

◉都會生活と其適應性（卷頭）……會員……片岡安……二
◉都市建築勃興の大勢（下）……京都帝國大學教授……戸田海市……九
◉家賃騰貴都市計畫及土地增價稅（下）……東京市社會局長……窪田文三……一五
◉我慢と辛房と風流を徴象する日本の住居……内務省都市計畫課長貴族院議員……池田宏……二二
◉都市計畫事業と財源（丙―畢）……仲小路廉……二七
◉住家は家庭趣味の容器……工學博士……佐野利器……三三
◉大都市の建築物（C―畢）……豐國火災保險株式會社專務取締役……大谷順作……三七
◉建築物に對する防火帶又は防火地區の設定……會員……葛野壯一郎……四一
◉居構百選（其五）……特別賛助員農學士……大屋靈城……四五
◉日本庭園考（二）……



◉新都市の建設 …… 江村郊郵 …… 五〇
◉土木建築業者の向上と保證金問題に就て …… 大阪土木建築業組合常任評議員 山本辰五郎 …… 五四
〔邸居寸觀〕
◉新聞記者として見たる名士の邸宅(3) …… 讀賣新聞記者 梅谷孫吾 …… 五九
〔一事一想〕
◉保健關係から觀た都市計畫 …… 市立大阪衛生試驗場技師 岩尾次郎氏談 …… 六五
◉消防方面から觀た都市計畫 …… 大阪府消防課長 宮田警視談 …… 六六
〔都市と社會施設〕
◉英國に於ける住居政策(3) …… 大阪市發表 …… 六九
〔資料〕
◉大阪市都市計畫參考資料(其二) …… 七五
〔女流の建築觀〕
◉氣分から湧いた理想の住宅 …… 美代子 …… 七七
〔藻苑〕
◉俳句 …… 芦田秋双選 …… 八一
□時報 …… 八三
□會報 …… 八六

附錄

◉ブルュクセル市建築規則(上) …… 八頁

G.E. CHEMICAL PRODUCTS.

ジーエフ防水剤

GF. Waterproofing Paste.
GF. Trowel Coating.
GF. Dampproofing Coating.
GF. Acidproofing.
GF. Cristalrox,
GF. Mastic Cement.
GF. Timber Life.
GF. Floor Enamel.
GF. Brick and Cement Coating.
GF. Galvanized Steel Coating,
Etc., Etc.

ジーエフ塗料

GE
YOUNGSTOWN. OHIO.

TKS

製造元　米國ジエネラル、ファイヤープルーフキング會社

輸入元　中外貿易株式會社

◉ジーエフ防水剤
◉ジーエフ防水防濕塗料
◉ジーエフ防酸塗料
◉ジーエフ室内裝飾塗料
◉ジーエフ床用塗料
◉ジーエフ金屬防蝕塗料
◉ジーエフ木材防蝕塗料
◉在庫品豊富◉

販賣元　東京市京橋區傳馬町一丁目
株式會社東洋工業社
電話京橋　一二八〇・二三〇・四長三〇四五
出張所　大阪　名古屋　小倉紐育

S.G.



内田信也氏須磨別邸

（大阪藥田製版所印刷）

生活改造博覽會へ出品

先般大阪住宅經營株式會社の依囑に依りて懸賞募集せる改良住宅設計案の應募壹百四箇案中當選せる七箇案此の圖案拾四面を今回大阪商品陳列所内に開設の『生活改造博覽會』へ出陳弘く公衆の御參考に供し居候間特に御參觀被成下度候

日本建築協會

轉移所務事

本會の膨脹と事務輻輳せる爲、今回左の場所へ當事務所を移轉し、四月一日より仝所に於て執務致候

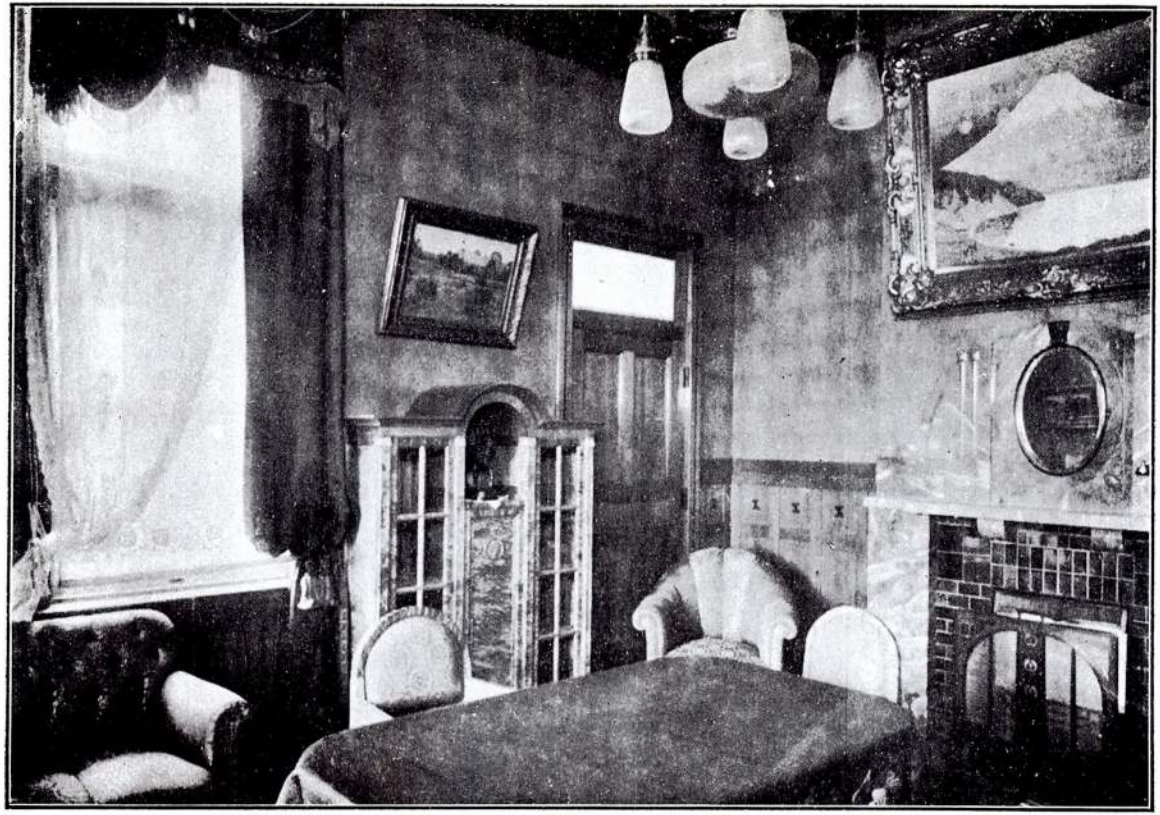
大阪市西區京町堀上通一丁目五番地
不動貯金銀行ビルディング
三階（市電京町堀停留場北へ西側）
（市電江戸橋停留場南へ）

電話番號變更　土佐堀一九七三番（室内交換）

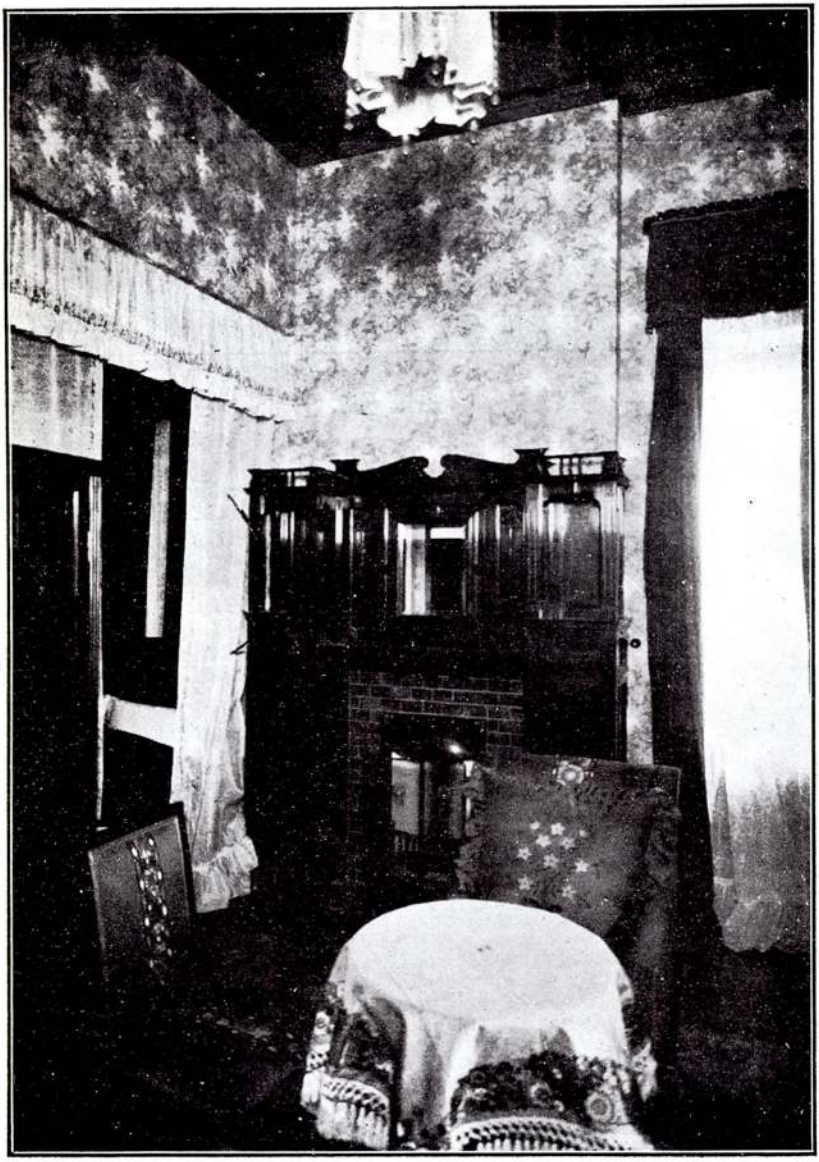
日本建築協會



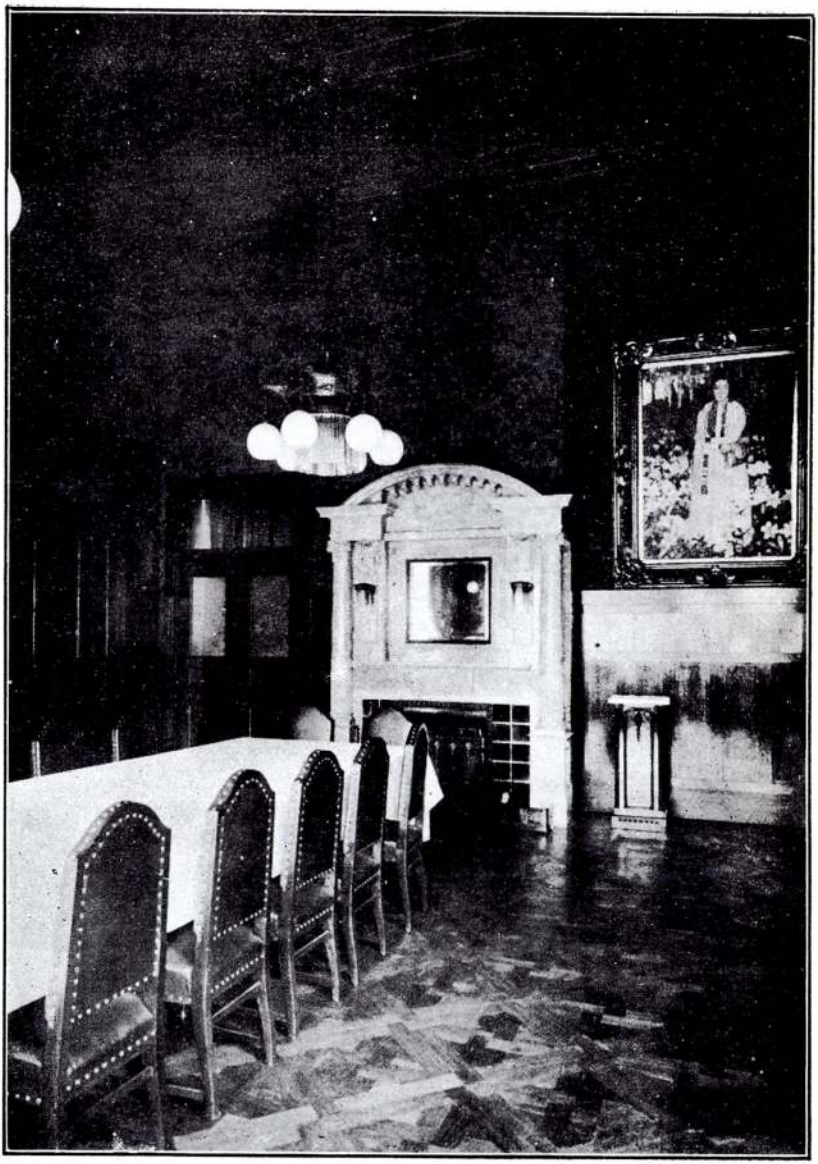
内田信也氏須磨別邸内階下客室



内田信也氏須磨別邸内二階客室



内田信也氏須磨別邸内應接室



内田信也氏須磨別邸内大食堂

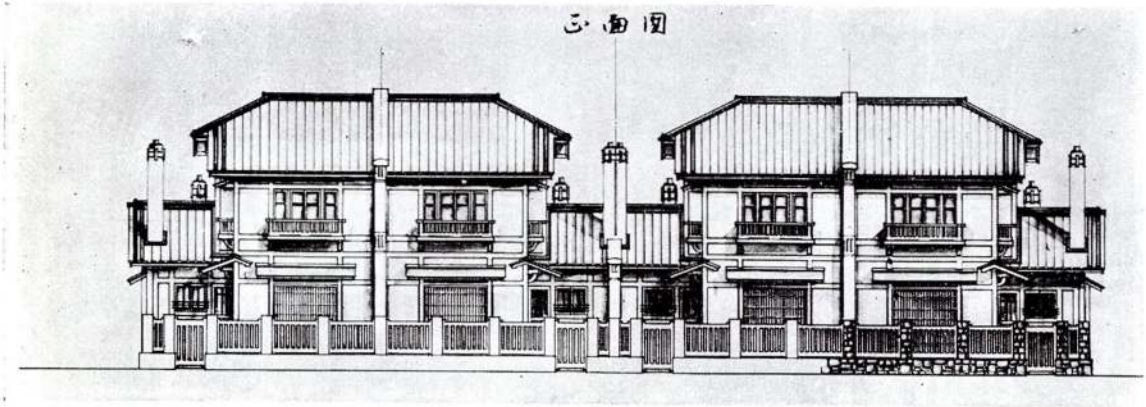


内田信也氏須磨別邸内玄關廣間

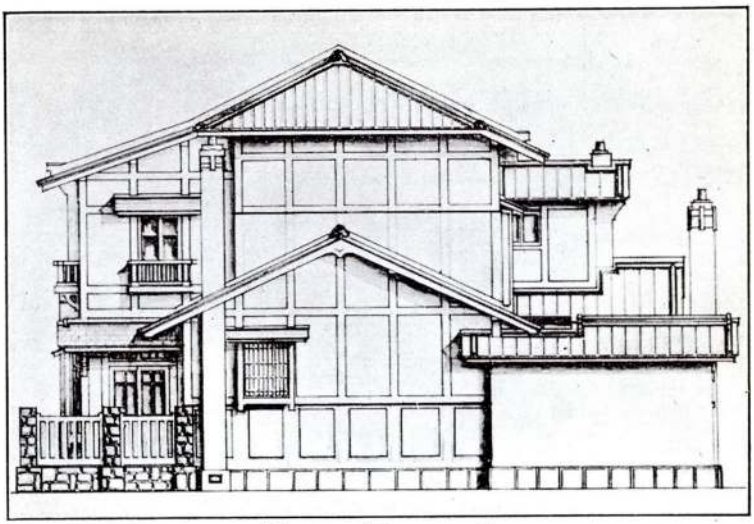


内田信也氏須磨別邸内階段室

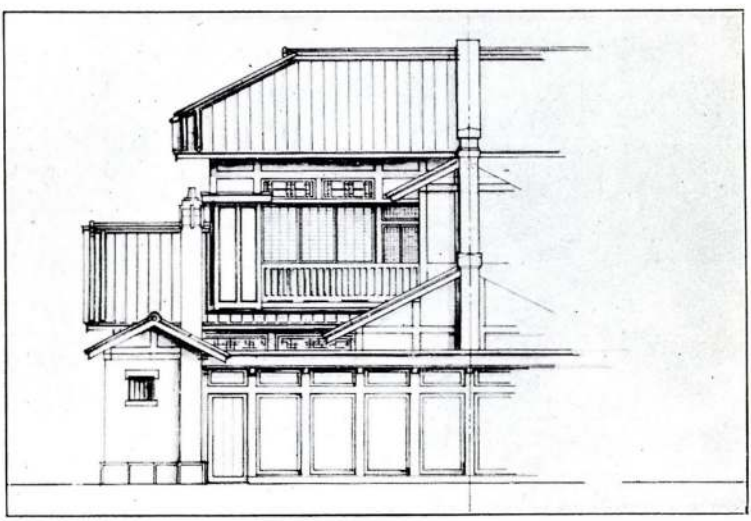
懸賞改良住宅設計案——第貳等第貳號當選圖案の一



第貳等第貳席當選圖案の二

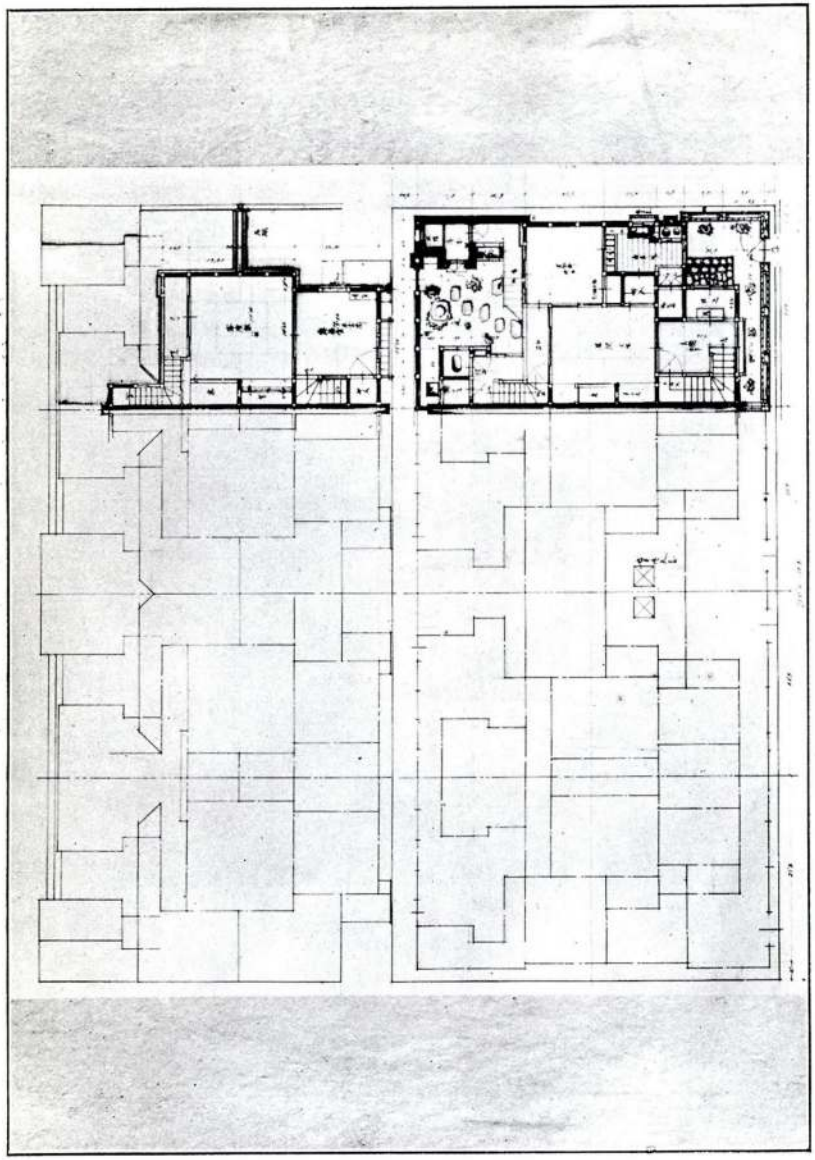


圖面側



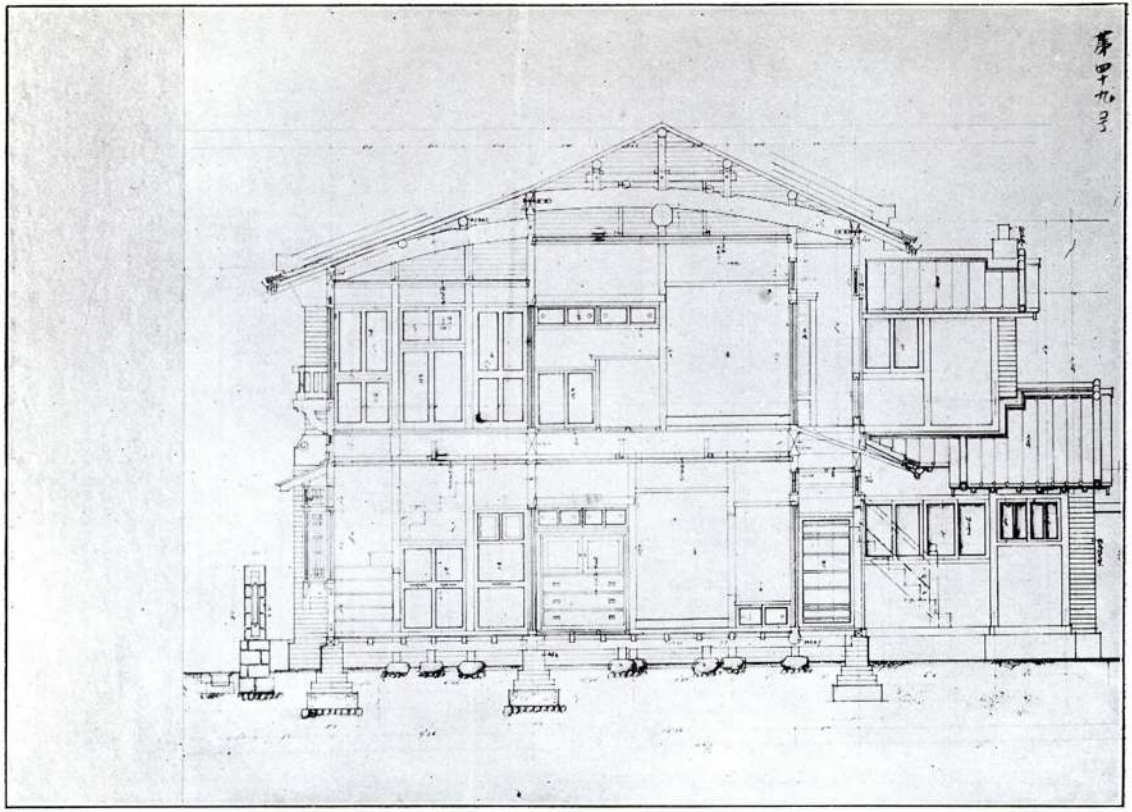
圖面背

第貳等第貳席當選圖案の三



平面圖

第弐等第弐席當選圖案の四



斷面圖



都市生活

人類は徐々に都市棲息動物となりつゝある。故意になすことではあるが、人は猶常に田舎を訪問するのを非常に喜ぶ。人は未だ全く都市に適應することに習熟しない。都會生活は多少健康を害する。都會に移住した家族は代を經るに從つて徐々に少數の子孫を産むやうに成り終に斷絶するに至ることが多い。都會の人口は常に田舎から補充しなければならぬ。併し、イギリス雀は、人よりも善く適應する樣に見える。彼は最大都市の中心に於て氣樂に生活する。ニユー・ヨーク市のウオール街の峽谷は、イギリス雀の生活を困難ならしめる程深くもなく、狹くもなく、又食物に乏しいこともない。此最大都市の摩天閣間の最も深い溝の中央に於て、吾等は此小動物が馬の足の間を跳び、手押車の車輪の下から飛び出し或は數碼を飛んで安全なる塲所に移り、機會が來れば直ちに鋪石の下の僅かな食物の所に歸らうとしつゝあることを見出すであらう。彼れは摸範的都會住民であつて其處でよく繁殖する

（サミユエル・クリスチヤン・シユマツカー氏）

其適應性



都市建築勃興の大勢（下）

會員　片岡安

一　世界的大勢
二　我國都市建築の將來
三　生産力增進の急務（以上既出）
四　材料及勞力の需給
五　建築技能の充實
六　結論

〔四〕建築材料及勞力の需給

建築勃興の大勢に順應する爲めには其材料の供給を豊富ならしめ、熟練なる加工力を普及せしむるを要するのである。然るに我國現時の建築材料生産力は然依として舊態を脫するの餘裕なく、往時の幼稚なる經濟狀態に對しては漸く其需要を充したのであるが、現時及將來に亘り激增しつゝある此の大勢に應ずるの準備に非常に遲れて居るのである。搗てゝ加へて、其材料の形狀寸法に統一を缺ぎ、品質の種別又區々たるあり、運輸諸機關の不整備や、販賣組織の亂雜なる、一として現代

の文化程度に後れざるものないやうな始末である。特に建築勞働者の訓練に至ては實に少しも統一的組織はないのであつて、唯古來の大工、左官、塗師屋等が急に文明式職工に早變りをなし現時の過後時代の要求を充して居るに過ぎないのである。故に今後益其手腕を要する時期に際し依然として舊式の職工が之に從事するようなことで如何に材料の供給が豊富になき心とて、我建築界の圓滑なる發展は望まれないのである。今試みに我建築界に於て緊急に其改善を要する事項の主なるものを擧げて見れば

一　材料の形狀寸法の統一を計ること（一般度量衡の統一とも關連す）

二　建築材料の生產企業を刷新して其擴大を計畫すること

三　建築施工に際して機械力の利用を普及せしむること

四　職工敎育の組織を立つること

等である。而して此等の全体と相關連して建築行政の行屆かざることや、建築技能家及建築に關係ある識者階級の努力尙ほ足らざることが、我國の建築界に於ける改善要項なのである。

建築材料及施工機關の適當なる供給を得ざる我國の狀態は、現代文明の基礎的條件なる都市建築改善の事業を阻害しつゝあとは、寔に明かな事實である。幸にも我國の一般經濟界に堅實なる發展をなし來り、都市建築勃興の機運を釀成し、今や其第一期に入らんとするに際して、上述の如き建築界內容の大缺陷に遭遇し、殆んど其前途を防止されんとするに至つては、吾人は徒らに傍觀し得る譯にはまかないのである。材料寸法の統一の事業は最近建築界各團体に聯合會によりて其端緒を開がれんとするを聞き、聊が意を强むるのあれども、其生產力の充實に至つては甚だ覺束なきもの

あるを見るのである。

我國の建築材料の隨一たる木材は今や其源泉涸渇の著しきものあり、徒らに其使用を容さぬのであるが、又同時に都市文明百年の長計としては極力木材使用を避けねばならぬのである。之を國家の大計に鑑みて社會一般に木造建築の建設を罪惡の如く取扱ふように宣傳することは或は緊急事であるかも知れぬ、木材の製紙其他の工業に消費さるゝものは代用品を得ること困難なるも建築構造は木材の代りに石材、煉瓦、コンクリートの堅實なる代用品なり、しかも其代用品たるや現代の文明が進んで要求するものであつて、木材の使用は却て之を排斥することを急要とするのである。

一般建築材料の豊富なるを企圖し、其需給を圓滿容易ならしむることの緊急なるは言ふまでもなきことながら、其難關の可なり大なるを覺悟せねばならぬ。又施工上熟練なる職工を得て規則正しく迅速に其建設を運行することは材料の供給と相待ち更に之を急要とするのであるが、機械力利用其他一般科學應用の幼稚なる我建築界に於ては、實は中々の難事である。此等に對する一大刷新運動は我國建築界現時の深刻なる要求であると言ふも差支がない。其手段方法等に至つては茲にはそれを述ふるの餘白なきがゆへに、別編に讓ることゝし、唯其緊急なるを說くに止める。

〔五〕建築技能の充實

都市建築勃興の機運に際し其處理の中樞機關たるものは優秀なる建築技術家の技能であらねばならぬ。恰かも軍事行動の參謀計畫に於けるが如き關係であつて、其材料の取捨より施工運用の技巧を背景として其技能を發揮し、現代文化の要求を適實に包容し得るような內容外觀共に具はれるも

のを計畫するを要するのである。又之を藝術的に見れば演劇に於ける役者の如きものであつて、其技能を中心として凡ゆる藝術と科學的設備とを背景とし、以て文藝趣味の精華を發揮すると其趣を同ふるものとも見られる。故に都市建築の勃興に際し其計畫をして有給の効果を收めしめんには其成否は主として建築技術家の技能に待つと言ふも過言ではないのである。

然らば現時我建築界に於て此の勃興の機運に際會して遺憾なく其指導の任に當り得る技術家の多數を有するやと言ふに、不幸にして吾人は未だ以て十分なりと認るを得ないのである。我國の建築術は古來神社佛閣を中心とする彼の傳統的木造建築に限られ、工匠の術又一種の傳統的職業として存在したるものなりしが故に、明治の初年工部大學創設されて泰西の建築學を敎授したるを以て之を其發端と見ねばならぬ。即ち、今より僅かに四十年前に初めて其技術の練習を開始したのであるから、一般に堪能なる投術家の輩出せぬのも當然である。固より凡ての製造工業中其大部は最近三四十年前に其工業の出發点を有するのであるが、其中には、已に可なりの進境に達したものをも發見し得る、然しながら建築術に至つては唯科學的研究のみを以て足れりとするものではなく、殊に其實質と內容は經濟と衛生、利便と幸福等各方面の智識の改善を綜合せねばならぬものあり、又外觀に於ては現代の固有藝術を發露するものでなくてはならぬ關係もあり、旁々一般の工業技術と其趣を異にする復雜至極のものであつて、其有給の効果を收めることの困難は蓋し容易からぬものがあるから、最近四十年間斯道に志したもの丶可なりの努力も未だ以て吾人の現在を滿足せしめ得ないのも無理はないのである。

此處には現時の我建築界に於て技能の充實を如何にして計るべきやを說くの餘裕を有たぬのであるけれども、一言辯明して置きたいのは、建築術の技能は建築學の習得と同一のものでないことである。恰かも繪畫の歷史を講じ其美術的價値を批評し得る能力を有すればとて、必ずしも堪能な畫家となり得るや否や疑はしいと全じく建築學に精通すればとて堪能なる建築技術家とは稱する事は出來ぬのである。畫家が運筆の練習と構圖の工夫を凝らすとは審美學的立脚点より出發するを便利とすれども、必ずしも亦其必要を原則とせざることも認められるのである。建築は繪畫の如き純粹美術に屬するものではなく、むしろ實際的要求を基礎とする点に於て繪畫と稍其趣を異にし、藝術的批判のみを生命とするものではない。而して科學的考索に其實体を置く關係上應用科學に堪能であることが建築技術家には基礎的須要條件であることは事實である。

建築學の研究は我國に於ても近時大に進みたるの觀あれども、其技術の進步甚だ遲々たるものありしは事實である。而して其技術の方面が可なり廣汎であつて、唯建築其ものゝ設計のみに止まらず、あらゆる社會相と相關連し廣き意味に於ける環境の調和を其主要目的とするに至ては、其技能の如何に深廣なるかを想像し得るのである。吾人は此の幼稚なる我國の建築術を如何にして向上發達せしめ得るやを講究して其進路を開き以て現代の要求に順應すべき一大努力を要するのである。

〔六〕結　論

上述の如く都市建築の勃興は、今や世界的一大潮流の如く其建設を急要とするに至り、社會改造の聲と共に社會的運動の一と見ることが出來るのである。又一面より見れば經濟活動力大發展の準

備行爲とも觀察されるのである。最近英吉利に於ける地方官憲の協議會席上、大藏大臣は英本國各都市の住宅建設資金として十億磅の公債募集に努力するの意思あるを說述した如きは、住宅大建設の事業が明かに社會的運動の中心たるを物語るものである。又米國に於て最近都市計畫事業の進捗と共に各種建築の建設頓に其數量を增し、昨年一ヶ年間に三十億圓に近き投資を見るに至りたるが如きは、經濟的大發展に伴ふ自然要求と見ることが出來るのである。我國に於ても最近住宅欠乏の聲甚しく、官民共に其大建設を欲しながらも、從來其準備を怠りし關係上未だ何等實績の見るべきものなく、逡巡其日を送りつゝあるの狀態であり、政府として破天荒の低利資金運用を決意したけれども未だ各都市とてもそれを利用するの狀況にも達して居ないのである。又民間に於ける一般建築は近時俄然として勃興した、其動機は最近の世界的經濟波動に順適せんとしてか、或は一時の流行的計畫なるかは別として、兎に角社會一般に都市建築の重要なる意義を理解するに至りし結果と見ねばならぬ。然るに其建設なるものが果して順調に實行し得らるゝや否やは甚しき疑問となつて來たのである。

我國現時の建築界に於ては上述の如き此の機運の進展を畫策しつゝありやと言ふに、吾人は其然らざるを答へざるを得ない。固より近時の如き物價大暴騰殊に建築材料の欠乏、勞働の不足の甚しき爲めに、あらゆる建築工事が行惱みの狀態に立到り、新規計畫のものは其住宅なると病院なると或は旅館なると事務室なるとを問はず、苟くも經濟的打算の上に立つ建設物は勢其出發を見合すを以て當然の事とするのである。けれども上述の如く我建築界に於ては從來建築材料や勞力の需給に

就て深く之を研究したる跡なきのみならず、現時の如き甚しき狀態に立至るも斯道の識者少しも其善後策或は對應策を講せざるの狀態であつては、現時の建築工事の行詰りは其罪半ば斯道識者の負はねばならぬものであるとも言はれる。建築以外の一般物價の調節が困難なる際に獨り建築物のみ其圈外に立つことは事實不可能であるかも知れぬけれども、實際の內容に觸るゝ時は必ずしもそうとは思はぬのである。材料の寸法が統一されて居り、其生產組織が研究されて居たならば、又計畫者の準備が其大局を達觀したものであつたならば、或は現在の如き甚しき行詰りにまで到着しなかつたであらふと思はれる。

要するに我國の都市建築が今後雄大なる規摸の下に、堪能なる技能に依つて其建設を實行せねばならぬようになつて來たことは、之を大にしては我國の經濟大發展の爲めに、又都市生活の向上の爲めに、喜ばしきことであるが、又仝時に我建築界も大發展の回轉期として吾人の一大覺醒をなすべき時機であることを敎ふるものである。吾人は此際其幼稚な生產組織を改善し、材料と勞力の需給を圓滿豐富ならしめ、貧弱なりし其技能の進展を圖り、以て今後の大發展に順應すべきである。

初期の米國都市　北米合衆國が未だ英國殖民地たりし時代は、其都邑として列擧すべきもの甚だ少く、其性質上（行政上經濟上の）も亦英本國の都市（政府の特許により成立するもの）との間に區別すべき點を見出し難く、ニューヨークの如きも、千六百五十三年の頃より都邑として形成せられ、千六百六十五年英國の都市團體として認められ、同八十六年に、英國政府の特許を得て獨立自治團體となれるなり。



家賃騰貴、都市計畫及土地增價稅（下）

京都帝國大學法科大學教授　戸田海市

本編は我都市問題に就き博士に請ふて高見に接するの光榮を得たるものにして、編中我建築界の特爲に建築上の産業革命を行ふ必要刻々に迫り居る論旨の如きは、最も鑑みて斯界建築界の爲に做す所以也＝編輯者

前號既載

一　家賃の不整一
二　家賃の變動
三　戰爭以來家賃の騰貴
四　交通機關と家賃

五　住居區域擴張費の負擔と家賃

住居問題の解決上我都市は上述の如く建物を高くし、即ち縱に都市を擴張するよりも、寧ろ橫に都市を擴張することに重きを置かねはならぬ。此面積擴張の爲め最先に必要なるは道路と之に附屬する上水下水等の地下工事との建設て

あるか、其經費を何人に如何して負擔せしむへきやは家賃に大關係を有する。元來都市計畫事業に要する費用の大なる部分を其事業に由て特別に多く利益する者より徵收することは正當てあり、又都市財政上にも必要てあるか、此の如き特別受益者の最大なるのは土地建物の所有者特に其計畫事業に接近せる土地の所有者てある故に市區擴張に必要なる道路建設の費用も其大なる部分を擴張區域內の土地所有者に負擔せしめねはならぬ。

住居區域擴張の費用を其區域內の土地所有者に負擔せしむるの方法は大體に於て二種に分れる。第一は從來汎く歐米に行はるゝものてあつて、郊外地所有者にして之を住居區域と爲さんとするときは其土地所有者をして道路上水下水等の費用の大部分を負擔せしめ、其區域に完全の道路を建設した上て各自に建物を建築することを許す方法てある。此方法は彼の消費稅の賦課方法就中原料課稅法に類するものてあつて、區域內の土地所有者か利益を受るを待たす、又固より其特別受益の大さを精確に知り得るに先ちて徵收するものてあるから之を豫納主義と云ふへきてある。此方法の長所は都市か擴張區域を初めより理想的に構成するの經費を得易きことてある。都市計畫上の改善を行ふに付き、既に土地建物の非常に高價となれる中央區域より着手することは財政上甚だ困難てあり、寧ろ擴張區域を初めより理想的に構成することか容易てある。併し此法に由れは郊外地所有者か其土地を住居區域に變更せんとすれは初めより大なる費用を負擔し、特に大なる危險を負擔せねはならぬ。多大の經費を投して郊外地を建物敷地とするも果して其區域か繁榮して將來充分の收入を得へきやは頗ふる豫想の困難なる冒險的の事柄てあるから、郊外地所有者は此方法の下に於ては輕々に宅地經營に着手するを得ない。故に此方法に由れは、都市の舊區域か非常に密住せられ、其家賃か甚しく騰貴した後に初めて郊外地に新築か現はれる結果となり、都市人口の膨脹に從ふて迅速に住居の給供を增加し、以て

密住と家賃騰貴との弊害を防止するには適當てない。從來歐洲大陸中獨逸の大都市に於て、市内の家賃か暴騰せるに係はらす、市内には極めて低廉の土地か建築らせれすして放置せらるゝこと多きは、是れ土地投機者か市外地を買占めて之に建築することを制限し、以て市内の家賃地價を騰貴せしめんとする奸策の結果なりとの說か多く行はれた。此の如き事實も幾分か存在するてあらうか、予輩は其最大の原因か茲に述ふるか如き市區擴張費用負擔制度の缺點に存するものと信する。

第二の方法は先つ都市か道路建設費用を負擔して市區擴張を行ひ、其區域内に建築か行はれて地價か騰貴した場合に土地增價稅を徵收するの方法である。第一の方法を豫納主義と稱するに對し、此方法は後納主義と稱すへきてある。此方法に由れは費用の徵收か公平に行はるゝのみならす、郊外地所有者か建築を爲すには初めより多くの費用を要せす又別段の危險を負擔することを要しないから、住居の需用の起るに從ひ迅速且つ低廉に建築を行ふて之に應し、以て舊區域内の密住と騰貴とを防くことか出來る。今日まて我國に於て都市は市區擴張に關して何等の計畫を立てす、簡々の郊外地所有者をして自由に、從つて亂雜無秩序に其所有地に建築を行はしめ、其區域の人口か相當に增加して交通衛生等の關係より最早之を放任するを得さるに至り、初めて都市は既に甚しく騰貴せる土地建物を買收して道路の建設擴張を行ひ、土地所有者には何等の負擔を爲なさしめすして自由に地價騰貴の不勞所得を得せしめた。此の如き不都合の制度は勿論今後に繼續するを許るさないか併し之を改むるに就て從來汎く歐米に行はれた第一の方法を採ることは不當てある。又我國ては郊外地の所有か今尙ほ小所有者の間に細分せられて居るから、此方法の實行も甚た困難てある。何となれは此方法の下に宅地經營を爲さんとすれは初より非常の費用を要するから、廣大な面積に亘りて大規模に之を行ふことを必要とする。然るに土地の所有か多數者の間に細分せ

らるるときは、一々之を買收せねはならぬのであるか、小所有者の多くは不當の高價を主張し又は其職業の關係より飽くまで賣却を拒絶する者もあるから、之を取纏める爲に更に大なる費用と多大な手數とを要し、到底迅速且つ低廉に住居供給を增加することを得ない。最も所有權細分の場合に於て多數の所有者か宅地經營を行はんとすれは、耕地整理組合と同樣なる都市區域整理組合を組織し、小數所有者の反對を壓して共同經營を行ふの方法か都市計畫法に於て認められてはあるか、此の如き組合の組織は容易に進行するものでない。故に今後の都市擴張には都市自身か道路建設を引受けて行ふことを原則とせねはならぬ。

六　土地增價稅と家賃

土地增價稅は何れの市區擴張方法を採るを問はす、又市區擴張に關係なく都市一般の財政の上より見ても必要であるか、第二の方法を採つて都市か先つ擴張費用を負擔する場合には、土地增價稅及之と精神を同ふする特別賦課を頗ふる重くせねはならぬ。然るに土地增價稅は家賃を騰貴せしむる弊ありとの反對論か起る。即ち不勞所得課稅の性質を有する土地增價稅も、事實に於ては一般の消費稅の如く借家人に轉嫁せられると云ふ反對論かある。直稅と間稅とを問はす一の租稅か實際に轉嫁せらるゝ場合を生すへきや否やは一概に論定し難く、各場合の實情に多大の考慮を費すことを要する問題であるか土地增價稅の轉嫁の起るてあらうと考へらるゝ事情の主なるものを云へは、第一に地價變動の大なる郊外地の宅地經營に投資する資本家は、地價の比較的に安定せる市內の不動產投資者の如く營利に無頓着な者か少なく、概ね銳敏なる投機的資本家であるか、而も尙ほ其投資に對する利廻りは二三步の低率に過きさるを常とする是れ其投資者か後日の大なる地價騰貴を見込み目前の低利に甘んして土地建物を提供するを辭しないからてある。故に高率の土地增價稅を設けて後日の地價騰貴の利益の大部分を消失せし

め、從つて地價騰貴をも殆んど不能ならしめたならば、宅地經營に關係する者は目前の利益を大にするの必要か起つて地代家賃を引上くるに相違ない。併し乍ら土地增價稅もなく、豫納主義の特別賦課も存在せさる從來の我か制度の下に於ては、郊外地か早くより純農用地としての價値の數倍又は數十倍に暴騰して居る。宅地經營者か此の如く高き地價を基礎として採算する故に、其利廻りか二三步に過きないと云ふ迄であつて、之れより割出された實際の地代家賃の額は決して低いものではない。然るに土地增價稅を設くるときは、郊外地か此の如く騰貴することを抑へられるから、之を普通金利に由て經營するも地代家賃の額は高くならぬ。從來の如く郊外の地價か早くより暴騰するときは宅地經營に非常の資金を要する爲め、自然に其經營か行はれ難くなる。固より從來暴騰せる地價に比較すれは甚た低廉なる地代に由り、他人の所有地を借入れて住宅經營を行ふことも不能てはなかつたか、併し一般建築者の人情として、特に關西地方の風習として家屋を建つるには其敷地をも所有せされは滿足しない。一般に此の如き傾向かあるときは、借地の上に建てた家屋は處分か困難てあつて價も低く、投資者には甚た不利てある。要するに地價は從來の如く無制限に騰貴することは大に建築の增加を妨ける。尙ほ今後の都市住居問題の解決の爲めには、都市自身及公益を目的とする建築の會社組合か大に住宅經營を爲すことを必要とするか、從來の如く郊外の地價か早くより暴騰するときは此等公益的の經營か特に困難とならさるを得ない。

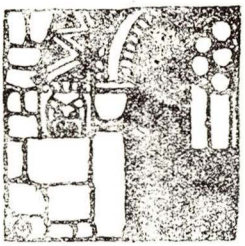
次に轉嫁問題に就て注意を要するは、既に述へし如く從來增稅か最も多く一般家主をして家賃引上を斷行せしむる原因となつて居る。故に今後土地增價稅を嚴重に行ひ、特に定期的に之を徵收するの方法を採つたならは、一般家主か其徵收の度毎に一齊に家賃引上を斷行するの危險なしと云ふを得ないやうてある。係し乍ら家賃引上か全般的に且つ大なる程度に行はれ得るや否やは、家賃に關する需用供給の狀態と無關

係に定まるものでない。市區擴張と新築增加とか盛んに行はれるときは、苛重の土地增加稅を課するも家賃を引上けることは出來ない。而して土地增價稅は都市の一般財源としても重要となるへきものであるか、吾人は茲に都市計畫就中市區擴張の財源として豫納主義を採るへきや將た又後納主義たる土地增價稅を採るへきやを研究しつゝある。

故に此の場合に土地增價稅の收入大なる部分は住宅供給の增加を促進する所の市區擴張事業に投せらるへきことを前提として居るのである。我國都市の財政は甚た貧弱であるから、此際土地增價稅其他の特別受益稅を設けて大に其財政の充實を圖らねはならぬか、都市の財力か此の如くして增加したならは、其人口膨脹に伴ふて迅速に郊外に對し道路及電車の新設延長を行ひ、其沿道の住宅建築を促進することか容易となる。郊外に道路か通し電車か往復すれは、其沿道の土地所有者は土地增價稅の設けられた爲めに將來の利益の大なる部分を失ふも、尙ほ目前の收支計算よりして人口の膨脹に伴ひ盛んに建築を行ふことゝなる特に此場合には郊外地建築か比較的に健實なる投資事業となるから貸家取引上の弊害も少なくなる。故に市區膨脹の重要財源としても土地增價稅は家賃を騰貴せしむるよりも寧ろ之を抑へる力か强いと認めねはならぬ。

土地の增價と不勞所得

土地有所の獨占性質といふことに就て考ふ可きは、斯くて生ずる土地の自然增價が其所有者に取りて不勞所得たるだけ、一般社會即ち國家其他の公共團體に取りては、決して然らざること之なり。何となれば、自然增價の原因は、其所有者の個人的勞作に存するに非ずして一に全く一般社會事情の發展と云ふことに存すれば也。



我慢と辛房と風流を徴象する日本の住居

═現代文明に逆行しそうな住居生活═

東京市社會局長　窪田文三

一

西洋の文明は、多く、改革の文明、進歩の文明である、これに反して東洋の文明は、其の大紙が、我慢の文明、固守の文明である。從つて日本もまた、自由に改革を爲し得べき事も爲さず、不便を忍びつゝも、尙ほ舊慣を固守して所謂我慢辛房の生活を送つて居る事が、實に枚擧の暇あらぬ程に多いのである。

例令ば便所の如きが然樣である。多少心ある者は、何人も、何んとかならぬものかなあといふ位の氣は注いてゐる。ある英國の漫遊者が、日本の家庭生活を評して『何處へ行つても糞尿の臭氣が一はいで、日本人はこの臭氣を平氣で其中に彼等の生活を營んでゐる』と云つてゐたが、如何にも、英國邊りの生活を爲た人から見ると、然樣に感ぜられるかも知れないと思ふた。

一体、便所を穢ない處とする定義は、日本人の辭書に於てのみ發見するものであつて、歐米では御承知の如く『化粧室』と呼んでゐる。便所は穢ない處ではなく、また決して臭い處ではなく、一種の化粧室に相違ないのである。

日本は東京の如き大都市ですら、常に糞尿の

問題に惱まされて、何處の家庭へ行つても、一箇所乃至三四箇所の糞尿壺があつて、しかも其處理が甚だ不充分てあるから、臭氣鼻を衝いて止まずといふ有樣だが、一歩踏出して、歐米何處の便所を見ても、山中とか深林中とかの極く不自由な邊鄙な部落はいざ知らず、苟くも町を成してゐる位の處では、何れも完全に、この糞尿の處理が出來てゐて、下水によつて殆んど一回用を達す毎に、綺麗に運び去られるからして當局者がこの問題に就て、思案投首をするやうなことは絶對に無いといつても良い。我國の如く當局者がこんな問題で頭を惱ませてゐるのは愚といふよりも、寧ろ一種の悲慘である。

一日も臭きを忍び、汚穢を我慢してゐる必要はない、大いに改革し進歩して行かねばならぬ敢て歐米の如く、この便所と同じ室の中に、鏡を据ゑて眞の化粧をする程ではなくとも、今少し何んとか成らないものか。私は當局者が之を心掛くると共に、專門技術家も亦た住宅設計當時に於て、大いに意を注いで貰ひたい事を望むものである。

二

また西洋の文明は、安全第一の文明である、日本の文明は、風流第一の文明である。これは國の狀態及び、古來からの趣味とかで、仕方の無いことであるが、風流必ずしも人類に幸福なるべしとも思はれない。

我々の住宅は、何處となく風流な情味の掬すべきものといふやうな處があるが、從つて或る原始的な危險を伴つてゐる部分がまた尠なくはないのである。換言すれば如何にも風流ではあるが安全第一では無い處が多いのである。その第一が先づ住宅と生活の關係だと思ふ。

或る米國の學者は云つた『日本の住宅はまあ何んとした便利なもあであらふ、實に歐米に於ては鐘と太鼓で探して歩るいても求め得ざる便利を持つてゐる。即ち、或時は家族一同の居間と成り、或時は珍客を迎ふるの室と成り、又或る時は食堂とも變化し、更に寢室とも成る處

の室が多い』と。

腹を立てる前に先づ考へて見ねばならぬ言葉だと思ふ。それは、云迄も無く、如何にも餘りに非衛生的な、非安全第一的な事實である。晝の間、子供等や家族が雜然と談笑した中に、夜の安眠を得る事は誰が考へても面白くないことだ。客を迎へたり、食事をしたりする事を同一にするのも必ずある種の危險が伴ふ。

また或る人は云ふ『日本人の夜具なるものはまた何んとした重寶なものであるか、晝の間は疊み込んで押入の片隅の日も通らぬ處へ藏ひ込み、夜になるとずる〳〵引出して來てずる〳〵と潜り込んで寢る』と。これもまた私共を考へさせる言葉である。

私共の家庭の多くは、寢室を持たない、前に云つたやうに或時は食堂に、また或る時は客室に使ふ室に於て、一日の安眠を得んとするのだ申す迄も無く斯くの如きは秩序なき生活時代の遺物であつて、私共は最少限度に於ても、寢室と食堂だけは、全く獨立して欲しいものである

三

日本人は、一体が、食事を粗末にする習慣がある。『飯などは如何でも良いぢやないか』といふやうな言葉を聞くことは決して珍らしくはないのである。一寸臺所の隅で喰つたり、一寸出掛けに忙かしく室の片隅で濟したりして平氣でゐる。これを食堂へ入る時は一番の良い着物を着て、落付き拂つて食事を攝る外國人に較べると、寔に雲泥の差がある。

食事が既に斯うであるからして、從つて、その食事を料理すべき勝手元が、また甚だ雜然たる非衛生の本場で、色々な品物がごた〳〵とあるのは勿論、ほんの形許りの流し元で、日も碌々通らぬ中で料理をする。しかも狹苦しくて、自由に立廻ることさへ出來ない。更に此處で洗濯をしたり、女中などがお化粧をしたり、一家の者が洗面をやつたりするのだから、實に言語同斷なのである。我々共は、も少し完全な臺所で料理されたる食物を、少なくとも、寢室など

には利用しない食堂に於て、も少しゆつくりと落着いて喰ひ度いでは無いか。

それから、我々はこの食堂と共に、同じやうに輕視し所有してゐない寢室の話であるが、元來が日本は、住宅と空氣の關係、住宅と日光の關係といふやうなものを輕視したゐる人間で、夜寢る時は周圍をぴつたりと閉めつけて、甚しいのに成ると、その內側へまた屏風やなどを立て廻して、夜具の中に潜り込んで眠つてゐる。住宅の構造が構造で、障子唐紙といふ具合だから、先づ窒息はしないやうだが、たゞ、それは窒息をしないといふだけの話で、決して感心の出來ないことなのである。我々はも少し自由に空氣の入る完全な寢室を得なくては成らないのではあるまいか。

四

私が外國に居住してゐた頃、郊外又は郊外附近の生活者が、よく屋外で夜の眠りを取るのを見て、これを眞似て實行したことがある。それは、米國人などが好んでやることだが、住宅へ露臺を造つて置いたり、一寸屋根だけを差掛けたり、或は、春から秋頃迄天幕を庭の中へ張つたりして、その下へ寢臺を据ゑて置いては寢るのである。

海岸や、森林や、一寸した丘の上などに、よく天幕張り生活をしてゐる人があるし、日本人も盛んにやるので私も實に『どんなものか』と思つて眞似をして見たのだ。夜、庭へ寢臺を引出して、天井を天幕で張つてねたのだが、朝起きて見て吃驚した。實に何んとも云へない清らかな心地がして、胸の中がこう明るくなつたやうになつてゐるのである。窒息を仕損じ乍ら眠ることに馴れてゐる日本人としては、一夜の間殊に朝の日の出の空氣を、眠り乍ら知らず〳〵に自由に呼吸してゐるのだから、氣持の良かるべきが當然であつたと思ふ。

外國人は冬に成つても之れを實行してゐる。勿論多くの人は、春から夏中位で、この野宿はやめて室內にするが、冬のしかも零下十二三度

位の氣候の時にでも、實際これをやつてゐる多數の人を見るのである。この室外就寢の良いことは、私の友人の實際の話で證據立てる事が出來る。

其友人はまだ若くはあるが、二十歳代から猛烈な肺結核に罹つて、外國へ行つてゐた時は、非常に悪い樣子であつた。で、先方の醫師に見せると、先づ第一に、この夜に外屋で寢る事を勸められたのである。醫師の言葉であるので、日本人としては甚だ不安なことではあつたがそれを直ちに實行して見ると、實に不思議な位にその効果が現れて、現在では殆んど完全なる健康体で、しかも矢張りこの屋外睡眠をやつて暮してゐる。

五

勿論、何か上の方だけを掩ふものがなくてはいけないし、殊に軀全体は飽迄も冷却をする事を避けねばならぬから、只顔だけ野天に曝すので、この用意は隨分完全を要するが、兎に角屋外の空氣、殊に郊外の屋外の空氣は斯くの如きものであるからして、藥になつても毒にはならぬといふのに、我々日本人が夜の眠りを得る時の樣子は如何か、閉切るに良いだけ閉切り、椽側には雨戸を立て、障子襖抔は勿論のこと、二重三重に家内外の空氣を遮斷する事に力を致して居る。前の外國に於ける天幕生活に較べて實に甚しい差異ではないか。

私は元來、早くから雨戸全廢論者である。が實際家族達が嫌がる上に、住宅其物が所謂安全第一では無くて、風流第一に出來てゐるのだから、泥棒に見舞はれるやうな心配もあるし、内に於ける生活狀態も、矢張り、舊來の行懸り上自分の理想通りには行ひ兼ねてゐるが、あの雨戸なる物の不愉快は否むことの出來ないのである。朝に晩に、きい〳〵から〳〵と音を立てゝそれを一枚一枚戸袋の中へ納めてゐる女中の手數も並大抵ではないのだ。この雨戸を全廢する事は、やがて日本住宅の、大局面展開の階梯に成るであらうと思つてゐるが、此邊は實際の技

術家諸氏の研究に俟たねばならぬ。

それから、日本室の欄間は、私は豫て實に良い思ひつきだと思つてゐる。非常に秘密好きな締め込み好きな日本人が、あの欄間を座敷と座敷との間に設けたのは空氣の流通といふ上から見て非常に良いことで、私はあの欄間の利用をも少し住宅の内部一帶へ押廣めたいと思つてゐる。座敷といふ座敷は總て欄間式にし、或は入れ違ひに出來る例の武者窓のやうなものにして置けば、時に取つて或は外界と空氣が通ずるやうにしたり、或は全然遮斷したり出來るからして、大層便利てあり且つ結構であらうと思つてゐる。

六

外國へ一寸でも行つて生活をして來た人が、日本へ歸つて一番に不便でもあり困難することは、しかも他人の家へ泊つた時などに痛切に感ずるのは、日本人の住宅には一定の洗面所の無い事である。西洋ではどんな小さな家庭でも、或は便所と同じ室にある處もあり、寢室に隣つたり、浴室の一部にあつたりするが、必ず一定の洗面所がある。

であるからして、朝寢床を出ると、一切まごまごすることを無しに直ちに洗面を終れるが、さて日本はと成ると、然樣は行かぬ。多くは勝手元の流し場で簡單にやるのだが、さあ髭でも刷ると成ると大變だ、一家の主人公が臺所の片隅で、女中の鏡を借りてやつてゐたり、椽側へ出て來てやつたり、書齋へ入つたり甚だ困るのである。同じやうに顏を洗ふ處も、或る家庭は椽側へ金盥を持出して來てやり、或る家庭はわざ〳〵井戸端へ行つたり、設備不完全な湯殿の中へ入り込んだりしてやるのである。

朝のこの僅かなる出來事ではあるが、それが一日の活動力の上に、如何に重大な關係を持つて現れて來るかは、決して想像に難くは無い。更でだに忙しい勝手元で、女中の邪魔をしながら、顏を洗ひ、口を漱ぎ、髭を剃つて、さて一日の仕事に出掛けるのと、一定の場所にて完全

に設備を整へた處でそれを終り、さて、家族と共に食事を濟まして出掛けるのと、其處に如何程の差があるか。これは贅澤のやうだが、決して贅澤ではないのである。

日本人は、先進文明國の文化を、その儘に受入れて、これを利用して行く事は頗る上手である、が、しかし我國本來の習慣とか事物とかを英斷的に改革して時代に融和せしむることは甚だ不得手でもあり且つ又注意の足らぬ國民である。從つて住宅の如きは、巧みに歐米の生活狀態の眞隨に觸れて見て、これを日本化して行くことは餘りやらない、否やらないといふよりは遣れないのである。

一日一日と、世の中は忙しく喧しく、文明は向上し發達して行く。此秋に於て、我々は從來の如く我慢し辛棒して、風流第一主義の住宅に安んじてはいけない、須らく文明的進歩的の生活を營むには、先づ辟頭、住宅其物の改良が必要である。心は家に宿る——我々の五の力を五として働かせ、否六にも七にも働かせ我々の心を健全に守立てゝ行くのは一に住宅の影響にある。我々は何處でも良い、寢て食つて生きて居れゝば良いでは駄目に成つて來た事を忘れてはならぬのである。——文責在記者——

建築の本質

建築は美術の一種類である。而して美術を空間美術と時間美術とに分けると、前者に屬し、造形美術の內にて、彫刻、繪畫と列を同じうしてゐるのである。故に、空間美術としても造形美術としても、建築、彫刻、繪畫の三者は、時間美術即ち文學、音樂、演劇の如きものとは大に異つなものであるが、同じく空間美術、時間美術といふうちでも又建築は彫刻や繪畫とは大に趣を異にしてゐるものである。



都市計畫事業と財源

(C)

内務省
都市計畫課長　池田宏

（本編は全氏の講演を記者の筆記せるものによりて作成せり、故に文章上の責任は勿論記者の有する處也）

〔前々號掲出〕

都市の膨脹的可能性

災害と都市膨脹の實例

都市の膨脹性は恒久的なり

其發展は中心を得るに在り

都市の發展を助長するは市民の義務

其膨脹發展に順應するの施設を要す

我邦には世界次都市たる施設無し

不便と不利と浪費を忍ぶ我都市民

都市計畫實行と否とにより生ずる利害

殊に我邦にも其苦き經驗の事實を有す

〔前號掲出〕

奈何にして都市計畫の財源を得べきか

這は單り當局者のみの問題にあらざる也

凡ゆる收入より其財源を繰入るを相當とす

されど其不足ある場合は奈何にすべきか

都市計畫法に於て豫見されたる財源

殊に地帶收用なる一制度を認めたり

地帶收用と特別負担と差增稅は適當な財源

白耳義ブラツセルに於ける地帶收用の實例

▲地帶收用を單純なる財源問題とするは不可

▲地帶收用によつて利益を享くる場合は格別

併しながら、單純に此の地帶收用なるものを以て財源を得るの手段と做すことは、余り宜しくないと想ふ。白耳義に在りては、ブラッセルと謂ひ、リエージと云ひ、其市民は孰も之を財源の手段とせる事を以て誇りと爲てゐるが、是は必要もなきに斯く單純に財源の手段にのみ供すべきものではない。仍で、這回制定されたる我邦の都市計畫法規に於ては、之を單純なる財源問題のみに使ふ事は制限したのである。併し都市の爲に必要であるならば、其制限の範圍内に於て之を用ゆることは差支ない譯である。或國に在りては、此の地帶收用を爲したため其道路の費用の三割五歩位は道路の財源に成り得るといふような所もある。是は、素より、適當な建築敷地を造成するが爲に必要ある場合に限るのであるが、我邦に在りては、ブラッセルのようなことは無論出來得ないと想ふ。去り乍ら、之を以て適當なる建築敷地が造られ、仍つて以つて都市全体の爲になるといふ事と、又其隣接地に土地を有つてゐる人が、隣の土地又は前の土地若くは背ろの土地を併せて適當なる建築敷地に造り度いと云つても、種々な關係よりして容易に協議を纏めることを得ざりし結果、竟には甚だ思はしからざる利用方法を採らざるを得ざるに至ることに想到するときは、其方法の意味よりして是は用ひて然るべきことのように思ふのである。是を用ひたるが爲に適當な市街地が其處に造成されて、土地の分合も意の如く行はれ、斯くて、土地の適當なる開發、宅地の利用、之等の計畫も立つのである。而して、之を元道路沿ひであつた處の者、即ち改道者として特別の利益を受けてゐた處の人、更に換言すれば、斯の事業の爲に買收されたといふような人に、之を相當の値段で以て賣るといふことに於て、此の仕事の財源を得ることになるのである故に、一方より觀れば、道路の出來る前に沿道者として特別の利益を享けし人に對する處の便宜な方法になるのである。

▲第一の特別負擔は正義と公平なる方法也

▲我道路法に於ても其特別負擔を認めたり

第一の特別負擔は、余程以前より外國に於て行はれて居り、道路公園等の開設に方りても常に用ひられてゐる處の方法である。而して、之等は正義の觀念に合し、頗る公平なる遣り方であると思ふ。素より道路の改修の如き、其の結果として、市民全体が等しく福利を享くるのは勿論である。けれども、此の道路に沿ふ處の所謂沿道者なるものは、其道路に相應はしき土地の利用を爲し得べき特別の利益を享くる處の人である。其特別の利益たる何人に依りて與へられたか、或は自分が造つかと云はゝ、幷うでない。實は都市が都市の力で造るのである。然らば、都市の力に依つて自分が特に利益を享くるといふことであるならば、其利益を享くる處の限度に應じて、其利益を與へて呉た處の都市に相當の貢献をなすといふことは、至極當然な事であらうと思ふ。我邦に於ても、今日まで、左樣に當然の事であると思はれる處の制度が確立してゐなかつたと云事は、偶々之等の事業の進行をして頗る鈍らせ、場合に依りては、種々な情弊を見るの因となつてゐた譯であらうと想ふされば、こそ、今回は、人も識れる通り『道路法』に於ても之を採るの途を開き、特別の利益を享くる處の者は、其與へられし利益の限設に應じて負擔する、といふ規定を見るに至つた譯である。是と全く同じ精神の規定が『都市計畫法』中にも現はれてゐるのである。是は、寔に正義であるのみならず、頗る公平であると私は考へるのである。唯之を運用するに方りて頗る注意を要する問題は、此の利益の限度に應じて負擔するの程度奈何、又、其負擔は奈何なるものであり、或は、負擔をする處の範圍は奈何なる區域であるか、といふ事である。仍で、之に對しても、外國には種々な例がある。一番簡單に遣つてゐるのは所謂『間口稅』といふものである其道路に沿ふてゐる處の間口の長さに應じて負擔をするといふ遣り方、而して、其負擔の仕方は道路に沿ふてゐる土地の騰貴額の半分といふ

位まで課してゐるのが多い。併し、間口に依ることは申すまでもなく奥行を見なければならぬ即ち、其利益を享くるのは、其土地を利用し得る處の面積に依つて異ふ譯である故に、奥行を見なければ勿論公平と云ひ得ない。斯くの如く種々の關係よりして、邦々に依り種々な制度を採つてゐる。兎も角も、是は都市計畫の仕事をする上に於て最も屈竟なる財源であり又正義に適へる極めて公平なる處の課稅方法であるとして、殆むど一致されてゐる處の制度である。

▲特別負擔を基礎として立てる財政計畫

▲市民の一人に割當つれば寧ろ輕き負担也

斯の制度は、我邦としては初めて行はむとするのである故に、素より其濫用を愼まなければならぬのである。愼重の上に愼重を重ね極て公平に賦課さるべく考慮を要するとは勿論であるが之等のものは、外國に於ては普通の財源以外に斯の仕事の爲適當なる財源であり、而して、是が一番市民として負擔に任ずべきものである、といふことに諒解され、仍つて以て今日の立派なる都市を形造されつゝあるのである。

斯るものを基礎として、曩に一般論として述べたる如くに、一般の稅なり又は特別の稅なりに於て、市民の負擔に堪へ得る程度に適當なる財政計畫を立て、而して、此の仕事の實行に進むの外はないと思ふ。唯、斯の計畫たるや、獨り現代市民の福利を增進する計畫たるのみに止まらずして、永遠に亘る處の計畫である。吾々の子孫も共に斯の慶に倚る處の仕事である。吾々が先代より享け光輝ある都市に對し、更に改善を加へてより立派に成し、之を吾々の子孫に讓らむとするのである故に、其仕事の効果は勿論我等の後代に移るのである。是は所謂適當なる償還方法を考へ、即ち、今日のような課稅の如きものや、或は特別負擔の如きものや、其他適當なる財源を考へ、或は土地の價格增加というものをも考へ、之を基礎として立てる處の公債計畫に據て遂行する外はないのである。大阪の街路計畫の如きものも、一億數千萬圓も掛ると唱へられある此の計畫も、之を假りに、國の

補助もなく、今のような新しい財源も無しといふ事にして考へても、市民の一人に割當つれば何程の負擔でもないと思ふ。例へば、之を、京都のような餘り褒めるべからざる殆むど大阪には比較することの出來ないような都市の負擔に較べて見て、決して重くはないと想ふのである。又一面から申せば、斯ういふ仕事は都市全体の仕事であるからには、都市を單位とし、總て之を一般税に限り何人も平等に之を負擔して實行するのが可いといふ論も起り來るのである又、左樣な輕い負擔であるならば、左樣な仕事は何でもないといふことも云ひ得るかと思ふのである。去り乍ら、

社會政策の代表的都市

デユツセルドルフ市は模範的田園都市で世界各國都市中で最も多くの事業を經營し最も進歩した都市社會主義的施設に依つて市民の幸福を增進することを講じてゐる。都市の事業に對しては市民は全部擧つて贊成者であつて、曾て反對的態度に出でない併しそれでは市民なり市政者は社會主義者であるかと思ふとそうでもない市の幹部は皆立派な實業家である。市會議員を選擧し參事會員、市長を選出し、そうして種々の社會的の施設に對する處の輿論を作り、之が實行を促す者は皆商賣人たり實業家たる市民である。

此の仕事の性質に鑑み此の仕事に因りて生ずる處の利益、此の仕事に因りて享くる處の利益の程度等を考へ、其外都市の將來の爲に都市に於て適當なる市街の建築敷地を得、道路造成の目的を達成するのに適當なる政策に合致せしむる爲には、矢張り前に述べたような方法を以て、之と調和して行くといふ事が最必要であらうと考へる。又、互に斯樣にして行かなければならぬと考へるのである。唯之等の運用に方りては、各自が克く考へて、折角立てる處の計畫が一日も早く實地の運びとなる事を期待する次第である。

（完）



住家は家庭趣味の容器

自然の應用と滴る親み

貴族院議員　仲小路廉

一

人間、この世に生きて行く上に於て、何處かに、何等かの趣味が無くてはいけない。我々日常の生活からこの趣味といふものを除き去つて仕舞つたならば、それは、非常に冷々としたものでゆつたりとした總ての懐し味も軟らか味も無く成るのである。

さてその趣味——平易に云へばその樂しみを一体何處に求むべきであるか。我輩はかねてから、それは家庭に於て見出さねばならぬものではあるまいか、約り、人生趣味の中心は、家庭其ものにあらねばならぬのではあるまいかと思つて居るのである。

我々は一歩、足を家庭の外に踏み出せば、猛然として獅虎の如くに奮闘努力しながら、歸つては良きファザー、良きマスターとして家庭一帶と共に、一種の家庭的趣味を知り得る事が出來なかつたならば、其處に如何に多くの遣瀬無物淋しさを感ずるであらふか。

二

即ち、茲に於てか、我々の住宅は、我々の清らかなる家庭趣味の容器として、必ずやまた一

つの趣味を發見し得るものでなくてはならないのである。苟しくも人間の住む可き處である以上、單に雨露を凌げば足り、寒むからず暑からざれば足れるといふ譯には勿論行かない。

と云つて、それが金殿玉樓、玉城に均しきものであるからといふことのみでは、矢張り駄目で隨分世の中には此所謂金殿玉樓で、目の覺めるやうな立派な住宅がある。が、しかし、美しく立派で宏大だからと云うても、何んとなく物淋しい、何んとなく冷やかな、何んとなくけば〳〵しい感のする、俗に云ふ『何んとなく居心地の悪い』と云ふ家が甚だ尠なくないものだ。

然樣かと思ふと、又その一方には、然程に宏大でも無く、然程に美しくは無いが、家一帶に說明の出來ない或る親しみがあつて、妙に斯う打ち解けた軟らか味のあるものがある。此處である、即ち此處である、此處に我々は一つの妙味を見出さねばならぬのである、此處におもむきの味を知らねばならぬのである、と我輩は常に思ふて居る。

三

我輩先年歐米を巡遊した時に、佛蘭西から瑞西へ出て行つたが、當時、最も強く感じたのは同地方の住宅の事であつた。一体瑞西の土地柄が、引續つた行届いた、國中に一種の樂しみ趣味といふやうなものが溢れてゐるが、殊に住宅が、よくこれに調和し、よく土地に適して居るのを見た。

それは、よくその境遇に於ける自然の應用が寔に巧みに出來てゐて、贅澤や華奢を極めて居るでは無いが、實に、豊かに自然を取入れて、これを同化した住宅の關係が其處に美事に整つてゐるのである。

この趣味が、歐州大陸の各方面には勿論だが海を越えて、英國風の郊外生活者の趣味と一致して居る。殊に、テームス河の上流に住む人達が、よく周圍の自然を利用して、これを一致し穩やかな生活を營んでゐる處の樣子は、丁度瑞西と同じおもむきの上に生きてゐると思つた。

更に、米國へ行つて見ると、また一層このおもむきを利用し、融和して自分の物としてゐるのに驚いた。多くの人は、米國は只ビジネスの國でおもむきも軟かみもないとのみ思ふてゐるが、一歩、そのビジネス、サークルを出て、所謂住宅區域に向ふと、實に、天地境を異にしたるの感を覺えざるを得ないのである。

四

其處は、寔に趣味のあるおつとりとした心地良い處で、塵埃熱踏の俗地を忘れたるが如く、樹木は鬱々とした綠滴る許りに、殊に家々の、生垣の美しい事は、名畫を見るやうで、住宅の建物がまたこの周圍と名染んだ、矛盾の無い、すつきりとした物に出來て居るのである。

さて我日本の狀況は如何。考へ究め見れば、また多少の感無き能はずである。人々は我日本の住宅住居其他に就て何んと云はふか、何れも苦しい二重生活だと云ふ。この二重生活が非常に我々の日常を苦しめて困ると云ふ。尤もな次第である。

老人もあれば、女や子供や其他の人もあるとすれば、我々の希望通りの生活を強いて行く事は、老人にとつては迷惑な事もあり、非常に冷やかな感を與へて物淋しい思ひをさせる事もあらふ、これも甚だ氣の毒である。從つて、新しいものも必要だとする一方には古いものも必要で、着物にしろ、食物にしろ、住宅にしろ如何しても二重生活の繁雜を續けて行かねばならぬのである。

五

だが、そこに物の工夫があらうと云ふものである。各國に於て殊に前に申した瑞西の住宅趣味が、英國やら歐州大陸の各所また米國の住宅區域に入つてゐるとが、各その國情が異ひ、國柄が異つて居るに拘らず、些少の矛盾もなく行つてゐるのは、要するに巧みなる工夫の力、換言すれば強い趣味の力であるのだと思ふ。

即ち、我日本の住宅邸宅に就ても、工夫の力

で、どうにでも成ると云ふ事が面白いではないか、それが即ち一つの意匠、一つの眞摯なる趣味であると云ふのである。この考を以て、住宅の經營を研めて行けば、二重の繁雜と成る事と甚しき矛盾と成る事を、努めて調和して、面白いおもむきを發見し得るのであらうでは無いか。

人と接する、例へば應接室の如きは、自分許りを中心とせず、それが純然たる住宅であつたにした處で、訪ねて呉れる人の事も考へて、洋式にする位のことをするのは、例へ、日本式住宅の愛好者であつても、來る客も來る客も、疊の上で向き合つて話込むのは、世態と矛盾するのだから、此位の工夫は當然すべきで、そこに便利な、從つて一種の打解けたをもむきが互の間に生きて行こうと云うものである。

六

家族に對しては、家庭としての團欒の樂しみは捨てる譯には行かないのだからして、居室は勿論、その他の事も、總て家族全体の趣味に合ふやうにせねばならぬ。しかして此趣味を保つて行くには、云ふ迄も無く、家族達の健康を飽迄も進めて行かぬばならぬが、それには、先づ第一に何が必要か。

今更事新しくもないけれ共、それは空氣の流通を宜くすることゝ、太陽の光線を隅隅迄も受入れることで、この二つの條件は、何をさて措いても、苟しくも一家の家長たる者の心掛けねばならぬ大切な問題である。家は徒らに廣くなくとも宜しい、『光線の來る家には醫者の來ること無し』といふ言葉を泌々味つて見ねばならぬ。

而して、從來我々は習慣的に、住居即ち家は單に屋根を頂いてゐる處だけだと云ふ觀念を有つてゐるが、これは非常な間違ひといふべく屋根の無い處でも住居だと見ねばならぬ處がある事務所や營業所抔は別だが、住宅は、努めて郊外若くば郊外に近い處が良く、其處で多少なりとも、所謂屋根のある處以外に餘地を見出して

其餘地もまた住宅であると思つてゐねばならぬ

七

で、其餘地は成る可く窮屈で無くして置き、細々しい物などは取片付けて、青々とした樹木や、色取々の花卉などを出來るだけ植えつけて周圍に眼を悦ばせるやうな美しさや優しさを添はせて置く。

少しでも天氣の好い日、殊に春のうらゝかな時や、夏の夕邊などは、多少の設備を整へて置いて、家族達が、屋外へ出で、樹や花を眺めながら、長閑に幾時間を談笑し合ふ事が出來るやうにして置き度いではないか。

こんな事は上流の社會にあつては、思ふ儘に充分に出來るが、中流は勿論、下流にあつても甚だ望ましい事で、到底も上流のやうな譯に、到れり盡せりとは行かなくとも、心掛け一つでは然程に困難な事ではなく、殊に下流生活者はその主婦の心掛け一つで決して面倒な事では無いやうに思ふ。

八

曾つてはスカンジナビヤのストツクホルムへ行つた時に、其街の婦人が、一体にまあ小柄な爲でもあつたらふが、何處となく物優しい、穩やかな、しとやかな樣子が、はつきりと解る位なので、何かしら原因があらうと思つて、注意してゐると、それは勿論土地柄其ものが大きな關係を持つてゐる事は事實だが、一寸した處に實に偉大なる力の潜んでゐるのを間もなく發見することが出來た。

それは、どんな家、例へば極く小さな見窄らしい貧しそうな家でも、一寸した家の周圍の餘地は勿論、その餘地さへもない家は、窓と云ふ窓に色々な花を咲かせてゐる、所謂ウキンドウフラワーの無い家は、絶對に見ることが出來ないといつても可い位で、何れも婦人達が丹精をしてゐるものである事を知つた。婦人達の物靜かさも云ふ迄もなく、僅なる花の久しい間の感化の懐中から生れ出たのである。

『居は志を移す』と云ふ、我國ならば、賤ケ伏

屋と云ふやうな處でさへも、努めて花を愛するのは貴賤貧富を問はず、この習慣的趣味が、竟に婦人を優美に感化した力は、實に恐るべきものであると、其時實に深い感に打たれた。

九

斯の如く、國民的趣味が、國民的不可侵の氣分を造るもので、我國も、今後は都市經營に伴うて必ずビジチス向はビジチス向き、住宅向きは、住宅向きと成るであらうが、引續いて下層社會の爲めにも住宅經營の時代の來るのは明らかである。

かゝる時に於て、上中下を通じ、苟も住居に志を致す人々は勿論、殊に、建築技術家設計家などにあつては、住宅邸宅に對する趣味性の皷吹に努力される事は、今日の如く、人心自から荒廢し、種々な思想が移入して來る時に於て非常に大切な重要なことで、技術家設計家が單純な對人關係に際して、多少此意を致されなといふ一事でも、その感化其影響其恩澤は、實に宏大で、個人から人類へ、總体的に及ぶ影響として、即ち趣味を包含する住宅に就て充分の研究を惜しまれざるやう切望する次第である。

——文責在記者——

歐洲都市の市區改正

今や歐洲の諸大都會は單に將來の建築に向つて改良制度を講ずる事のみに滿足せず、更に現時の不潔なる家庭を破壞して廣大なる平地を拓き以て在來の人家密集超過を整理せんとしつゝあり。グラスゴー市の如きは既に千八百六十六年に於て之を實行し、五萬の住民を有する八十八エーカーの土地を空地となせり。其當初の目的は此區に美しき街路を開設して再び兩側の土地を賣拂はんとするに在りしも漸く千八百八十八年に至り全市の財產に依りて大規模の建築を始めたり。斯る事業に同市が投じたる所は實に一千萬弗以上にして、又其れが爲に生じたる處の所得は六百萬弗內外也。



大都市の建築物 (C)

工學博士 佐野利器

〔本編は同博士の講演を記者の筆記に據りて作成せるものに係り、其文章上の責任は記者の有する處也〕

既掲

大都市と因果關係
都市の有機的生活
大規模にして共同的な事業
大家屋と道路の關係
我國交通機關の發達
都市の地域制度
工業地の經營と其實例

風吹きと算筒屋の古諺
今朝私の口に入つた味噌
都市計畫は絶對的な有機的研究
生活機能の增進は其重要問題
橫面に膨脹する住居と道路の關係
是も聽て能率を增進する要點
昔の道路築造の條件と今の要件
苦き經驗は既に銀座街頭に在り
日本の軌道延長は歐米の三分一
我自動車數は亦歐米に比適せむ
一家に間取を要するが如く
都市にも地區なる間取を要す
紐育に於ける貸工場の一例
小工場の合同的設備の利用

アパートメント

□現代を見さる反對意見
□須らく下層を視察せよ

次に、住居區域内に於ける建築物に就て述べむに、住居問題に就ては、隨分世間に論議され又、誰しも適切に感じてゐる處の問題である。而して、此處には、住居問題其ものを述ぶることを止めて、住居の大規模な共同的のものを欲しいと云ふ希望だけを述べたい。共同家屋の必要は、日本の今日の事情では未だ其必要はないと云ふことを屢々聞く、又、日本の國民性は共同住居を欲しない、斯ういふことを言ふ人達もある。若も斯ういふ疑があり、斯様な考のある人は、今日下層階級に於ける人達の狀態を克く視て頂き度い、必ず其人は共同住居でなければならぬと說を變へることゝ思ふ。又、夫婦だけの生活といふことに就て、之等の人が其住宅に困難を感じてゐる事情を聞き、其希望を訊いたならば、共同住居の經營を等閑に附すべからざる事を感ずるに相違あるまいと信ずる。輒ち若しも疑ふ人があるならば、私は成るべく低い階級の住居を視察して欲しいのである、即ち極少家族の人の希望を訊いて貰ひ度い。

大規模な建造物と火災

□人間の價格は三十三圓也
□火災統計も亦此の流義也

先きには大規模にして、共同的の建築物を造ることに依つて都市生活の能率を增進したいといふことを述べたが、此處に、今一つ都市建築物に就き、殊に大規模な建築物。多數な人に堪へ得る建築物に就て攻究すべき大切な事項があるから、是だけは此處に附け加へて申述べたい即ち、都市の建築物、殊に大規模な建物に於ては、保安上の事を充分考へなければならぬ。更に、保安上の中でも、殊に防火上の注意が肝要である。火災は人命に關して危險であることは別段述ぶるまでもないが、價額の上の損害に就ても諸種の話が出たり又は書かれたものに出てゐるとは、多く間違ひがあると想ふから、斯の

點に就て述べてみたい。是は唯考へるよりは、非常に多大なものであり、非常に大きな損害である、といふ事を申述べて置き度いのである。私は、曾て或人から『福音時報』(福音新報?)といふものを贈られしが、其中に人間の價値といふことが書いてあつた、何の氣無しに讀み以て行くと、『人間の價値は三十三圓也』と出てゐたそれより内容を覽ると、炭素が三封度二十四圓鐵半封度、砂糖五封度一圓、毛髮半封度、塩四分の三封度で三十錢、硫黄一封度半六十錢、燐一封度四分の一で五十錢、骨二分の一封度で二圓三十錢、脂肪十五封度で二圓三十錢、合計金三十三圓が人間の價値である、と出てあつた。而して、火災統計の價値は當に是である。即ち日本の火災統計を覽るに、一年に人口一人當り二十三錢位と出て居つた。尤も、是は最近の統計ではないが、戰爭の初から中途迄の統計で、今日の物價で云ふならば、先づ一圓位と云つて可からう。但し是は建築物だけの値段で、家具は這入つてゐない。家具を入れたならば、まだ多額となる筈である。扨うしても、是は位置の考がない。又、建築物の使用の價値が含まれてゐない。田舍であらうが町の眞ん中であらうが何處であらうが、其處の關係がない。唯、先きに述べた毛髮何封度流儀で、此の建物を造るのに幾等掛つたとか、此の建物の現價値は材料を時價として何程になるとかいふので、恰當、人間の價値三十三圓儀流の値段である。火災の統計として現はすには、或は已むを得ぬかも知れないが、是では統計表を覽た者の方で、大に價値を加へて考へなければならぬ。若し、大阪の繁華な土地に火災があつたと考へてみたならば其損害として、家の物質上の値段だけを計上して可いであらうか什うか、私は是れ以上述べる必要はないかも知れぬが、一年中には絶へず暴風がある、二十米突三十米突といふような暴風は少いことではないのである。又、小火は比較的頻繁に起つてゐる。此の小火と暴風との結合が旨く行つたと云ほうか、行かないと云ほうか兎に角結び付いたならば、大きな火事になるこ

とは譯はない。吾々は絶へず斯の機會を有つてゐるものと思はなければならぬ。扨うすると、町の眞ん中で五百戸や千戸の火事を起すことは譯のないことであると考へなければならぬ。今若し大阪の町の眞ん中で千戸燒けたと假定したならば、什うなるであらうか、今の値段位だけを統計に擧げることは出來得ないのである。第一何處へ避難するか。是からして差支を起すであらうと想ふ。何處で奈何なる營業を爲すかといふ事ではない、何處へ避難して何處で寢るかが適切な問題になつて來るであらう。大なる使用價値を計上してみたならば、非常に巨額なる價格と云はなければならぬ。都市の建築物は凡てに防火的であれといふことは望ましき事であるが、特に大規模の建築物に於て、それが絶對的必要であるといふ事を附け加へて置く。（畢）

✣獨逸の市街地政策✣

獨逸市府に於ては輓近出來得べき丈土地を購入し、一面に於ては市は自然增價の爲に利益し、他面に於ては投機者流の買占の弊を妨ぎ、土地整理局を置いて特別會計を設置する者多し。フランクフォルト市に於ては、西曆千八百九十六年初めて同局を開設し、建築の事業を兼攝して、千八百十一年四月には三千六百二十エーカとして其代價一億千四百四十六萬一千馬となれり。特別會計の資擔も漸次增加し既に約五千九百萬馬となれり。然れども產財價格（主として土地）も亦大に增加して約一億二千三百萬馬を計算す。



建築物に對する防火帶又は防火地區の設定

豐國火災保險株式會社
專務取締役　大谷順作

□ **防火施設は國防上の問題なり**

□ **一都市の燒土に歸するも大局の問題に非ず**

□ **艦艇飛翔よりも一臺の航空機**

都市問題中建築物の防火設備といふことは、可成り古く論ぜられ來つた問題であり、殊に、理想としては、建築物の絶對防火といふことが必要であるけれども、せめては、燃燒を緩漫ならしめて、可及的損害を少なからしむる方法奈何といふことも、亦攻究されつゝある處の問題である。而して、其就れにするも、惟ふに斯の問題は、單に箇々の建築物に關し、又は一都市や一地方の利害に關して考察すべき問題でなく、實は、我國防上に關する處の重大なる案件に屬するのである。蓋し、縱しむば、不幸にして一都市全く烏有に歸したとしても、成る程其罹災者としての損害は、寔に酸鼻に値ひすべきものあり、又、其一都市としての凡ゆる打擊は想像に剩りある程爾く痛心に禁へざる事實ではあるけれども、之を一國としての大局より觀察したならば、必ずしも未だ以て酷だしき事件なりとは謂ひ得ない。

されど、一旦び我國家の生存が破壞され、若くは、少くとも國家の存在が脅かされん歟、云ふまでもなく這は我等の生存を奪ふ處の根本義な問題であつて、茲に初めて、火災といふ事が國家的に大局の意義を生じて來る次第である。

而して、其印鑑は、既に彼の歐洲戰亂に於ける同盟國や又聯合國の航空機が互に敵國の都市を脅した事實に徵しても、防火問題が奈何に國家的なそれであるかといふことを首肯し得られるのである。蓋し、比較的牢堅にして、而も耐火的に出來上つてゐる處の彼等都市建築物も、斯くの如く敵機の爆彈投下によりて、艦艦貔貅の攻擊よりも、僅に此の幾臺かの敵機に一大恐怖を起さしめたのである。さるに、顧みて、我邦殊に我都市に於ける建築物の殆んど比々可燃性を帶び、恰も、幾條かの導火緒を交叉せるが如き狀態に在る我建築物は、一朝有事の際、爆彈投下によりて一耐りもなく我都市の機能を制せらるゝは勿論、若も其一地點に發火せん歟、此の交錯せる導火緒を傳ふて、終に、全市を燒土に歸せしむるの慘事は、既に其發火の原因こそ異れ我邦に於ても屢々經驗せる事實である。

而して、其都市の機能を制せらるゝ事は、軈て國家其ものゝ機能を制せらるゝことゝなる。何者、假りに之を我大阪に於ける事實なりと觀ん歟、今や大阪は我邦の經濟的動脈であるが故に、一旦大阪の機能が制扼さるゝとせば、我邦の兵站は竟に其咽喉を扼せらるゝの結果と成り又、不祥にも之を東京に於ける事實なりと觀ん歟、政治の中心地は竟に脅威を蒙らざるを得ざる事と成りて、云ふまでもなく、我國家其ものゝ生命に危惧を感せざるを得ないことゝなるであらう。

都市計畫の實施と防火線の設置

幹線道路の兩側は防火的建築物

理想は防火地帶又は地區の設定

茲に於て、我邦の防火的建築物といふ事は、都市計畫中重要な意義を有することとなる。即ち單に損害の數量問題でなく、又、都市自体の保安問題でなく、況て、個人の災害問題のみでなく、實に斯くの如く都市の生命と共に國家の生命に關する問題なる以上は、都市計畫中でも、最も重要なる地位を有する處の案件たらざるを得ない。されば、這回具案されし我大阪都市計

畫は、果して何邊迄斯の問題を解決されあるかが問題であるけれども、吾人は、此處に一つの提案がある。それは、今次の我都市計畫に於て幹線道路となるべき例へば淀屋橋通りの如き、坪一千圓餘も値する處を買收する以上は、理想として、其両側に建設さるべき建築物は、所謂聳峨たる大廈の櫛比するを期待し得られるも、せめては、其両側、止むなくんば、其片側だけなりと防火的な建築物と爲たい。是は、若も其両線の後方に於ける何れかの地點に於て祝融の災害に罹らん歟、奈何に延燒するとも、件の線に於て喰ひ止め得られ、此處に一種の防火地帶を拵へることゝなる。又、更に理想としては、將來の築建物は或一地區毎に防火地帶を設けて萬一の場合には止むなくば其處を延燒に委すとも、唯風向による飛火を防ぐ事に努力さへすれば、損害は其一地區に止まり、他に災害を及ぼさない、即ち奈何なる場合でも、其都市全体又は其部分の運命に關するなき事、恰も軍艦が防水扉を設け、萬一の場合に一部の浸水にのみ止らしめて、艦全体の運命を保障せむとする設備に等しからしめ度い。大阪の如きは、其南北の延長に於て、幾多の河川は自然に防火帶を成しあるも、東西の延長に於ては、僅に例外を除く外、延焼導火緒を引き周はせる如き可燃性家屋の連續爲てゐるが故に、一層防火地區の設定が必要である。而して其防火帶は又は防火地區の設備は、建築物の或一隙風毎空地を設くにも可なるべく、或は、完全なる防火壁を設くるも一方法であり、幷は建築技術上又は消防行政上の問題であつて、其處に最善な方法のあるべきを信ずるが、兎も角斯る大方針の下に都市の防火施設を具へ度いものである。

□火災保險料率と危險率の關係

□大阪の船場と外廓の建物の料率

□都市計畫の實施期と防火問題

次に、火災保險の關係に於ては、今日の火災保險料が一般に比較的不廉なりと稱せらるゝ所以のものは、所詮、我邦に於ける建築物の有せ

る危險率が高いからである。往昔は屢々祝融に惱まされて、自然の要求は、我大阪の船場の如き土藏造りの家屋を見るに到つたが、近來增々膨脹せる大阪は、其自然の結果として、少數な例外を除く外、纔に船場に名殘りを留めて、他は孰も防火性の殆んど缺けてゐる建物許と成つた。隨て、火災保險料に就ても、船場は比較的廉いのは、危險率と料金のよき証明である。火災保險の當業者としても、理想はヨリ廉き保險料を以て可及的多數に危險保障を爲度いのであるが、現在に於ける日本の家屋殊に都市の夫れは、保險料の不廉なのも亦餘儀なき次第である斯る個人的關係即ち個々に對する火災危險の保險を普及せしめ、各人生存の安全を期するといふ上に於ても、我邦殊に都市家屋の防火的改造か、然らざるとも、防火的設備を上述の方法によりて爲すことは、蓋し今や都市計畫が實施期に入らんとする斯の機に於て、眞面目に攻究實施さるべき案件ではあるまいか。

（文責在記者）

※ 火災保險行政 ※

火災保險發達の第一歩は都市の政令に依りて始められたり。但し或國に於ては、中央政府の行政事務の一部をなせるものなきにあらず。中央歐洲大陸の記錄に現れたる火災保險の最初の形式は千二百四十年のフランダー政令に依て發布されたる法律あり。該法律は火災に因て住じたる損害は、其火災の起りたる地方全體の負擔に於て復舊するを要すと規定せり保險局の初めて設けられたるは、千三百十年に於いてブルジュ(Bruges)に開かれたるを嚆矢とす。



居構百選（其五）

會員　葛野壯一郎

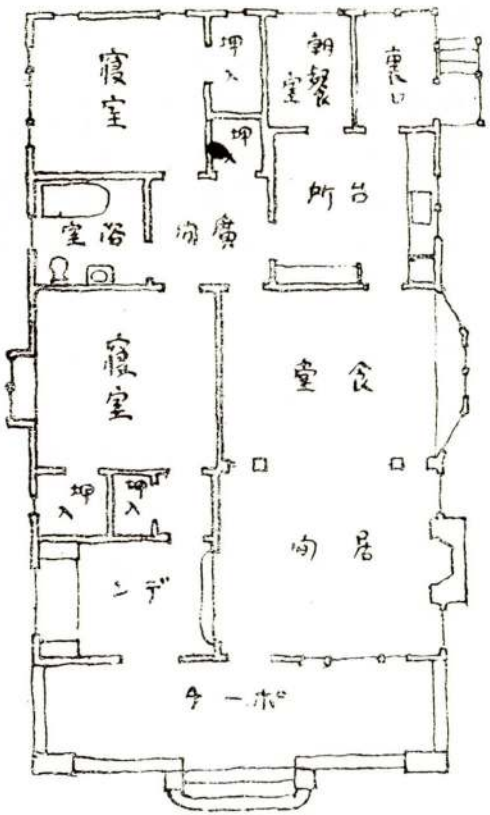
拾壹　バンガロー（その貳）

米國　加州

第拾參圖に示すものは前例之樣、ロスアンゼルス、インヴェストメント社提供の七室平屋建の例で有ります。總建坪四十參坪弱此工費五千七百圓乃至六千三百圓とありますから、一坪當りにすると百參拾參圓乃至百四十七圓となりますが、是も亦戰前の相場で現在の標準にはならないとしても兎に角著しく安價に出來得る建築で有るといふ事は明白で有ります。

約十疊餘に相當する食堂及びリヴィングルーム約八疊敷に相當する二箇の寢室、約七疊敷に當る臺所の外に、少いさな朝餐室及びデン即ち讀書室をも具備した非常に巧妙な配置で、前面はバンガロー獨特の巾八尺を有する吹抜のポーチ即ち廣椽から昇降する樣に出來て居ります。何等著しい外壁の出入無く何處までも簡單に而して便利に、實用本位で少しも無駄な部分の認められない簡易住宅としては最代表的のものだと考へられます。ポーチ床は煉瓦敷、食堂居間及びデンの床はオーク板張り、書棚食器棚等それ々々必要の家具は凡て取付の式で出來て居ります。工費が割合に安價で有るといふ事は、要するに間取及構造が簡單で有るからで有ります。

（プラクチカル、バンガロース。千九百十三年



（第十三圖）

有りますが、敷地の都合だの居住慣習等から貳階建或は中二階建としたものも、全様の意味で設計せられたものは矢張りバンガローと呼んで居るので有ります。

總建坪三十九坪此工費八千四百圓乃至九千四百圓即ち一坪當り二百十五圓乃至二百四十一圓と有りますが大戰前の建築相場に屬する事は是亦前全斷で有ります

食堂居間共何れも大サ各拾貳疊敷位、臺所が約八疊デン即ち讀書室が約六疊敷に相當するので有ります。平屋建で有ると二階建で有るとの如何に拘はらず、建物の前面に廣やかなオープン、ポーチを持つこと、食堂及び居間がブッ通して家の主要なる中心部分を形造る事は凡て一樣で有ります。（前全斷）

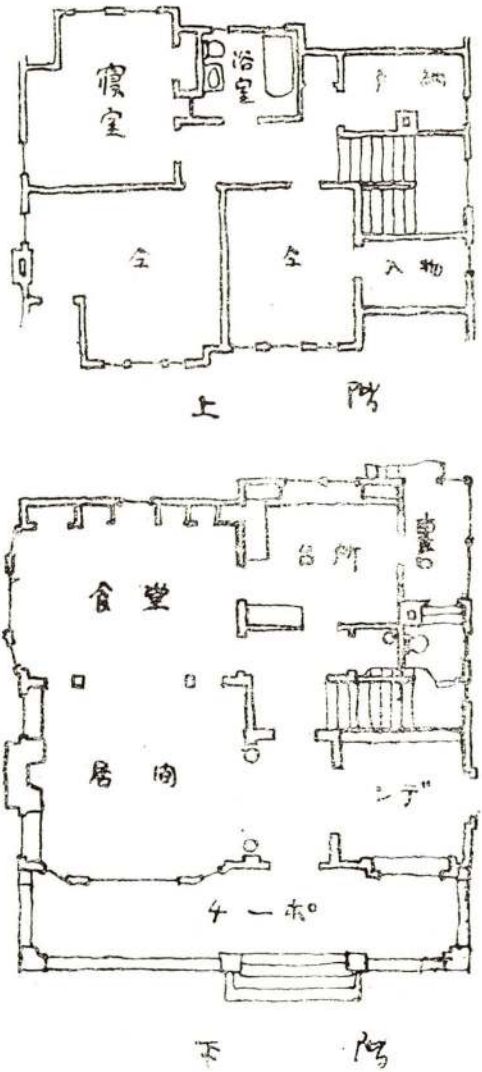
拾參　六戶建小住宅

版。）

拾貳　バンガロー（その參）

米國　加州

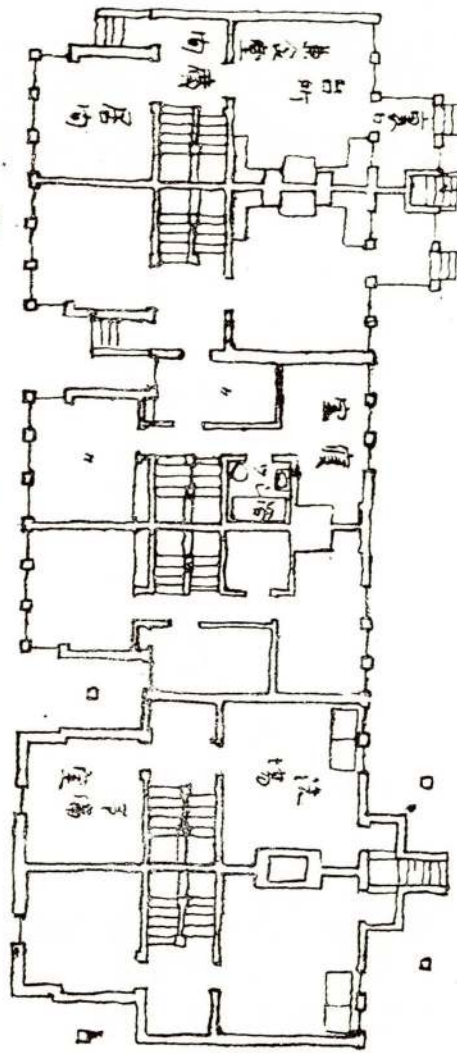
第拾四圖も前全樣ロスアンゼルス、インヴェストメント社提供のバンガローの內で中二階建の一例で有ります。第拾に於て述べた通りバンガロー本來の性質は平屋建を本旨とするのでは



（第四十圖）

米國　シカゴ市

第拾參圖は中部米國に於ける職工向住宅の代表的のもので、設計者はフランク、ロイド、ライト氏で有ります。詳細の説明がないために其大サ工費等に就て述る事は出來ないが設計者は我邦の事情にも精通したと稱せらるゝ、シカゴ市に於ける有數の青年建築家で、西部に於けるバンガロー風に對照して著しき特異の点を持ッた、中央西部即ち重にリイノイス州獨特の水平線を誇長し、出來るだけ切妻や破風を避けた、屋根の勾配の最緩な、窓の多い明るい『プレリイ、スピリツト』とも稱す可き特種の樣式を具へたもので有ります。



（圖五十第）

總地下室附貳階建で、地下は洗場と豫備室、階下は居間と食堂兼臺所、階上には大少三箇の寢室と浴室を具へて居ります。間取の簡單な事は勿論、居間にしても寢室にしても充分な窓を取つたと處は、吾々にも非常に心持よく感ぜらるゝ設計で有ります。二階浴室に全然外光が無いといふ事は稍不快を感じないでも無いが、適當な屋根窓等を設くる事によツて其欠点は或程度まで補える事と考へられます。（フランク、ロイド、ライト氏建築圖集。）（未完）



日本庭園考（二）

特別賛助員
農學士　大屋靈城

二　日本庭園の起源

何事によらず其の起源を闡かにすることは甚だ困難な事で漠然として居る間に生れ出でたものが多いが庭園も其の例にもれない。

我國の庭園が凡そ何時頃から起つたかと云ふ問題に就ては先輩の研究も多々あるが區々として一致しない。私は其の起源を說く前に今日の所謂庭園と云ふものゝ意味を說明して置く必要がある。

庭と園　字義から云へば庭はニハと云ふ言葉に當てた字でもとイミバ（齋場）のつまつたものである即ち神の祭祀を行ふ至つて清淨潔白な地域である。又漢字の庭とは門から玄關迄の地をさすので今日の前庭にあたる。

園はソノと讀み背野（ソノ）と云ふ意味であるから勢ひ後園即ち臺所用の果物や野菜を育てる場所を云ふので庭とは全く其の意味を異にして居る。庭園と云ふ言葉は後に成つてから日本に於て編み出したものであつてつまりこの二つの文字を組合せたものである。

然らば今日まで云つて居る庭園とは庭と園とを一緒にしたものかと云ふと必ずしもそうでない座敷や玄關前の如き美を主眼として作られた地域は庭園と云ふが蔬菜畑のような生産を目的とした地域は譬へ屋敷内にあつても庭園と云は

ぬ場合が多い。勿論屋敷全部が風致的に設備された場合には其の中に蔬菜畑があろうが果物や花畑があろうがそれは庭園と云へる。この場合の各畑は一つの造庭材料又は添景としての意味に用ひられたものである。

これは字義の上から説いた論であるが一般に庭と園とは其の仕事がよく似て居るから一緒にして置く方が便利である。従つて判然と區別しないで庭園と云へば泉水も露地も蔬菜畑も果樹園も皆含んで居ると云ふ風に解した方が穏當であらう。然し學問上から云へば庭園とは

誤樂、觀賞又は裝飾の爲に風致的設備を施した地域

を謂と云つた方が正當である。従つて蔬菜園果樹園花畑の如きが生産的に營なまるゝ場合にはこれを庭園と看做さぬ、これに反して公園でも神社の境内でも運動場でも風致的に設備された場合は庭園と看做される。

園の起源

大抵の國では生産を目的とした園の起源と風致を主とした庭の起りとは全く別であつて我國でも園はずつと大古神代の頃からあつたが、庭と云ふものゝ起つたのはそれよりずつと後の事である。

これは衣食足而知禮節と云ふ風に人間は先づ生活の必要品を作る事を覺ね衣食に不自由が無く誤樂を求めると云ふ事が如何にも眞理であることを語るものである。

小澤圭次郎氏の園苑源流考中に

『一日伊勢神宮司廳に於て皇學の耆宿御巫（ミカナギ）翁に會晤したり翁余に語て曰く

伊勢の國度會郡宮川の上に神薗村と云へる所あり此地は山温水軟にして風景頗る清淑なり茲に一社あり園相神社と稱す往古倭姫命大神の宮地を尋ねて此所を過ぎ園作神に出會給ひ乃ち此地に奉祀して園相社を定給ひしと云ふ是則ち皇國園作りの權輿にて此社は今尚内宮攝社の一なり』云々

と。此説の如くならば既に神代の頃園藝に秀でたる技能を有せし者ありて蔬菜や果樹の播種培養の方法を傳授し神と崇められたるならんと

想はる。其後皇室に於ても上古より園部氏と云ふものを置き園池の事を掌らしめ果樹、野菜を種殖し禽獣魚龜を蓄養してこれを收斂し宮廷の供御にあてたる事は歷史に明記するところである。以之觀も我國に於ける園の起源は遠く神代に發せること疑ひを容れず。又其の手法に於ても朝鮮支那等の法に倣ひて興りたるものには非ずして本邦獨特のものなりしこと明かなり。

然るに平城遷都の後に及んでは皇室に於ても宴遊の興行なはるゝに至り單に供物としての果物、野菜、魚龜を生産する園池のみを以ては滿足出來ぬことゝなり或は船遊びの池も出來或は山遊びの山莊も營なまるゝことゝなつた。

庭の起源

庭は即ち此の頃から初めて起つたもので全く佛敎の傳來と共に支那朝鮮から輸入されたものである。

大古は遷都が屢々であつた爲に建築に於ても一定の屋制を見ず從て庭も形を成さなかつたが應神天皇の御宇には韓の建築法が傳はり皇極天皇の頃に成つては唐の建築法を用ゐ聖武天皇の頃に至つては一般庶民の間にも瓦を以て屋根を葺くと云ふが如く韓、唐樣の方式が盛んに行なはるゝ樣に成つた。從つて造庭の術も彼國の風に習つて興り寢殿式と云ふ如き一種の樣式を形成するように成つた。

今記錄に遺つて居る日本で最も古い庭の二三を擧げて見ると紀元一一四七年「顯宗帝三年三月幸二後苑一設二曲水宴一」と云ふ記事が天皇紀にある。これは天皇の禁苑であつたから如何樣に作られて居たかは分からぬが其頃既に庭の設けがあつた事が分かる。

次に紀元一二八六年推古天皇の三十四年蘇我馬子の事を記した條に「性有二武略一亦有二辯才一以恭敬二三寶一家二於飛鳥河之傍一庭中開二小池一仍興二小島於池中一時人曰二島大臣一」とある。蓋しこゝに記された島と云ふ意味は樹木を植込んだ塲所のことで明らかに庭の樣式を保つて居たものに相違ない。

其後元明天皇の頃都を奈良(平城)に遷されてからは宮中にも種々の御苑が出來聖武天皇の南

苑、松林苑の如き齋明帝の吉野離宮、天正帝の紫香樂離宮、味原離宮の如き其の頃の名園であつた。

又臣下の庭としては橘の諸兄の井手の別業、相樂の別業、藤原の不比等の淡海公山池の如きが有名であつた。殊に井手の別業には山吹の花が一ぱいに咲きこぼれて居たので天皇の行幸が屢々あつた位である。

こんな風に庭の起りは園の始まつたよりも割合に遲れて今から約一千四百年以前にある。而も既に其頃は佛敎が我國に這入つた後のことであるから我國の造庭術が外國から傳はつた事は明らかである。

然らば何所の作風が我國に傳はつたかと云ふとそれは勿論支那、朝鮮の風であろう。然し支那、朝鮮も亦決して自國でこの造庭の術を編み出したのではなく佛敎が印度から支那へ這入つたと同時に造庭術も印度から傳はつて來たに相違ない。

印度の庭園

印度では今を去る二千五百年前既に恒河地方を中心として文化の程度は大いに高まつて居た。そして都城も立派で今日の公園に類するものや公衆の浴場や市場等も澤山あつた。彼の釋尊が降誕した臘毘尼(ルンビニー)(Lunbhini)の聖地の如きは正しく公園であつた。

其の母摩耶夫人が咲き亂れた花を折らんとした事や其の附近の泉水で產兒湯を浴せたと云ふ記事から察しても如何に池水澄清藻花尙香の地であつたかが判る。

尙竹園精舍の建立された竹園(Venuvana)や祇園精舍の建立敷地となつた祇園(Jetavana)の如きは其頃最も有名な園池であつた。

就中祇園の如きはもと祇陀太子の所有した林苑であつたが須達長者がこれを讓り受けんとしたけれど太子が仲々肯せなかつた。長者が頻に乞ふので或時太子が戲れに彼の園地に黃金を敷き詰めて與へたらば讓らんと云はれた。然るに長者は其の言の如くしたので太子も終に止むなくこれを長者に讓られた。

そこで長者はこれを釋尊に寄附し太子も亦園

内に樹木を寄進して有名なる祇園精舎が建立さるゝ敷地と成つた位の名園であつた。

其他印度に名園が多かつた事幷に造庭の術が盛んであつた事は色々の經文や紀行文に據つても推知せらるゝが、要するに其の手法に於ても確かに日本式の庭園に類似した自然式のものが多かつた樣である。總て我國の庭園術は初め最も多く印度の風に學んだもので、これが支那、朝鮮を經て傳はつたものであろう。

しかも氣候風土の關係上支那や朝鮮とは殆んど無關係に獨特の進歩と變化とが行なはれて今日の如き樣式を案出するに到つたものである。尤も亭や橋梁の如き建築的施設には支那の意匠が其儘寫されて居るのも少くない。(續く)

□行く春や　　烏　巴

竹の伏水となりにけり

□吉野出て　　宋　屋

虻のはなれぬ袂かな



新都市の建設

江村郊郎

綠野に紅紫を追ふて、花房に秘める野蜜を探ね、幾里の遠きも徨遙倦まずして蝟集するのは實に蜜蜂の本能である。『自然』の親みに、人生の赤裸を味ひ得べき偉大な環境には左しての感激もなく、物質文明の華麗な燦きに、只管物の飽滿と、野心の充足を需め、恰も『都會』てふ誘蛾燈の光りに憧れて、享樂爲足の都市民化せんとするのは人間の傾向性とも謂ひ得よう。

而して、亦、人間の他面に於ける傾向は、即ち『活動性能』である。人間は何かを爲すべく出來て居る。孤獨は人間の共同性に反するのであつて、無爲は畢竟孤獨である。されば、斯の活動的性能と、之に順應すべき境地又は其他の手段を慾めて、其可能的な方面に开が慾求を伸ばさむとする自然の傾向であつて、人口の都會集中が、近世都市の著しさ現象たる所以亦茲にある。

實に、近代に於ける人口の膨脹は、其增加率の急激なるを今更事新らしき問題にあらざるも、試みに之を概說せん歟、先づ、都市人口の狀況を歷史的に觀ば、紀元以後に於て、其以前より君權的世界の覇を稱せし羅馬の都市は、約八十萬の人口を有せるを以て空前の膨脹なりと做し羅馬、一旦亡ぶや、歐洲都市の人口はコンスタンチノーブルに覇を留めしも、尙十萬を超へなかつた。而して、今より僅に四世紀以前に於

ては歐洲の都市中多衆を包容せるを以て異數の矜なりと做せるもの尙且つ十萬を出でずして、而も僅々兩指を僂するに足らざる程であつた。

斯くして、都市の人口膨脹の趨勢を急激ならしめたるは、實に、茲約二百年以來の事にして、近代一層其傾向を顯著ならしめ、寧ろ、加速度的に增加するの趨向を示してゐる。即ち第十八世紀後に於ては、歐洲大都市の數は二十二箇都市に增加し、殊に第十九世紀に入りては、十萬以上の人口を包擁せる都市、實に、一百二十、其包容人口は當時歐洲全人口の約百分の十即ち三千七百萬を算するに至つたのである。

わたくしは、更に、近代人口の膨脹を少しく數字的に觀ることとしよう。即ち、紐育は今より約二百年前に於て人口八萬に過ぎざりしが今や既に五百萬を超へ、而も尙膨脹の進程を停めない。市俄古は、約百六十年前に於ける人口僅々四千を算せしが、今や三百萬に達すること遠からざるものあり。其他、費府の如き、或は聖路易の如き、數へ來れば、世界有數の都市が人口膨脹の驚くべき速度を示せること、比々然らざるなきの實狀である。而して、我邦に於ける大都市に就て之を見ん歟、等しく斯る世界の趨勢に漏れない、即ち左の通りである。

	（明治三十年）	（大正五年）	增加率
東京市	百拾萬人	百八拾萬人	六、三六
大阪市	七拾六萬	百四拾萬	八、四二
京都市	三拾三萬	四拾五萬	三、六三
名古屋市	二拾六萬	四拾二萬	六、一五
神戸市	十九萬	五拾二萬	一七、五一
横濱市	十九萬	四拾五萬	一三、六八

併し、人口の饒多ということは、要するに所謂過群生活より生ずる諸多の弊害が雜て人口問題を惹起するのであるが故に、唯、人口包擁の膨大ということのみでは、都市人口問題の意義は一つも明確でない、されば、伴の膨脹的趨勢に次いで、所謂人口の密度を觀るの要がある。わたくしは、それ等の密度に就て幾多の資料を有してゐるが、數字を羅列するも實は少々面倒であり、又、本編の云はむとする處に必ずしも缺ぐべからざる譯でない故に、之を省くこととした。

斯くの如く、近代に於ける人口の都市集中なる現象は寔に驚歎すべき次第であるが、人口の集中は、嚮てそれ等都市民を驅つて過群密聚なる檻りの裡に遂ひ込み、隨つて、其處に、幾多の、所謂都市社會問題の生ずることは、既に世界に於ける大都市の殆むど例外なく經驗しつゝある處である。都市學者は、都市の衛生、防火、或は建築、交通、其他凡ゆる保安、保健、敎化等の福祉事業に就て、攻究を爲し、又都市行政上之が幾多の施設をも爲されつゝあるが、斯る過群密聚の趨勢其ものに對しては、何等か之を緩和し調節するの方法を看出さゞる限り、都市社會問題は增々煩瑣を加へ來り、市帑又は國費の多くを費して幾多の之が對應的施設を爲すとも、幷は、竟に、所謂奔命に疲る底の關係に畢るなきかを惧る。

殊に、近世に於ける都市行政の目的が、學者の所謂『福利行政』又は『社會的福利』に在りてもも、其實質が、社會思想の變遷と共に社會主義的傾向を帶び來れる事實より惟はゞ、斯の福利的生活手段を獲得すべき機會を多くし努めて之を普遍的ならしめ、從來の如き最大多數の最大幸福を庶幾して、其反面に於ては等しく市民としての福利に浴せず、寧ろ之等最大多數者の最大幸福の爲に犧牲たらしめらる階級の存ずることは、今日の進歩せる社會思想に愉はざると同時に、近代都市生活の目的を裏切る事となる。

茲に於て、わたくしは、都市膨脹を或程度に抑止するの方法を講ずるか、若くは、斯の膨脹的趨勢を分割するの策を講じ、以て、都市民の生活を近代の理想に協合せしむることは、倫理的觀念から出發すべき問題である許でなく實に近代の社會思想上より皈納すべき必然の問題である。而して、都市膨脹の抑制は、地方的に人口の移動を制するの問題であつて、這は、經濟的自然の趨勢と人間の可動性を無視する不自然なる方法であり、而も、所詮は、空理に了らざるなきを得ないであらう。されば、後者の方法即ち都市膨脹の趨勢を分割するとは、之を一言にして竭さば實に新都市の建設である。而して、

這は、所謂田園都市の建設を謂ふに外ならぬ。

田園都市とは、近代の都會が病的の膨脹を重ねつゝある諸多の弊害に鑑みて、一千八百九十年頃英人ハワード及びゼンチットの両氏によりて唱へられたのが其濫觴である。當時、英國に於ける都市膨脹の趨勢と地方衰退の狀況は寔に顯著なるものあり、即ち、千八百九十年に於て英國の總人口四千二百二十五萬人中、都會の人口は六五%にして、町の人口一五%、而して村落の人口廿%なりしものが、十年後の千九百一年には、總人口四千四百七十二萬人中、都會の人口八十%と成り、村落は二十%といふ狀況を示したのである。

斯る狀態は、云ふまでもなく、實に、都市生活上の緊迫と都市民心理の荒頽と、他面には地方の衰癈とを語るものである。而して、社會改良の高調は、茲に田園都市建設の創案となつたのである。現今に於ては、田園都市なるものの可成り識者の注目する處と成り、又、之を實際上の建設としても、創案者ハワード氏等に仍つて建設されたるリッチウォースの如き。或はハンプラッドの如き、乃至は、ポートサンライトやボルンビルの如き、實際と理想とは多少の徑庭ありと雖も、比々相當な効果を收めてゐるようである。而して、田園都市の生命は、單に自然の風物に親接して、住民の品性を陶冶するとか、又は、諸多の社會的施設より普遍的に福利を享受せしむるといふような問題も左る事ながら、其中心は、實に其都市包擁の人口を或程度に制限し、其程度以上は、更に、第二、第三の田園都市を建設するといふに在る。例へばリッチウォースの田園都市の如きは、住宅地區に三萬人、農業地區に全体を通じて五千人、其密度は一エーカー僅に二十三人を最高限度としてゐる。

我大阪市の如き、其都市計畫に於て、之が包擁地域は、外廓幾里の圈を劃いてゐるが、當局者としては、勿論、將來更に一大膨脹を豫想しての計畫案であらうけれど、一都市の膨大は、必ずしも其都市の健全なる發達を意味せざること叙上の如くむば、寧ろ都市本來の目的と市民の福利を完からしむる爲、第二、第三の大阪都市を新に築くべく現代市民の子孫へ其卓越なる計畫案を遺され度いものである。



土木建築業者の向上と保證金問題に就て

大阪土木建築業組合
常任評議員　山本辰五郎

今や、文化的時代思潮は、過渡時代の遺風に泥める凡ゆるものゝ覺醒を促して、文化の向上を叫んでゐる。而して、大阪土木建築業組合及日本全國請負業者聯合會が、『入札及請負に關する資格保證の改善、被選擧權の獲得、營業稅改廢』の三問題に就て、斯界多年の宿題を解決す可く昨春來これが目的の貫徹に努力しつゝあるは偏に私等同業者が文明的事業者たる資格を得て、自分等の責任を全ふせんとする覺醒の初一歩として、業界の前途に鑑み、頗る心丈夫に考へられる。殊に、大阪土木建築業組合が、去る三月二十四日、中央公會堂に於て組合員總會を開催し、互に燃ゆるが如き希望を以て決議した處の、法律命令に定めなき請負保證金撤廢は、時代の要求と信ずるものである。これに就て、私は、先覺者某氏の指導を仰いだ、今その一端を本誌に揭載を得て、廣く先覺者諸賢の指導鞭韃に俟つの機會を得たことを、私は最も光榮とするものであります。

× × × × ×

私は、現在及將來の社會經濟的組織を基調として事業資金の圓滑を圖り、併せて、營業能率の增進を庶幾し、而して、從來私等同業者が甘受せし地位を脫して、向上進歩の途を開拓するの要を述べ、先づ保證金撤廢は妥當ではあるまいかと、縷々懇談を重ねた。然るに、某氏は曰

く、

『諸君請負業者は、啻だ單に自己を本位とし自分の都合上種々なる事を叫んでゐるが、今日の請負業者は自覺すべき又矯正すべき問題が澤山ある。尤も、請負保證金撤廢も全然理由のない事だとも云はないが、諸君が反省し考慮す可き問題は他に澤山ある。例へば、事業能率の增進、技術的修養など、最も心すべき問題が存するのである。然るに、之等に言及せないのは何故であるか』と。私は答へた、『御說は至極最もと信じます。私等は餘程の自省を以て總ての革新を圖らなくてはなちぬことを常に考へて居ますけれども、凡て進歩向上を圖るには、其處に進歩向上を圖り得る素質を有しなくてはならないが、私等は其素質を欠いでゐる。故に、先づ進歩向上を圖り得る素質を養はなくてはならぬと想います。而も、其素質は種々ありますが、私等の事業經營の上に於て最も重大問題は、入札及請負保證金の撤廢だと考へる。此保證金納付の爲に、請負者が如何に金融の圓滑を欠ぎ、延いては、事業經營に大なる支障を來しつゝあるかは、全く想像以上です。規模の大小を論せず如何なる請負業者も相當の金額を或期間まで留保せられることの若痛は、自然事業經營に影響し、それが事業發達に多大なる累を及ぼすのであります。資金の固定による金融の困難は、大にしては國家經濟に、小にしては自分の事業に非常な支障を來し、これが原因となつて事業能率の遞減を見るの止なきことにもなります。要するに、保證金納付より起る影響は實に大なるものであります。最も保證金を撤廢せよと呼ぶは、或一面から見たならば、勝手かも知れませぬが、今日の請負制度から見たならば、別に保證金を是非必要だとする所謂舊例に習はなくても濟むことだと考へられます。更に、私等の責任を僅かに物質を以て保證せしめんとするは、精神的責任觀念の向上を阻止するものではありますまいか、現在の請負界に精神的責任觀念の乏しいと謂はれる事も、或は此處に由因するのではありますまいか。』

某氏は曰く、『保證金撤廢に全然反對ではないが、果して今日の請負界に全然保證金の必要を認めないと云ふ確然たる自信を、一般の人々に與へると否とは、一に請負業者の觀念に存するのではないか。』

私は答へた、『尤も昔日の請負業者が自から招きたる欠陷ではありますが、今日の請負業者及請負制度から云つたらば、別に昔の遺風に依らなくとも濟むことではありませんか。假りに、保證金を全然撤廢することゝなれば、注文者の方々は、信用ある業者を撰ぶことは當然であつて、私の如く、資本に乏しく信用の低きものは自然仕事が減るかも知れませぬ。又一部の人は保證金を提供しても事業を頂戴することを望むかも知れませぬ、されど、斯くては、業者の精神的信用の向上は、何時までも實現さるゝなく且つ保證金は何時までも撤廢されずして、時代進化に伴ふて進歩向上を圖ることも出來ぬかも知れぬ。故に、私は、一般業界の進歩向上を圖る上に必要なる問題は、縱へ個人として多少の打撃を蒙るとも、これは忍ばねばならぬと考へます。私は、自分等が發議した本問題に就ては幾分の犧牲を拂つても、其目的貫徹に努めたいものだと考へます。更に、只今、貴下は、事業の能率增進及技術的修養に努めよ、と申されましたが、これを實現せしむるには、保證金撤廢も必要でありますが、更に必要なことがあります即ち、今日の請負界を見ますと、建築をしたいと想ふ注文者は、可及的金額が廉くて好い仕事を欲するのである。尤も、誰れでも廉くて好い品物を得たいのは人情でありますが、値の廉いものに上等の品物がないやうに、建築も其通りであります。殊に、建築は出來合ひの品物を購ふと異つて、仕樣書と圖面とによつて漸次工事を進めます内にて、物價の變動、工賃の昂騰などあつて、動々ともすれば想像だに及ばなんだ大なる影響を蒙ることもあります。請負業者は實に危險な事業家で、全く投機業者より以上の運命下に支配されるものであります。斯かる危險なる事業を經營せるにも拘らず利益は極め

て薄いのであります。殊に、自分の竣成せしめた工事に永久の責任を有するなど、義務ばかり多くて利益の尠いことが、請負界の發達せない一因ではありますまいか、更に、請負工事金額を無暗に低下せしめることの弊害を申しますれば、或る理由の下に、工事の欲しさに算盤に合はぬ工事を請負ふ人もないではありませぬ。それ等の工事は、工事進行中必ず種々の故障を生じます。誰しも營業する上は相當の利益を得んためであつて、如何に或種の事情理由が存するとも、初めから算盤に合はぬ工事が甘く竣成す可き道理がありません。利益どころか、却つて損失を來すとなれば、其處に四圍の事情から餘儀なく精神的に努力せられない破目に陷ることもあつて、非常な苦心を重ねる事もあります。故に、私は、注文者に此旨を良く諒解して頂きたいと考へます。それには、先覺者諸賢の指導を仰がねばなりませぬ。然らば、注文價格を如何にして定めたならば妥當か、と申しますれば假りに、茲に見積書を提出するものが五名あるとすれば、各見積書の中間に位する見積價額を請負金額に限定されることが、公平だと信じますが、如何でしようか。』

某氏曰く、『理想としては公平ですが、實行の伴はないことは更に考へなくてはならぬ。』

私は更に曰つた、『それと今一つは、有料見積ですが、自分の仕事を請負ふ上の見積であるから無代で見積ると云ふのも一面の理由がないではありませぬが、見積つた工事が必ずしも自分に札落されるとは決定されないものだとすれば見積りの實費を頂く事は經濟的の原則ではあるまいかと考へます。誰しも見積を命ぜられた場合は、それを光榮とし、又請負契約を締結したい爲に精神的に採算し見積書の上に現はれた文字は、一字々々私等の精神的力行の結晶とも云へます。而して、苦心を重ねて完成した見積書が何等の効を奏せないとすれば、我等の精神的力行の結晶は徒勞に歸します。尤も、それは、私等の勝手な理由かも知れませぬが、私は自分が見積料金を欲しさに申すのではありません、

私が今年になつて見積つた價格は、三百五十五萬四千六百九十八圓の高額に達しているにも拘はらず、其請負契約の結ばれたものは、實に僅かであります。此三百五十五萬餘圓の見積は却々容易でありませぬ。』

某氏曰く、『それは當然の要求で、私も賛成です、只其方法を如何にするかである。』

私は更に曰つた、『今や、社會は駸々として長足の進歩を來していますが、然るに、貴下の申された如く、私等同業者が遲々として進歩せないのは、實に遺憾の極みであります。私等同業者は、茲に聊か自覺し、實質的に精神的に過渡時代の遺風より脫して、文明的に向上進歩を圖りたいと思つていることを諒せられ、貴下方の御指導を仰ぎたい。私等も進歩向上せしめるには、何うぞして貴下方の指導と鞭韃を仰がなくてはなりません又貴下方は私等を指導し得る立派な理想及實力を有する先覺者でありますから何うか其實を示されんことを希望する次第であります。』

斯くて某氏と私の問答は盡きた。私は私の愚見に就て、先覺者諸賢の指導を仰いで、文明的に進歩向上を圖りたいと考へる。

新山家

去年病て、ことし木賀山の溫泉に癒ゆ。枳風もとより予が志を得、われまたかれが性にさはらず、さ月はじめの三日、我野を出るに、春よりも猶おぼつかなく、あはれふかき曙なり。さるに奴の十ばかりなる子をつれたりけるぞ、風雲のためには、まぎるゝ事おほかり。かくて、道すがらは、何の事をもいはず、文鱗の旅亭にたづねまかりて、しばしほやすき事になりぬ。



新聞記者として見た名士の邸宅（三）

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

後藤新平男の邸

一　滿鐵官舍の借家住ひ

政治界では一寸彗星といふ役處で、人氣の中心に成つてゐる後藤新平男も、外國を一巡りして歸つてからは、周圍の取巻き連中から緘口令をはめられたとやら、如何したとやらで、一切無言の行を守つて居られるが、さて、男爵の借家住ひも久しいものだ。

今、麻布櫻田の高臺に堂々たる邸宅を新築中で、廣々とした地面内に、青葉に包まれて新しい瓦が、折柄の春のなだらかな日を浴びてきら〳〵と輝やいてゐて、葉がくれに鳴く小鳥の聲と丁々と響く大工の斧の響とが聞えて來る。

石造りの藏も出來たし、邸宅も實に宏莊な物で、木の香が一ぱいに漂つてゐる中を、男爵も

時折りは、東京に居さへすれば出掛けて行つてあれよこれよと指圖をされるさうである。形だけは出來てゐるが、愈々竣工となつて披露の宴を張られる迄には、まだ一寸間が有りそうだ。男爵も早く借家生活を打切り度いと思つて居られやう。

今の狸穴の邸へ移つたのは、何んでも男爵が鐵道院總裁の頃の事で、汽車の車掌さんへ金モールをつけさせたり劒を下げさせたりしてゐた時分、その兼任の關係で滿鐵總裁官舍へ入つたのである。一旦入つて仕舞ふと、さて浪人をしたからと云つても、入れた方でほら出ろとも云はれまいし、入つた方でも、おいそれとも出られないし、その内に舊邸を取壞して新築にかゝつたので行き度いにも行き處は無し、ずる〳〵べつたりに男爵の借家生活が續いてゐる譯である。

で、まあ實の處は人呼んで『狸穴御殿』といふ男爵の住居は、一時の假りの宿なのだが、假りの宿は假りの宿なりに、流石に泊りが長いだけ矢張り新平式といふやうな或る空氣が邸内の其處此處に漲つて居るのが面白いのである。

二　小便横丁の通り路だ

電車道からの突當りが天文臺で右が邸の入口である。此通りの右側は石垣で下を小さな下水が流れ左手は細々した住居やお寺だのがあつて餘り感心した處では無いし、この石と下水を利用して小便をやつてゐる不作法者を二度も三度も見たといふ譯で、出入りは餘り良くはない。

門は頗る貧弱で、低くて狹くて問題にならないが、それからずつと玄關迄は、一帶の玉川砂利が敷き詰めてあり、左手が庭園で、しかも此邊一帶は高臺だから、非常に美しい見晴らしである。庭園は一寸した柴葺の門から、細い竹で結ひつけた垣根だから、訪問者は誰でも内が見られる。が、實は見る程に整つた味のある庭でないのは、根が官舍だから仕方がないと諦めやう

正面がお局口（つぼねぐち）といふ風な京都式な日本造りの出入口で、細そい格子がついてゐて、其右手には車寄場にしてある建物が相當な場所をとつて

ある。左手が、これこそ堂々たる二階建の洋館で青みがゝつた灰色塗りだが、男爵は客との應接は勿論、珍客の招待など總て此洋館でやつて日本建の方は母堂がお一人で使つてゐられるのだと云ふ事だ。

三　非常に天井の高い邸

洋館の玄關に立つて、先づ一番目に着くのは呼鈴の押釦だ、釦は別段に變りは無いが、その周圍を綺麗な瀬戸模様で飾つてあるので、何んとなく感じが良いのである。釦を押すとやがて書生が内からがちやんといふやうな音をさせて戸を開けて呉れる。この書生がまた澤山にゐると見えて、私は色々な用事で二三度も續け樣に訪ねたが、其度毎に變つた顔であつたと思ふ。

内へ入つて二坪許りの靴抜ぎから突當りが大きな飴色塗りの扉で、並んで二つ、一方が待合一方が男爵應接の室となつてゐる。そして其前は五六坪の廣い玄關内だが、右手から二階への梯子があつて其處に青い蘭だの、時には竹の大鉢などが置かれてある。

非常に天井の高い邸である。扉も一丈の餘もあらうと思はれる位に高いもので、從つて如何にも、他人の家へ來た西洋館へ來たといふやうな心地がする。一寸こけ脅しは利くが軟か味や親しみの出ない邸だ。

右手の待合には朝八時頃に行くと、もう大抵二組や三組位の訪問者が待つてゐる、それで相當な門前拂を喰はせてゐるのだから、流石は偉いものである。新聞記者も大底はこのお拂を喰はされる樣子で、私なども其方は甚だ臆病だから滅多な用事には出掛けて行かない、この拂で腹を立てるのはお互に馬鹿氣た事でその上壽命が縮まるからである。

四　驚て見た稀代の彫刻

待合室へ通されての第一印象は椅子だとか其邊の調度が素破らしく立派な事である。敷き詰めた絨緞の色から紫檀黒檀の違ひ棚やら、支那燒きの陶器類を飾り立てゝあるのや、その邊に掛つてゐる軸物の珍品やら、丁度私の行つた時左手の壁に一層目立つてゐたのは雅邦の素的に

大きな山水の幅で、落款の邊に雨垂れでもしたものか、しみの跡があつたが、先づ仲々見られないものだと思つた。

だがこれなどは然程に珍らしくないとしても誰でも吃驚させられると思ふのは、この室の中央にある硝子張りの六尺位の高さの箱に入れられた木彫りの飾り物である。私はぐるぐると周圍を幾回も廻つて見た。不幸にして斯うした物を觀る事を知らない私には何人の作で何の位の値するものかは知る事が出來なかつたが、何んでも支那で出來た物で、非常に緻密な模樣の中に、實に無數の人物が、しかも、全然一人づゝが獨立したやうにほんの僅か許りの連絡でばらばらになるのを止めて彫られてあるのだ。中には後から彫つてはめ込んだと思はれるやうな處もあつたが、實に大したものだ、馬へ乘つた賢者らしいのも居れば、侍女に取卷かれた貴人もある、勇者もあれば美人もゐる、馬上の人、腹逼いの人、犬もゐれば大小色々な鳥もゐる、その數實に幾千幾百、——先づ私が驚いて見、好奇心にかられて見たものゝ、最近の一つである。

五　應接室は頗る無造作

この待合の南側の窓から眺めると、麻布一帶が見渡せるので、本當に晴々とした氣持に成れるが、其中に左側の扉が開いて、其處に立つてゐる衝立の間から、例の鼻眼鏡で、顎に一寸髭を延した男爵が顔を出した、

『次の方どうぞ』

と云ふ。お醫者さんが患者を呼び込み、診察をする時の樣子で、私は思はずくすくすと笑つて仕舞つた。男爵閣下が顔を出して、『次の方どうぞ』は一寸面白い圖である。それが根がお醫者樣なる後藤男爵に於て增々面白い圖であるのだ。

應接室は、卓と椅子とが約そ二十人分位ある外は、割合に無造作で、何かの花の鉢が一つあつた外、餘りにごちゃごちゃしてゐた。男爵はエナメルを塗つた上靴をはいて、椅子から立つたり座つたりして話をする。其處へまた書生が妙な小さな形の板を持つて入つて來て、客には解らぬやうに男爵へ見せる。

うむ、よしよし、待たして置け』

こんな事を云つてまた話を續けて行く。

兎に角、忙しいから許りでなく、男爵其人が親しみ難いからでなく、男爵の應接室は落着いてしんみりと話を聞いてゐる事の出來ない處である。所謂何ちらかと云へば殺風景な、軟か味も温か味もない、肌觸りの惡るい事務室風の感がある。この點は、滿鐵官舍なるが故ではなく男爵が應接室に對して調度其他に餘りに冷淡であるからではあるまいか。應接室は單に人と逢つて用事が足りればよろしいでは矢張り滿足出來ないやうに思ふ。後々迄も一種の軟らかい記憶を訪客に與へて置く事は、殊に男爵の如く、政治を生命とする人の頗る大切な事では無いのであらうか。

高橋藏相私邸

一、解らないベルの所在

赤坂表町の停留場で電車を下りて、すぐ鼻の先に衝當つた處が大藏大臣高橋是清男の邸宅だ押被さるやうな平びつたい門で、その前に太い鐵の鎖が門外門といふ格構で引廻されてゐる。右の青山一丁目の方へ向つて、高い土塀がずらりと出來てゐて、その上から中の植込を綺麗に刈込んだのが、頭を揃へて塀上塀の樣子で出てゐる。石橋を叩いて渡る藏相の方策が一寸此處に現れ出てゐるといふ處だ。

門を入ると、砂利が敷きつめてあつてその向ふが邸の庭であらう、さゝやかな垣根を結つて其處に井戸があり、よく釣瓶が乘つかつてゐる夜に成ると其前へ青白い瓦斯が光る。右手の塀の外は細そい通り路だが、闇の夜などは眞暗らで、近頃怪しげな男が出て通り掛りの婦女子へいたづらをするといふ事が或る新聞へ出てゐたこれは何んだか與太らしいが、そう云ふ噂が滿更でも無く聞かれる程に此邊一帶は靜かで物淋しい處である。

私が藏相を訪問したのは何んでも物價問題の騒がしい夜の八時頃だつたと思ふ。突然の或る

出來事で、ちと遲いし無理だなとは思つたが、兎に角逢へたら逢はふと思つて社を出掛けたのは七時頃である。

砂利をさく〳〵と音さして玄關へ立つ。薄暗くてベルの所在が解らない、いくら探しても探しても見當らないので、遂に正面の右手に見える灯のある窓に向つて『御免下さい』を連發したやゝ暫くして、內から扉が開いたが、この扉がまた木製のどつしりとした重い厚まくれた物で夜だから只眞黒くて冷やりとしたと記憶する。

二　神社々務所といふ樣

よい加減な年配の男が出て來て『御前はもうお休みだから誰方も面會は出來ません』と小酷く頑固で、奈何に賴んでもてんで取次いで呉ない。斯うして仕方なく私は其處を引上げて神野次官へ行つた事がある。前にも後にも之迄に藏相邸を訪れたのはこれが一回きりだ。

純日本式の、神社々務所といふ樣子で、正面平屋建、玄關はコンクリートの土間の上へ、屋根だけを突出したもので、右手も左手も格子窓に成つてゐて、薄黒く先づ相當な年代がついてゐる譯だ。玄關の扉を開けると何んでも狹苦しい處で、大名式の襖が立つてゐたと思ふ、しかし此記憶は甚だ朧ろ氣である。右の方から塀の內側へ廻つて行くと勝手元になるが、此邊が妙に取片づいてゐて、公卿華族の邸を小さくして見た位の印象より外に何者も殆らない、先づ平凡なところであるとでもいふより仕方あるまい。（つゞく）

閑居賦

廬山の雨の夜に月を喜び、たれ籠めて、春の行方しらぬ住ゐもあるに、よしや吉野の奥は住みうくとも、うき世の嵯峨のさがなきよりは、中々住みまさりけめ、栗栖野の奥の菊紅葉の、閑伽棚も、柑子の垣に見おとされ、宇治山の隱れ家には、梅柳の風流を爲れど、人嗤ふ犬にさめたり。花は一もとのさびしきをうらやみ水はとく〳〵の雫をしたふ。

都市計畫の觀方（その二）

保健關係から觀た都市計畫

市立大阪衛生試驗所
技師　岩尾次郎氏　談

▲保健方面から觀た都市計畫と云つても其範圍は隨分汎いのですから、概括的に申上げるには參りません、例へば、人口の密度と空氣の關係とか、或は、河川や上水道の關係とか、乃至は、下水問題や屎尿問題の如き、各種の方面に亘つて居りますから、單に『保健』といふ包括命題の下に述ぶる事は容易でありません。けれども、都市計畫としては、何よりも先づ下水問題の決せらるゝ事が急務でしよう

▲何故ならば、都市として行き惱み勝な彼の屎尿問題の如きも其處理方法を奈何にすべきかといふ問題は、聽て下水に接觸する問題であります。例へば、白耳義が現に採つてゐる方法の如きは、極めて廣き或地點の潴溜池まで屎尿を流下して漸次沈澱せしめ、其上わ水を放流して、其沈澱場所に勿論大規模な菜園を作るが如き、或は、化學的操作に藉りて處理するが如き、其他之を悉く下水に導いて海洋に放流するが如き、各種な方法もありますけれども、孰れも下水道築造と關係を持つて居ります。單り是許ではなく、勿論都市の下水其ものゝ處理奈何は保健關係に直接な利害を有してゐるものでありますから、都市計畫の問題は聽て下水道の問題とも曰ひ得ます。

▲次に、塵芥の處理も亦保健關係に重要な影響を有つて居ります。我大阪市に於ては。現に、平均一日十萬貫許の塵芥を集案され、其處理方法としては、木津川尻に燒却場を設けて、偖かに副産物たる加里を獲て居りますが、其熱力利用の方法に就ては現に靑柳、松本兩博士に研究をお願ひしてゐるそうです。

是は今の處稍々處理法を具体化されてゐるのでありますが、都市保健其ものには直接な關係がないとしても、今一つ進んで、斯の廢物を生産的に處理したらと思ひます。御承知の通り、亞米利加邊りでは、都市塵芥の處理としては完全に設備されてある上、今一層進んで、是より幾多の原料品を獲て居ります。

▲尤も、あちらでは、斯る利用を得る爲に、塵所から生ずる殘滓と普通の塵芥とを分別せしめてありますから、斯る處理に就ても非常に便宜を得ます上に、あちらのは、御承知の通り動物性の殘滓が多くありますに反し、日本では、斯る區別がなき上に、主として、植物性のものでありますから、それ等より生ずる生産物は格別な相違があります。例へば、あちらのは、殘滓から、脂肪だけでも平均五〇%の割に採れますが、日本では、纔に〇、四%、即ち、あちらの滓の中に含んでゐる量位なものであります。

▲話は後へ戻りますが、大阪市に於ては、都市保健の見地から屎尿問題に就ても五萬圓許りの調査費を本年度の豫算に計上されまして、各種の方面から研究する筈であつたのですが、それよりも先づあちらの屎尿處理の實際を視察する事になりまして現に我衞生試驗所長が外遊中でありますが、何れ近く歸朝の筈ですから、然る上は屎尿問題も何とか具体的に決し、隨つて、下水問題も解決さるゝ事と想像します。

▲其他、都市の空氣に就ても、曾て、當試驗所長の野田さんが調べられた事がありまして、其調査場所と層位によつて顯る面白い現象を發見されたようでありますが、斯の問題は、是より都市計畫によつて實現さるべき工業地區や住宅地區殊に密度の關係に於ても、餘程研究に値ひすべき事と思ひます。就中、塲末の密集住居の如きは、其容積と空氣の關係は、既にあちらでは居住人口の制限令に相當するようなものもあるそうですから何れ都市計畫は之等の問題にも接觸して來ると思ひます。

□□消防方面から觀た都市計畫

大阪府消防課長　宮田警視談

▲有り体に申しますと、我大阪府の消防政策は、從來、主もに消防機關の組織といふことに重きを置いて、消防政策の對象中殊に建築物其ものに對しては、まだ充分に研究を遂げられてなかつたのですが、私の着任以來斯の方面の研究に取掛つて居りますけれども、比較的日時も淺いことでありますから、勿論まだ充分に研究を遂げては居りません、けれども、多少考へ付いた事や經驗した事柄もありますから、二三お話することゝ致しませう。

▲出火の直接原因其ものは殆んど千差萬別の觀ありますが、常にそれ等凡ての原因を通じて出火を助長する處のものに凡そ四つあるように想ひます。第一は風位であります、第二は濕潤の關係であり、第三は氣候、第四は家屋の位置(?)であります。其他、それ等の副原因とも觀得られますのは、居住者の業体と家屋の奈何ということが主なようであります。

▲先づ風位で申しますならば、大阪に於ける一年中一番よく吹き而も最も風速の強いのは、西或は南西、北又は北東でありますが只今のように消防機關の相當組織立てられまして、迅速、事に處する上に遺憾なきを期して居ります以上は、小火が中火に成り、中火が大火に成るような事は決して無いと申して宜しいのであります。けれども、只出火の建物而も其或部分で濟まずして、多少他に類焼を及ぼしますのは、什うしても、主として斯の風位の關係に由ると思ひます。

▲それ許でなく、出火其ものも斯の關係に在ると認められます例へば、當消防課では、年々出火場所の分布圖を拵へて居りますが、他の出火の場所と等しく相當に人家の稠密せる天王寺界隈は、最危險地帶とも謂つて可いような狀態で、殆むど出火がありません。是は何故かと申せば、斯の地域は東に向つてなだらかに斜傾を成し、其地形が西、南西、又は北の風を遮るように丘陵を成して、自然の防風壁となつてゐるようでありますから是が出火の機會を少かしむる原因ではあるまいかと想ひます。

▲次には、濕氣の關係でありますが、申す迄もなく空氣が濕潤してゐる中では、火の燃へることが甚だ弱いのであります、故に、出火の當初、小火なる機會が甚だ少いのであります。斯の例は、西區九條一帶か非常に人家稠密の場所であるに拘らず出火の極めて少いのは、此邊一帶が水田等の埋立て地であつて余程濕潤な地域であるように想ひます、斯の關係から出火の少いのであらうと考へて居ります。

▲第三の氣候の關係では、冬季が最も出火の多い季節であります。と申しますと、誰しも、冬季は火氣を取扱ふことが頻繁であるから、出火の機會が多いのは當然だと考へるでありましょうが、勿論、是も其原因の一つでありましょう、けれども、火氣を取扱ふことが多ふければ、隨つて出火も多いとのみ云へません。何故ならば、火氣を取扱ふ工場抔も少からないのでありますが、斯ういふ箇所に却つて出火の少いのは、偶々、火氣の取扱ひの多き事が出火の主要原因とのみ觀ることが出來得ない事例ではありますまいか。然らば、冬季に出火の多いというのは、他に其主要原因を求めねばなりません。それは、實に氣候其ものゝ關係に在ると想ひます。冬季は比較的雨量も少く、空氣は却つて乾燥して居りますから、燃燒力は非常に迅くして強いのであります。斯の事は、家庭抔で火ををこしても容易に讖り得る事實であります。故に、ちよつとの過ちも容易に小火に成り、ついて中火と成り大火と成るような機會が甚だ容易なのであります。

▲第四の家屋の位置と云ひますのは、例へば船場邊と大阪の外廓地の如きを意味したのでありますが、年々の出火が布圖でも

明に示してゐるように、船場抔では出火が甚だ少いのでありまして、是は、家庭の構造から云つても、左して防火的には出來てゐないのでありますが、要するに、家屋の大きいのと、隨つて其住居者例へば召使ひや其他の家族の多い爲、奈何なる場合でも一家を空ふして出るといふことなく、然るに、場末の小家屋に居住する人達は、得て全家留守勝といふ傾向があります、是が出火の機會と關係があるやうに想ひます。劇場の如き、遊廓の如き、或は料理店の如き、其他比較的多數な人を使ひ、人の出入の頻繁な處に出火の少い事實も、亦斯の關係を雄辯に語つてゐるものではありますまいか。

▲先きに出火の副因として擧げました處の、業体上の關係は、申す迄もなく、火の移り易き物品例へば紙屋とか、呉服屋とかセルロイドとか、木材とかいふような業体に出火の多い事は從來の例で判ります。而して、家居の奈何といふ事は、前述べました處の多く留守勝ちな處から失火する事のあるは、是も從來多くの實例があります。

▲以上の外、防火栓の關係でありますが、大阪の水道は防火上に充分な効果がないようであります。それは、僅に四吋位な鐵管を通ふてゐるのですから、其處へ三吋もある消火栓を開三本も開きますと、勿論水壓は非常に弱くなつて水が充分届きません、是は何とか改善を要しはしまいか。次に大阪の河岸は斷崖のようになつてゐる場所が多いようでありますが、例へば、目下新築されつゝある大阪市廳舍等の河岸の如きは、自動喞筒を其儘河岸に据へて、ホースを河水に持つて行かれるように、河岸の處々へ緩斜面な場所を設けて貰ひ度いと思ひます。現に、過般中ノ島銀行集會所の出火の如き、両岸に滿々たる水流を見ながら、ホースを持つて行けない爲、他の遠くの場所より水を引かねばならなかつたような次第でありました。

▲終りに、一言附け加へて置き度い事は、防火壁の築造でありますが、從來の經驗より致しますと、防火壁は必ずしも煉瓦や鐵筋混凝土でなくても、單にトタン一枚でも効果があります。而も、其高さは必ずしも家屋と高さを等ふする必要はないと思ひます。それは、焔燒から飛火する場合には兎に角として、隣接家屋へ火の移るのは、畢竟熱せられる結果なのであります。而して、其火熱は、W斯のような一種の放射線を畫くのですから只此の火氣を避けたなら可いので、トタン一枚でも、焔燒しつゝある方は例へば百度熱があつても、其反對の側は六十度位しかありません。又其高さに於ても、右の放射線は、恰も彈道のようなもので、砲口の直角に在つても、放物的に頭上を越して危險のないのと等しく、火熱の放射線直下では、消防夫抔平氣で働けるのであります、故に、防火壁の高さは、家屋の全高と等ふする必要はありません。

以上、今や實施せられむとする處の都市計畫中建築上の參考ともならば幸であります。

× × × ×



都市と社會施設

英國に於ける住居政策（3）

（大阪市發表）

（六）戰後の住宅政策

戰後の狀態は英蘭並に威爾斯のみにて三十萬戸より四十萬戸の住宅缺乏を生じ。貧民窟の住宅並に其の地域の多數、存せん事は既に述べたる處なり、此住宅問題は、歸還兵士に住宅に關する憂なからしめんとせば出來得る限り急速に解決されざるべからず、本問題の解決は又吾人が產業不安を防止せんとし、相當なる仕事を得んとし、幼兒死亡と疾病傳播の大原因の一を除かんとするに必要なり。政府は此の難局に對して如何なる手段を採りつゝあるか。

本問題の總てに就きては地方自治總務並に改造大臣の共に愼重なる考慮を廻らせる所にして何れも有力なる顧問委員を置けり。

或る地方にては、既に敏捷なる手段を採られしも他に於ては計畫が發表されたるのみなり、聲を大にして新設住宅の建設は最緊急問題なりと力說するは可なれど、他に充分なる收容設備

のなきに貧民窟地域の清廓或は個々の不良住宅に閉鎖命令を發する等は當を得たるものにあらず。

故こ第一の手段としては、何處に新設住宅を要すべきやを確知する事なり、此の目的を以て地方自治總務省は一九一七年七月二十八日各都市並に地方當局者に其の地に於ける必要住宅數を報告すべく照會を發せり、右に對して千五百通の回答は各地方當局者より集り、其の結果現在の缺乏は十七萬戸にして戰後は更に十九萬戸を增加すべしとの報告を得たるは既に述べたる處なり。此は準備計畫に對し相當の根據資料とならんも、一方地方當局者の回答中には正確なるものもあれど、又或る地方にては住民が地方當局者は缺乏を過少に見積りたりと感ぜし處なきにあらず、加之是等當局者の六分の一は全く何等の回答も爲さざりしなり。蓋し是れ地方當局者が與へらるべき財政補助の形式と範圍に關し主務省の決定を待ちつゝありしなり。此の決定は今發表する處なり、而して九百の地方當局者各々は總計十五萬戸以上の住宅建設計畫を既に準備したりと述べ、或は準備の途にありと陳じ或は準備せんとすとの事を報せり。

地方自治總務省長は最近陳述して曰く、

『總ての人は今や恐るべき住宅缺乏と民間建築者に此の缺乏を塡補すべく依賴し能はざる事實を意識せり只此等は地方當局者に委ね得べきのみ』

吾人が既に述べたる如く建築費の增加、並に金利の昂騰に依り財政上の困難は實に著しきものあり。

一九一七年七月戰時內閣（ウヲーキヤビネット）は、地方自治總務省の認可を得たる對勞働者階級の住宅計畫を、大戰終結後遲滯なく實行すべく準備し居れる地方當局者に、巨額の財政補助を與ふべき事を決せり。

地方自治總務省は本補助は左の形式により與へらるゝ事を通牒せり。

（正確をする爲特に原文を揭ぐ）

An annual grant is to be made for not

less than seven years sufficient to relieve the Local Authority of three-quarters of the estimated annual loss on the housing scheme. At the end of that timethe property is to be valued, and three quarters of the excess of the amount of the loan outstanding over the then val ue of the property will be met by the state. Briefly, therefore, in the case of approved schemes the state will bear three-quarters of the loss and the Local Authority the remainder. But there are some districts where it would bea erious burden for the Local Authority to have to bear evena quarter of any less. In all cases where one quarter of the estimated annual deficit would involve the levying of a rate of more than apenny in the £ the Local Government Board is to have discretion to increase the Government grant. But the loss to be borne by the Local Author tiy in such case must not be reduced below the produce of a rate of a penny in the £.

This assistance is only to be available for a *limited time after the war* and subject to the condition that in all ordinary cases building shall be commenced within two months, and completed within twelve months from the date of the Local Government Board sanctioning the loanfor the scheme.

As regards the loans for the schemes it is stated that "any loans by the state for the purpose of assisted schemes would be made at the full market rate of interest current from time to time, and not at thepreferential rates ordinarily allowed for housing loans, in order (1) that the whole of the state assistance may be given under one head, and (2) that Local Authorities may be encouraged to borrow on their own

credit rather than to have recourse to state capital funds." And again, the Treasury ask that "It may be made quite clear that the precise date at which the execution of any schemes approved by the Board can be commenced must depend on circumstances which cannot at present be foreseen, and that the financial position may be such that it may be necessary to give precedence to the more urgent cases, even to the exclusion for the time being of the less urgent."

In the circular Mr. Hayes Fisher expresses the hope that in every case where there is need for houses not likely to be met by any form of private enterprise the Local Authority will see that a housing scheme is prepared with as little delay as possible.

Where the Local Authorities, in spite of an admitted need, fail to take adequate steps Mr. Fisher has plainly hinted in public speeches that they will be supplanted by some other authority who will see that houses are built.

以下將來の住宅計畫に關し地方自治總務省が地方當局に與へたる訓令の主要なる點を抄譯して本稿を終らんに、住宅に關しては、

(一)住宅の樣式は各獨立して纏りたる住宅たらしめ、他と事情を異にする人々、即ち新婚の夫婦或は家族なき老人等の收容に關しては特に留意する事。

(二)建築の設計並に內部の設備は成るべく質素簡單にして經濟的なるを尊ぶと雖も、又他方に於て當局者の建設に係る住宅は、一般に私人建築勞働者階級住宅の模範となり、標準となるべきものなれば、心して設計せざるべからざる事。

(三)住宅は將來の居住者に對しても相當必要なる施設を爲し、內部の設備等は必しも畫一的ならず、地方の風俗習慣等を適宜參酌して或

る程度迄居住者の嗜好に適せしむる事。

(四)新設住宅設計、特に内部の設備に關しては主婦の便宜に就きても考慮を要す、これが爲に各種樣式の住宅を調査し進んで主婦自身の意見を聽取して參考に資する事を最善とす。

〔附記〕

此點に關しては英國にては既に改造大臣により婦人委員任命されエモツト夫人委員長となり、主婦の見地より本問題を研究しつゝあり次に街路並に土地に關しては、

(一)一定の敷地に於ける住宅の配置並に計畫は或る程度迄其の土地の形、位置、性質等に支配さるゝものなれど、出來得べくんば居間よりして相當の眺望を得らるゝ廣き空地を存したき事、此點に關しては、新に道路を造る時に方向を考ふる事。

(二)一定の敷地内に住宅を建過ぐるを絶對に避け、一定の數に制限する事。又住宅を道路より少し後方に建設して、小さき庭園、外庭等を道路と住宅との間に設くる事。

(三)住宅は長き列に並び建てざる事とし、原則として一列の住宅の數は八戸乃至十戸を超えざる事。

(四)一定の敷地内に何程の住宅を建設すべきやに關しては、未だ何等定則は無きも一九一八年三月十八日の通牒に依れば普通一般に一エーカー内に十二戸(農作地にては八戸)以上の住宅を建てざる事とす。

次に住宅を多數に建設するには、地方當局者に依る事勿論なれど、又私人計畫に俟つ事も重要なりとす。要之住宅問題の完全なる解決は私人計畫の協力無くしては完成する能はざる也、故に其の方法として政府が彼等に種々なる方法を以つて相當なる援助を與ふるも可なり然れども未だ私人計畫に與へらるべき補助の形式幷に如何なる條件の課さるべきやに就ては何等確定し居らず。

住宅問題に關係せる委員に就きては左の如し

(一)戰後住宅問題に於て最も重要なる要素は建築材料の供給と其の價格に關する問題なり、

故に改造大臣は、ジエー、ピー、カーミカエル氏[1](Mr. J. P. Carmichael) 委員長の下に材料の供給幷に價格に關する調査を遂ぐべく委員を任命せり。

(二)土地を得る事も亦住宅問題に關聯して最も重要なる事にして國會議員レスリー、スコツト氏[2](Mr. Leslie Scott) 委員長の下に土地獲得方法幷に土地價格制定方法に關し研究すべき委員あり。其他戰後の住宅問題に關して一九一五年の家賃抵當利子增加條令幷に其の修正法律制定を研究し住宅問題に附隨して起るべき困難を如何にして取除くべきやに關し其方法を研究すべく委員任命されたり。

十 結論

要之政府は戰後起るべき大なる住宅問題に對し、あらゆる手段を盡しつゝあるが一方本計畫の成敗は實に一般國民の協力に竢つ事至大なれば、國民は宜しく心を一にして本事業の如何に大問題なるかを知得し、あらゆる見地より本問題を論究し、考慮せざるべからず。

(畢)



資料

●大阪市都市計畫參考資料（其二）

(II) 都市計畫區域內各種地積

◉次いで這回大阪市の都市計畫內に包括さるゝ河川、道路、公園、其他の面積は、總計六千六百二拾六萬二千七百二拾五坪にして、之を市郡別に觀れば、大阪市一千七百六拾八萬二千六百二拾四坪、郡部四千八百五拾八萬〇百〇一坪にして、更に之を各種地積別及市郡別に觀れば、

市部
- 河川　百六拾六萬五千百七拾坪
- 道路　百二拾二萬六千〇九拾八坪
- 公園　八萬〇五百〇一坪
- 其他（神社、佛閣、墓地及火葬場、學校）六拾四萬八千〇五拾八坪

郡部
- 河川　三百〇九萬七千三百〇〇坪
- 道路　六萬〇八百四拾八坪
- 公園　三萬八千五百三拾七坪
- 其他（神社、佛閣、墓地及火葬場、學校）三拾六萬六千百六拾五坪

但し、以上の內郡部に於ける河川面積若干あり而して、以上に就ての詳細は左表を參照さるべし。

(III) 大阪市內の道路

總延長三拾〇萬二千百九拾八間四にして、總

坪數百二拾二萬六千〇九拾七坪九なり。而して之を道路幅員別に觀れば、拾五間以上のもの三千三百廿〇間六此の坪數五萬七千七百六拾八坪八、拾二間以上のもの一萬三千百三拾五間四此坪數拾五萬八千〇七拾七坪五、拾間以上のもの一萬二千〇四拾三間二此坪數拾貳萬〇六百五拾〇坪七、八間以上のもの一萬〇三百七拾三間二此坪數八萬三千二百廿八坪三、六間以上のもの三百五拾間四、此坪數二千三百卅七坪一、六間以下のもの二拾六萬二千九百七拾五間六、此坪數八拾〇萬四千〇三拾五坪五なり。而して、大阪舊市街に於ける官有道路は、總延長拾二萬六千九百三拾三尺、此の總坪面積は四拾五萬九千二百七拾八坪八にして、其幅員最廣六間以上、最狹一間也。左表に就て以上の詳細を識るべし尙、大阪市街の公園は左表の通り。

(V) 都市計畫區域內人口の移動

(甲) 靜態人口

大阪市に於ける、明治四十年を起点として大正七年迄の靜態人口の狀況を觀るに、東區は人口二拾三萬なりしものが三拾萬以上に達し、西區は二拾九萬なりしもの四拾四萬と成り、南區は三拾六萬なりしものが實に五拾萬に達し、北區は、二拾八萬なりしもの三拾八萬に垂んとせり。而して、之を通じて、孰も年々膨脹せる一方なりしが、唯、明治四十一年に於て、北區は大火の爲二十六萬と成り即ち約二萬の人口を減じ、明治四十二年より再び增加を始めて、大火より三年後の明治四十四年に於て漸く舊態に復せると共に、尙增加の勢を續けて叙上の膨脹を示すに到れり。更に、南區は、明治四十三年に於ける大火の爲、人口の減少は來さゞりしも、一時膨脹を停止して、翌四十四年より再び人口增加の奔勢を示せしたりき。

(郡部に於ける靜態人口圖は省略)

× × × ×

都市計畫區域內土地總覽

市郡別		總面積	河川		道路		公園		神社		佛閣		墓地及火葬場		學校	
			面積	百分率	面積	百分率	面積	百分率	面積	百分率	面積	百分率	面積	百分率	面積	百分率
大阪市		17.692.624坪	1.665.170坪	9.42	1.226.098坪	6.93	80.501坪	0.49	41808坪	0.24	255.826坪	1.45	67315坪	0.38	283109坪	1.60
西成郡	二十一町村	17056000	3.097300	18.17	218.802	1.28			15.668	0.09	41.858	0.25	19825	0.12	48191	0.28
東成郡	二四ヶ町村	19.401.101			236.188	1.22	38.537	441	38.700	199	44.631	0.23	22968	0.12	75.325	0.39
中河内郡	三ヶ村	2.504.000			19.758	0.79			3284	0.13	4.110	0.16	2252	009	2214	0.09
三島郡	二ヶ町村	3.783.000			70.001	1.85			4.951	0.13	4.807	0.13	7134	0.19	2.120	0.06
豊能郡	五ヶ村	5.236.000			63.731	1.09			6.896	0.12	8.200	0.14	8.653	0.15	4398	0.08
計		66.262.725	4.762.470	7.20	1.834.578	2.01	119.038	0.19	111.307	0.19	359.432	0.54	128.127	0.19	415.357	0.63

備考　大阪市ヲ除ク外河川面積ハ新淀川ハミヲ記載セリ

大阪市内道路調

等級 / 幅員	國道		假定縣道		里道		計	
	延長	面積	延長	面積	延長	面積	延長	面積
15間以上					3.320間6	57.768坪8	3.320.6	57.768.8
12間	2.107.2	24286坪3	349.2	4190坪4	10.679.0	129.600.8	13.1354	158.077.5
10間			175.9	1.763.9	11.867.3	118.386.8	12043.2	120.650.7
8間	565.1	5.251.5	929.1	8249.8	88790	69.727.0	10.373.2	83228.3
6間			350.4	2.337.1			350.4	2.337.1
6間未満	3.582.0	13.581.3	15.510.3	56161.4	243883.3	734292.8	262975.6	804035.5
計	6254.3	43.119.1	17.314.9	72.702.6	278629.2	1.110.276.2	302.1984	1.226097.9

大阪市(舊市街)ニ於ケル官有道路

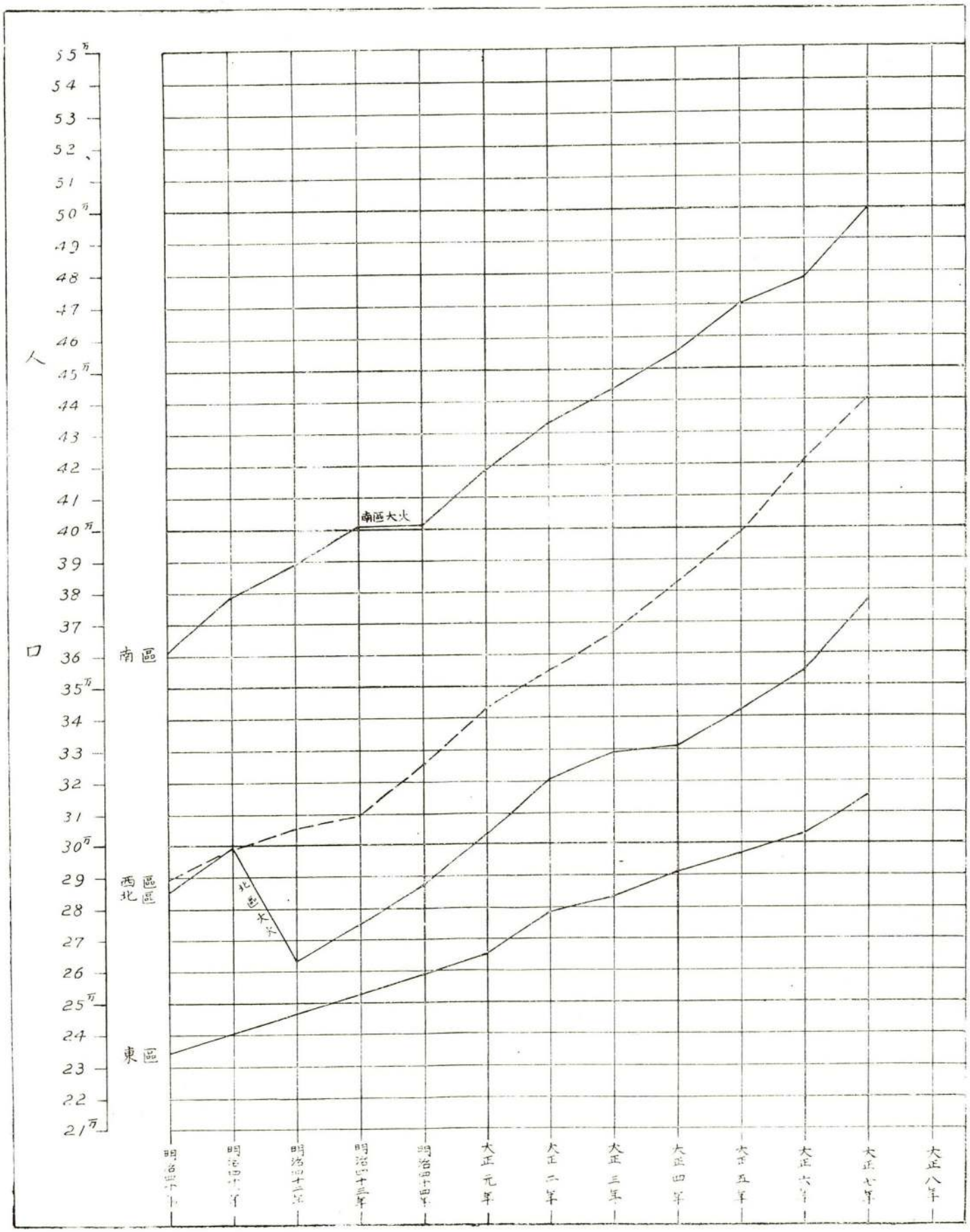
幅員	東區		西區		南區		北區		全區	
	延長	面積	延長	面積	延長	面積	延長	面積	延長	面積
6間3							80尺	504坪	80尺	504坪
6.			440	2640	640.	3840			1080	6480
5.5	150	825	70	385			1.030	5665	1250	6875
5.	72	360	1.470	7.350			950	4.750	2.492	12460
4.8			130	624					130	624
4.5			170	765					170	765
4.3	12.727	54726.1	10.750	46225	8.170	35.131	6405	27.5415	38052	163623.6
4.	790	3.160	690	2.760	915	3.660	3.195	12.780	5.590	22.360
3.5			560	1.960					560	1.960
3.3	17825	58822.5	21.200	69960	16059	52.9947	√0605	34996.5	65.689	216.773.7
3			1.420	4.260			870	2.610	2290	6870
2.5	215	5375	1.300	3.250	855	2137.5	2.395	59875	4765	119125
2.	700	1.400	580	1.160	737	1474	700	1.400	2.717	5.434
1.5	38	57	70	105	630	945	400	600	1.138	1.707
1.	300	300	250	250			380	380	930	930
合計	32.817	120.138.1	39.100	141.694	28.006	100182.2	27.010	97121.5	126933	459278.8

備考　本表ニ電鐵軌道ヲ含マズ。

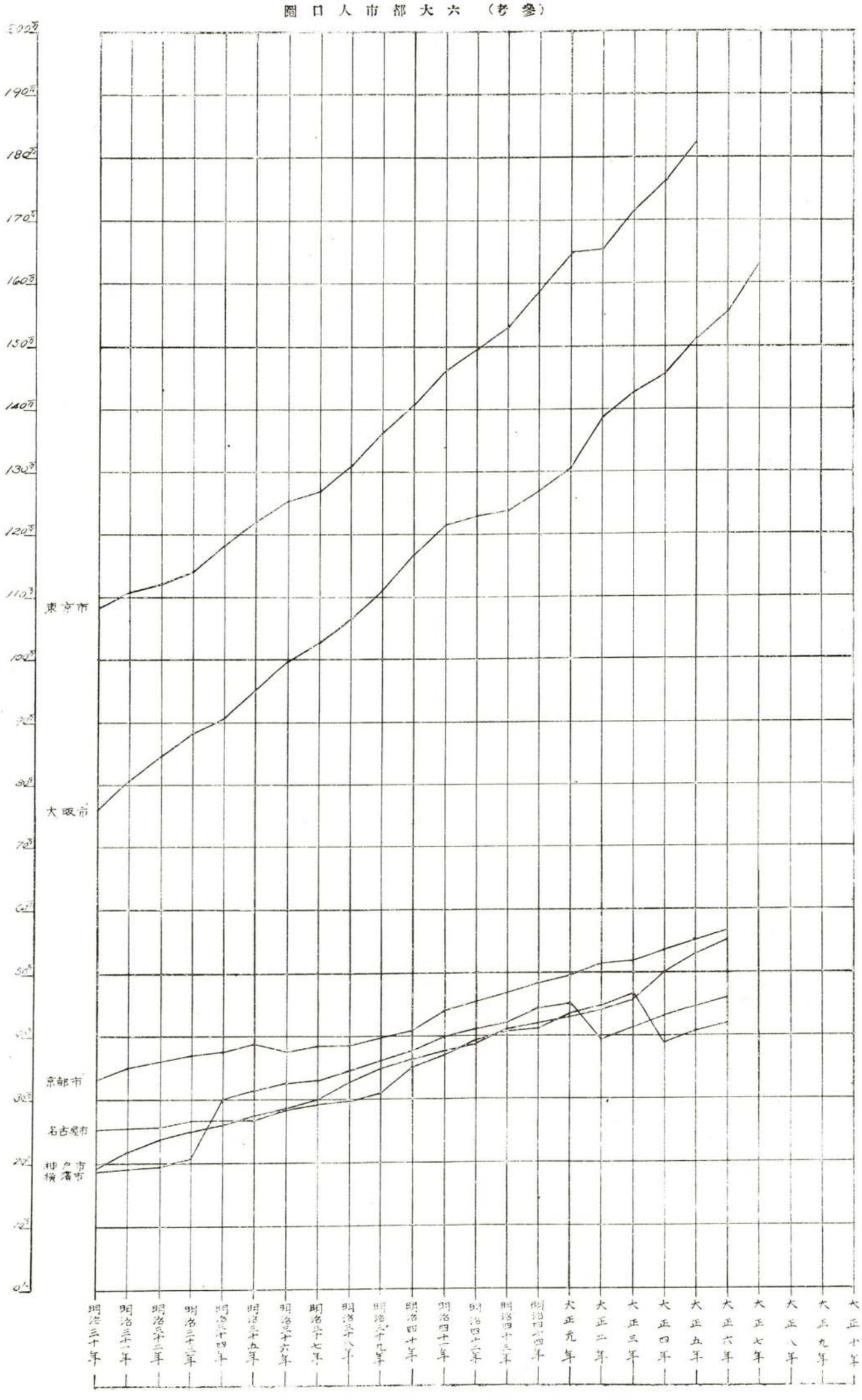
大阪市所屬公園

名稱	位置	面積(坪)
天王寺公園	大阪市南區天王寺	49.692
中之島公園	〃 北區中之島	20.196
西九条小公園	〃 西區九条上町	2.067
住吉(新松)園	〃 東區神宮前町	413
北野小公園	〃 北區北野東町	414
野田小公園	〃 北區西野田北町	376
清水谷小公園	〃 東區清水谷西町	691
阿部野小公園	〃 西區松屋七番町	519
九條小公園	〃 西區九条通三丁目	426
築港遊園	〃 西區築港	5.179
木津小公園	〃 南區木津北島町	708
計		80.501
住吉公園	東成郡住吉村	385.37
浜寺公園	泉北郡濱寺町	147.000
箕面公園	豊能郡箕面村	256.200
大濱公園	堺市大濱	55.540
合計		577.735

大阪市靜態人口圖


人口
55万
54
53
52
51
50万
49
48
47
46
45万
44
43
42
41
40万
39
38
37
36
35万
34
33
32
31
30万
29
28
27
26
25万
24
23
22
21万
南區
西北區
東區
南區大火
北區大火
明治四十年
明治四十一年
明治四十二年
明治四十三年
明治四十四年
大正元年
大正二年
大正三年
大正四年
大正五年
大正六年
大正七年
大正八年

（參考）六大都市人口圖


東京市
大阪市
京都市
名古屋市
神戸市
横濱市
明治三十年
明治三十一年
明治三十二年
明治三十三年
明治三十四年
明治三十五年
明治三十六年
明治三十七年
明治三十八年
明治三十九年
明治四十年
明治四十一年
明治四十二年
明治四十三年
明治四十四年
大正元年
大正二年
大正三年
大正四年
大正五年
大正六年
大正七年
大正八年
大正九年
大正十年



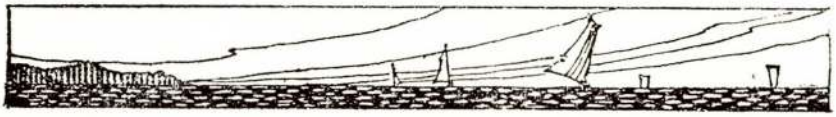
女流の建築觀

氣分から湧いた 理想の住宅

美代子

或る時、或る知人のひと、色々な建築の事に關した話から、自分の住宅として一度は建てゝみたいと思ふ家屋の設計を、一生懸命に眞劍になつて考へてみたり云ひ合つたりした事があります。『若し私の云ふ樣にしたら幾何程お金が要るでせう』『さあー五萬圓もあつたら出來やしないでせうか』さう云つて、とても、今の處出來さうもない事に諦めをつけて、『御苦勞樣ね』と笑ひ合つたこともあります

大体のヒントは色々な方面から與へられた事ですが所謂私の、その理想的な建て方を次に書いてみやうと思ひます。但し、これは極く簡素な、寂かな、趣の深い、時だの時代だのに煩らはされない、只もう自由に氣儘に氣分にまかせた空想的なものですから、理智的に解剖したものではありません。若し境遇が容したら



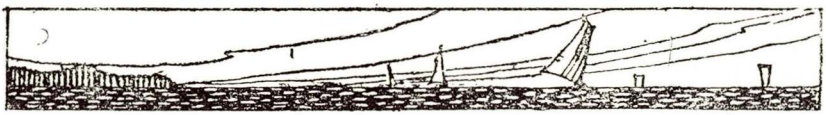
そんな處で靜かに暢ん氣に考へたり、讀んだり書いたり出來たらいゝだらうと思ひました。

何といつても年々にふえるのは西洋式建築のやうです、そして堂々たる西洋建築は別として、市街の場末近く建てられる西洋風家屋は、大抵外觀丈けは立派でも、多く內部はお粗末といふ樣なのが尠くありませんですから外より觀た感じと中に入つての感じが妙に相違して、ちぐはぐとした大變な氣持ちを抱かせられるとも、神經過敏な者にとりては不快なものであります

私の考へでは、外觀は粗末でも、內部が非常に整つた、寧ろ贅澤な程だつたら面白いと思ひます。先づかりに想像してみるなら、兩隣りも、向ふも、附近は皆堂々たる立派な西洋建で、そして私の住ひはその西洋建てと西洋建てとの間に介在した、純田舍式の住ひ、としたら如何でせう。

表通りは塀を用ひず、代りに黑みどり色の深い、生きた杉垣でぐるつと取り圍みます。一寸申し添へますが、地所をなるべく思ひきり澤山取つて、さう、尠くとも八十坪から百坪位はなければならないでせうか。場所は全然田舍でも不便で困りますから、市街と郊外との堺目位な、空氣の良い、樹の澤山な捨のいゝ處なら申分ありません。

向つて右手よりに、簡素な氣取らない、お茶式でない、割合に平凡な門を拵へます。門を這入ると玄門迄二三間の間、苔のついた甃を敷き詰めてあります。玄間と門との甃道の左手は所謂お庭で、然しそれは決して日本式の庭園ではなくて殆んど田園式の極く飾り氣ないものであります。先づ杉垣に添ふて左手の一隅は何處迄も廣い奥行を想はせる樣な一叢の竹林を拵へらる、そのあとの一面は全面朝鮮芝でもつて埋めますから、まるで絲の毛布でも敷いたやうに美しいだらう。



と思ひます。そしてその芝の眞中ごろに、竹籔近くに眞黒なやゝ大きい牛の寝たやうなごつしりとした山石を一箇据へます。そして竹籔の中には、如何にも不自然でなく、極くのんびりとした山椿二三種を交へて植ゑ付けるのですが、若し之を外から通り懸りの人でも見たらスク〳〵と丈の延びた翠色滴るやうな竹の中から、眞赤な血の燃ゑるやうな、椿の花の花瓣がちよい〳〵と透かして見ゑる態がどんなにか美しいに違ひありません。そして前記の山石の側に若し淋しかつたらざくろか梅か、松かを一本丈け植ゑて添へるのも差し支へないでせう。つまりこの庭は、餘り廣くはありませんが、椿と竹、芝、石から出來上つた、ほんあつさりとしたものです。

前に戻つて玄關の説明に返りますが、これも極く平凡で、田舍式の骨の太い腰障子の三枚戸を極く無造作に立てゝ置くに過ぎませんそれを開けて這入ると、一坪ばかりのふみ込みがあつて、玄關の疊敷も只二三枚といふ狹いもの、只その玄關につゞいた向ふが、よく吹き込んだ巾一間ばかりの廊下があつて左手に長くつゞいて純日本風の八疊の座敷へ行くやうになつてゐます。そして若し來客があるとすれば、その人は玄關に立つたまゝ前の廊下と、その次の奥庭と、更に向ふの奥座敷を眞正面に（後項に説明）のぞみ得るやうな具合になります。奥庭もやはり朝鮮芝と、石と、櫻の木一本程にとゝめます。

前に云つた左手の八疊は先づ客間と云つた樣なもので、本床、違ひ棚、皆簡素にして、贅澤ではないが、座敷の造作や木材は細心に注意したものを用ひます、その座敷から又廊下を隔て右方奥庭へ突き出て六疊程の西洋室を拵へますが、之ばかりは、この屋敷に思ひ掛けない程の非常に灼爛な中の調度の贅澤な、立派な



ものにしたいと思ひます。例へば全体の室内の大体は深い沈んだ、重い色を基調として、組みますけれど、其中にとき色張りのびろうどの椅子、又、茶地の錦繍を張つたソファーに、紫がゝつた落ちついた、そして素晴らしくいゝ西洋名畫の油繪、或は、窓近くに銀メッキした純白な籠を置いてその中には矢張り眞錦の様に白い柔やかな鸚鵡を飼つて置きます。窓は快濶で寧ろ大き過ぎる位、かうなるとカーテンの模様や色を何にしていゝか一寸見當がつかなくなります。前の八疊の日本間から矢張り廊下が右折して奥へ行く最初の隅に二枚の杉戸を嵌めて便所にする、その杉戸はよく京都の寺院等で見かける様な古い形式のもので、その全面には隨分目覺ましい日本畫、綠と紫を使つた床しい杜若か、白い胡粉を思ひきり使つた漫開の櫻かを一抔に描かせる、その前を通つて廣い廊下を傳ふと、前記の離れ座敷（玄關から見えた）になつてゐてそこは六疊位ひの書齋である。その間の左方、後の空地は矢張り竹籬にしてもいゝし野菜畑等にしてもいゝ。

別に玄關に隣つた右手に臺所を拵へて、その隣り、後方に四疊半と六疊位ひの家族の居間を作ります、この處はもうすつかり實用的で、床等はなく、押入れ棚抔を多くするのです。後は便所が在つて、其他の空地やその周圍は物乾し洗濯場にしたらいゝでせう。

平家建てゝ向きはちよつと西によつて北向にしますから光線は充分西南方全部から申し分なく這入るわけ家族五六人の見當です、空地が充分ですから、必要に應じて建て增しは自由に出來るでせう、無論素人の考へですし、猶又氣分本意な出鱈目ですから、本當の建築法から云つたら、目茶苦茶だらうと思ひます面倒ですが座敷の周圍すべてに椽をつけて、硝子戸でも立に廻りてます。ぽつん〳〵と一間〳〵が獨立した形にするのです。

『そんな風な家を建てたら貴女はその西洋間ばかりにへばりついてるでせうね』

『さうかもしれませんわねそしてピアノでも叩いたらぶちこわし、ね』

さう云つて大笑ひしました。





〔藻苑〕

俳句

秋双選

口蜂

巣を焼いて蜂のさわぎを見たりけり　露笛
蜂の巣や隣の庭樹夕日さす　木刀
菜の花を生けしに蜂の來りけり　人生
探險隊熊蜂に襲はれまどひけり　暁天
蜂の巣や山寺の廂朽ちてあり　烏白
雨晴れて密蜂とぶや花の上　尚巾
本堂の屋根裏蜂の巣ありけり　巴水
濠端の茨蜂の巣ありにけり　鳩口
耳をかすめて蜂堤上を眞直に　同
干網に陽炎たつや蜂の來る　同
すぐそこへ止りし蜂を見入りけり　秋双

口落花

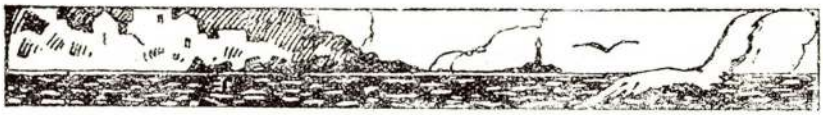
我庭に隣の花の落花かな　烏白
參宮の御苑はすでに落花哉　同
杯洗に浮ぶ落花を掬ひけり　木刀
吹く風に篝火燃ねて落花哉　同
讀經高く落花踏んで登山哉　暁天
奉納の手拭に花吹雪かな　同
小社の落花松間に眺めけり　尚巾
堤防を窓に凭り見る落花哉　同
庭芝の朝のしめりに落花かな　秋双

口行春

行春や繩に干したる足袋白し　巴水
看板を塗り替ゆる店や春の暮　同
行春を机上の櫻ちりにけり　人生
三井寺の晩鐘春は行きにけり　同
泉水の鯉跳ねて行きにけり　大津
行春の女に白髪抜かせ居る　秋双

口朧

家移りや勝手朧の手水針　木刀

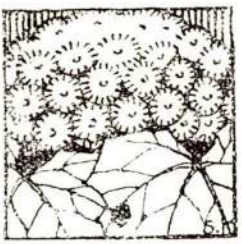


山高し下より上に朧かな　同
櫻島の雄姿朧に海の音　同　巴水
朧夜や數なき家の灯の光り　同
松にもる別莊の灯朧かな　同　暁天
朧夜や新町橋に何を見る　同
大樹の上に星一つ見ゆ朧かな　同　烏白
朧夜や先き行くものは女なり　同
朧夜や男女語ろうに行逢ひぬ　同
對岸の障子に影の朧かな　同　尚巾
橋燈朧に女佇み語りけり　同
朧夜や舟べりを打つ水の音　同
松の木間高燈籠の朧かな　同　大津
灯の入りし道頓堀の朧かな　同
橋上の乞食朧に坐りけり　同
買物に出掛ける女門朧　同　人生
港畔を離れ行く舟海朧　同
公園に寢ころぶ犬や松朧　同
見送りの人朧なり舟靜か　同
燈臺の光りを包む朧かな　同
東叡山の鐘朧夜でありにけり　同
佇める人朧なる野路かな　同
戸を明けば夜の柳の朧かな　同

橋上を行く辻占賣や夜の朧　同
淡路島行交ふ舟の朧かな　同　露笛
朧夜や夜行列車に旅立ちね　同
馬車に燈点す驛の朧を通りけり　鳩口
山黒う迫る列車の窓朧　同
山寺の灯をあてに朧の中を行く　同
漁火や橋の朧に佇めり　同　秋双
朧夜を斯くして居れば怪まれ

□蛤

蛤汁參宮の一夜泊りかな　巴水
蛤賣の戻りの籠に夏密柑　同
食卓の蛤殻に小供かな　烏白
蛤や庖丁さして摺鉢に　同
竈の火燒蛤にくすぶけり　鳩口
厨暗し桶の蛤舌白き　同
冷ねきりし蛤汁に曇り來る　同　尚巾
蛤の軒を並べし市塲かな　木刀
到來の蛤くさし春の暮　暁天
立食の燒蛤や松の蔭　人生
蛤を桑名に買ふて贈りけり　秋双
板敷に一つ蛤乾きけり



時報

◉大阪市營住宅增築

大阪市に融通さるべき低利資金五百萬圓の內市は百萬圓を民間經營の會社に貸與し住宅を經營せしむる方針なることは既報の如くなるが會社との轉貸條件調はざるため過般市參事會室に關係部課長會議を開き同資金の使途に就き協議したり、其結果百萬圓を以て市は再び住宅を經營することゝなりたるも築港既設住宅附近に全部を集中せしむることをさけ一部は監獄等敷地に建設すべしとの意見多數を占めたれば急速に都市計畫部に於て監獄跡敷地の街區計畫を樹て其上にて同所の建築戶數を決することゝなれり、監獄跡敷地は主として市區改正施行に依る立退人の移轉地たらしむるため同所に多數の市營住宅を建設することは到底不可能なるべしと

◉大阪府の住宅經營

大阪府が府吏員の住宅難を救濟すべく府下各所に住宅を經營すべきことは既報の如く過に臨時府會終了後協議會を開きて上田內務部長より議員の協贊を求むる所あり其後府に於ては財源敷地其他各方面に亘り種々調査を遂げ四月六日午後三時開會の府參事會に提出異議なく可決したるが其の案に據れば府費六十二萬千三百二十圓及國庫下渡金七萬八千六百八十圓計七十萬圓を投じ市外天王寺常盤通りなる三箇所の官有地三千坪並に各邸に百六十六戶の住宅を甲三十六戶（一戶當六千圓）乙十三戶（一戶當四千二百四十圓）丙百二十七戶（一戶當三千四）の三種に別ち收容者は吏員中等教員圖書館員商品陳列所員等府の關係者に亘り大體甲種は學校長乙種は高等官同待遇者丙種は判任官其他にして府費は淀川堤防敷賣却地より得たる一部分より支出すべく直に工事に着手八月頃竣工の豫定なりと

◉御料林本の拂下

客月六日の官報にて公布されし明治四十五年七月十日宮內省第七號第一條第三號の「重要製品製造の爲めに要する原料燃料並に方法の爲に要する材料及び輸出に充つべき產物を「其當業者に賣拂ふ」時とある條項中及び「輸出に充つべき產物」を

創除したるに就き帝室林野局前長官で宮内省參事官たる南部光臣氏は語る「目下材木の價額は容易に騰し殆ど天井知らずの有樣なるが從來材木御拂下げは隨意契約で特殊受負人に決りありし爲受負人は御拂下げを受くると主として海外に輸出するより今回隨意契約を廢し一般公人札に附するとになれり材木給供不足の折柄實際の必要に迫られての事にして內地の建築界の爲め一大福音と云ふべきなり要するに住宅難と材木拂底の折柄價額は之か爲め幾分緩和さるべしと信ず

◎市路面改良案決定

過般都市計畫の發表以來大阪市にては直木都市計畫部長、岩田土木部長、清水技師等の手にて道路面の改良に付鋭意計畫中なりしが愈具體案出來し四月十二日午後三時發表せり而して其計畫に依れば先づ道路を歩道と車道に分ち二十四間道路に於ては左右の歩道は各四間づゝ、電車自動車、荷車、人力車等の通行する車道は十六間とし十八間道路は左右の歩道各三間づゝ車道が十二間、十六間道路は歩道各二間づゝ、車道が十一間、十三間道路は歩道各二間、車道が九間、十二間道路では歩道が各一間半づゝ車道九間と決定し又左右の歩道と中央の車道との分界線に於ては歩道面は車道面より五寸高くし更にポプラ楊柳其他の綠樹を植ゑ水道鐵管は歩道の地下三間に下水道鐵管は歩道車道分界線の地下二間に埋め、歩道はコンクリートブロック、車道は木煉瓦或は石造にする計畫なり

右について岩田土木部長は語る「路面の改良として歩道車道の二部に分ちしが歩道は凡てコンクリートにて固める計畫で恰度坪十八圓を要し車道は凡て木煉瓦或は市街の事情に依つて石道にも成し、木道は坪五十五圓石道は五十圓を要す重い荷車などの通る所は何うしても石造なるを要す次に家と歩道との關係が此計畫の重要問題となるなり先づ日本風の家屋なら屋根の廂の尖端から歩道面に垂線を引き地上に達する點に其家の柱との間の距離が假りに二尺とするならば、此二尺の地面は民有地で歩道中に入らざる事となる一方車道は中央が無論電車道にして其左右が自動車荷車等の道となり、自動車一臺の道路を占有する道幅から言はゞ八尺では危險を感ずるが故十尺の豫定なり、されば二十四間道路では約三臺の自動車が一列橫隊に走ることが出來るわけなり、尙現に存在してゐる道路だけの改良工事費のみを擧ぐるも約一千五百萬圓を要す工事は本年中に着手する考へなり

◎都市計畫實施設計案

大阪府廳內に設置せる大阪市都市計畫課に於ては內山技師主任となりて市役所都市計畫部と協同し地方委員會に提出すべき實施設計の調査を行ひつゝあるが最初提出すべきは都市計畫施行區域及び商工業住宅各地域と各幹線道路等の實施設計案にして地域の決定に就ては既に大體の成案を得て過般內山技師上京內務省當局と懇談して或る程度の諒解を得たる模樣なるも商工業地と住宅地の區分に就ては地理及び水陸交通關係其他各種の事情によりて種々の異なれる意見あれば最初の委員會開會迄に確定案を得るや否やは未だ不明なり而して各幹線道路の設計案に

是非とも提出する意嚮にて市内は市に於て都部は都市計畫課並に府土木課協力して實地測量中に屬し能勢街道阪神國道は既に測量を終了し目下龜岡及び京街道の測量中にして中國街道も近く着手する豫定なるが他の各線も六月迄には測量を終了して全部を一括提出する見込なりと云ふ尚地方委員は未だ內閣より任命に接せざるが一方中央委員會には大阪都市計畫に關係ある衆議院議員を委員として加ふる由なるも衆議院解散の結果自然總選擧を俟つ必要ありて地方委員の任命も總選擧後に行ふ意嚮なるが如し然れば地方委員會の成立は多分五月下旬となり第一回委員會の開會は六月に入る見込なりと

◉世界の物價指數

大藏省にて此程調査したる世界主要都市に於ける時局後の物價昂騰の狀況は巴里に於て最も著しく一千九百十八年中平均に入つては依然巴里を最高とし倫敦紐育等之に亞ぎしが越えて一千九百十九年に至り東京市物價の昂騰率は漸次其他の都市を凌ぐに至りたるが今其の傾向を示せば左の如し

	倫敦	紐育	巴里	東京
一九一三年中一ケ月平均	100	100	100	100
一九一八年中一ケ月平均	二三五	一三〇	三三九	一九六
一九一九年一月	二二七	一〇一	二四八	二一四
二月	二二五	一九一	二四〇	二一三
三月	二二三	一八七	二三六	二〇六
四月	二二四	一八八	二三三	二〇七
五月	二二三	一八七	二三五	二一五
六月	二三〇	一九七	二三〇	二〇九
七月	二四〇	二〇五	二四七	
八月	二四二	二一七	二五〇	
九月	二四五	二一三	二五七	
十月	二五二	二一三	二七三	
十一月	二五九	二一七	二八六	
十二月	二六三	二三〇	二九四	



會報

會報

◉我會誌『建築と社會』は、近來增々會員外の購讀者が殖へて參りました、殊に、前々號より大阪市内の主要書店に配本致しまして、其他地方にも多少參りますので、漸次地歩を擴げて居ります。

◉本誌は、我協會の機關誌たると同時に一般社會的に觸れるよう、編輯上の苦心は一方ならぬ譯でムいますが、毎度申すようでムいますけれども、會員各位の作物が今一層多く載るように致し度いと、編輯者に於ても切望して居るのでありますから、各位の御特權である處の本誌を充分御利用くださいませ。

◉過般亞米利加へ行かれました同人波江悌夫氏は、別項の通り歸朝されましたから齎し歸られました豊富な思嚢を披かれまして、本誌も賑ふことにならうと存じます。同氏は何分歸朝の行李を解かれてまだ間もない事ですから、何れ次號より載せて頂く事となりましょう。

◉前號にも申上げるように、編輯者は毎號の當初其月に於ける會誌の計畫を立つる爲御寄稿等の御承諾を得て、是により計畫を組織立てられたに拘らず、愈々となつたとき原稿を頂戴出來得ないとなれば、編輯者として此の位熱湯を浴びされるような思ひのする事はありません、切に御省察を願ひます。

圖書

（交換）

建築雜誌	第三四輯第三九八號（建築學會）
建築世界	第十四卷第四八號（建築世界社）
住宅	第五卷第四號
工業之大日本	第十六卷第四號（工業之大日本社）
鐵と鋼	第六輯第四號（日本鋼鐵協會）
建築新報	第二卷第四號（建築新報社）
通俗衛生	第二三〇號（大阪衛生會）

電氣協會雜誌　第三八〇號（電氣協會）
木材新聞（其社）
建築業協會々報（其會）
建築評論　第二卷第四號（建築評論社）
新住宅　第一卷、第四號（其社）
藏前建築　第九號（東京工高建築科）
ペイント商報（其社）

會合

改良住宅設計案展覽會及賞金授與式

日時　三月二十四日午後二時―五時
會場　大阪市中央公會堂二階五、六號室
記事　當選設計案全部の展覽を爲し、豫て參觀券一千五百枚を配附せるが、當日參觀者壹百參拾名に達せり。午後二時より賞金授與式を擧行し、宗、葛野の兩理事立會、片岡理事長より夫れ〳〵に封金を授與すると共に奬勵の辭あり、當日出頭されしは當選者油谷清次、藤原東、荊木由太郎の三名にして、其他は、代理受領の上夫れ〳〵送附せり。

◉理事會

日時　四月九日正午―午後二時
會場　大阪倶樂部
出席者　片岡、宗、葛野、江村(編)
記事　▲新に事務所借入れに付諸調度購入書記給仕任用　五月例會を春季大會となし、新歸朝會員及渡米會員の送迎會を兼ぬる事に決定し、更に入會希望者別項の諸君に對する詮衡を爲せり

◉例會

日時　四月十五日午後六時―九時半
會場　新事務所（別項不動貯金銀行ビルディング二階）
出席者　橋本、土居原、青田、三木、小笠原、大林、葛野、片岡、片山、吉井、呼子、吉木、谷、宗、內藤(太)能邨、山本、八尾、光安、澁谷、平島、菱田、森(正)、森(篤)瀨戸
記事　▲宗主記例に依りて座長推選を諮り、橋本氏を指名して、同氏座長席に就く▲宗主記より、(一)當協會事務所を別項の通り五月一日に移轉(二)理事會にて決定せる新入會員(三)五月例會を春季大會とする事等に就て報告あり、更に第七部委員會の曾て決議事項中未報告の分に對して報告し、之が承認を求め、瀨戸同部委員長よりも報告あり。片岡理事長より建築材料聯合調査會に關して當協會より委員として片岡、瀨戸、野村の三君列席の旨を報告あり、更に瀨戸委員より仝調査上の申合せに就き詳細なる報告ありたり▲終身賛助員の一時納付會費額を參百圓以上に引き上ぐる事を理事會に於て詮衡に決す

會員消息

◉新入會員

別項所載の通り、四月九日の理事會に於て、左の通り入會を承認したる結果新に入會されたり。

終身賛助員　野村亥之助君
會　員　佐藤清八君
　　山本辰次郎君
普通賛助員　占部定一君　永江亘君
　　城戸義起君、藤本賢太郎君
　　松下藤治君、桑名兼太郎君
　　北條時一君

◉歸　朝

曾て渡米中なりし會員久保田繁三君は去る三月十六日、會員波江悌夫君は四月十五日、無事視察を了へて横濱着歸朝されたり。

◉渡　米

終身賛助員大林義雄君及會員松本禹象君は四月二十八日横濱發にて渡米されたり

◉住所移轉

（會　員）移轉先

浦　英之助君　神戸市上澤通七丁目五番屋敷
山崎　英二君　東京市本鄉區森川町一番地表北裏六七
佐藤　節雄君　兵庫縣武庫郡大庄村西新田

（普通賛助員）

中山　正之君　鹿兒島市築町
　　浪速銀行建築部
植松與右衞門君　北海道新室蘭區濱町
　　第一銀行支店建築場
久米菊一郎君　朝鮮京城府旭町一ノ一
　　七二相澤工務所内

事務所移轉

當協會事務所は五月一日より西區京町堀上通一丁目五番地不動貯金銀行ビルディング三階（電話土佐堀一九七三番）へ移轉せり。

職員異動

書記小谷信藏君は三月限り山崎萬壽夫君は四月限り孰も辭任され、越山達及渡島繁の兩君新に就任

出　品

曩に當協會にて懸賞募集せる改良住宅設計案の内當選圖案全部這回櫻楓會大阪支部の主催にて大阪商品陳列所内に開かれたる生活改造博覽會へ出陳せり

白耳義國首府

ブルュクセル市建築規則

（上）



ブルックセル市建築規則

目次

第一章　公道
廣場、大小ノ街路路次
第二章　街規線
街規線平面圖
大小ノ道路
地面ノ合併及讓與
市吏員ノ決定ニ對スル抗告
街規線及水準
第三章　認許
認許ヲ要スル工事
願書及圖面
突出物
調査期限
認許ノ有効期間
第四章　届出
壁塗及ペンキ塗
第五章　工事着手前認許證ノ奥印
假圍及人除ケ
敷石修繕ノ爲拂フ償金
人除ケ
足代及梯子
卷揚、起重機虎綱及杭
溝堀
石切、壁塗等ノ工事
塵芥工事場ノ点燈
公道ノ維持
柵及材料ノ撤却
構造ノ方則
工事ノ臨檢
工事ノ中止
紛議
第六章　公道ニ面スル所有地ノ外構
外構
第七章　基礎壁
基礎
壁厚及踏出
第八章　建物前面間仕切及妻ノ壁
建物前面ノ高サ
地階及各床等ノ高サ
「マンサールド」
壁厚
入口地覆石楣及側石
木製ノ前面
手摺、笠石上ハ飾等
壁ノ連絡
引鐵
力迫リ
入口及大硝子窓脇法立

梁
足代ノ穴
町ノ標札
第九章　突出物
固定突出物
遊動突出物
根石及側石
圓柱及片蓋柱
窓臺石及入口地覆石
大硝子窓
巻込ガラリ戸
目隠戸並ニガラリ戸
看板其他
戸ノ外開キ
日　覆
硝子葺霧除庇
椽
刎出シ窓
軒　蛇　腹
突出ノ減少
例外ノ突出
第十章　中　庭
中庭ノ面積
第十一章　屋根葺覆材料
屋　根
「マンサールド」屋根
鈎
第十二章　樋
樋
水取リ
第十三章　煖爐吹子場、竈竈
煖　爐
竈　底
煙突ノ胴
附屬家ノ煙突
桶職工場ノ煖爐
旅舘、旅籠屋、珈琲店、居酒屋
吹子場、竈、竈
吹子場竈等ノ臨檢
第十四章　特別構造物ニ認許
出願及圖面ノ呈出
第十五章　下水ニ支管
下　水
私設支管
換氣管
區分「サイフォン」
工事ノ檢査
公設下水トノ連絡
汚物流下管
汚水ノ疏通
水槽ノ溢水
空氣切斷管
下水ノ稅
第十六章　兩便所及各種ノ衛生器
第一部　水便所及水ヲ使用スル衛生器
水　便　所
水便所ノ「サイフォン」（水塞）
流下管ノ換氣
連續ノ小便所
便所ノ模様替
小　便　所
厨房流シ、汚物流シ、湯殿其他係員ノ檢査
第二部　吸收物ヲ使用スル便所
土　便　所
運搬用ノ桶
長屋（便所割合）
第十七章　水ノ供給、井戸、水槽、水溜
拂、古井戸、浸込桝、塵芥溜
飲用水ノ供給
糞尿溜

肥料溜
井戸
水溜其他
埋込井戸、埋込桝等
第十八章　廐舍
廐
第十九章　崩壞ニ近キ構造物
崩壞ニ近キ建築
第二十章　罰則ー違反
違反
原形ニ復舊
第二十一章　最後ノ規定
目次終

ブルュクセル市建築規則

市會ハ千八百三十六年三月四日及千八百四十四年二月一日發布ノ法律、並ニ千八百八十三年一月八日發布千八百八十五年十月五日及千八百九十年三月二十一日改正ノ規則ニ據リ左記條項ノ規則ヲ發布ス

第一章　公道

第一條　總テノ廣場、大小ノ街路、抜道路次ハ市會ノ決議ニヨリ府參事會ニ提議シ皇帝ノ批准ヲ經ルニアラサレハ之ヲ新設シ又ハ變改スルコトヲ得ス

第二章　街規線

第二條　本市ノ街規線一般平面圖ハ市會ニ於テ決議ノ上更ニ府參事會ニ提議シ且皇帝ノ批准ヲ經テ規定ス

市參事會及助役ハ此等平面圖調製ノ任ヲ帶フ

大小ノ道路中街規線一般平面圖ニ據テ規定サレ居ラザル部分ノ街規線ハ市參事會及助役ニ依テ規定ス

大道ニ限リ市參事會ノ決議ニヨリ其地面ノ合併又ハ一部分ノ讓與ヲ必要トスル街規線ハ府參事會ニ提議シ其協贊ヲ受クヘシ

市吏員ノ決定ニヨリ損害ヲ蒙リタリト信スルモノハ場合ニヨリ上級官衙又ハ法廷ニ訴フルコトヲ得

第三條　家屋ノ前面、壁、其他公道ニ面スル外構ハ其構造物及歩道ニ對シ街規線及水準ヲ市係員ニ依リ現場ニ標示セラレタル上ニアラザレハ着手スヘカラズ

現場ニ於テ此等街規線及水準等ノ標示ヲ受ケタルモノハ市役所ニ出頭シ其告知書ヲ請求シ其レニ附隨セル領收書ニ記名スヘシ

前記ノ請求者ハ根石ヲ据付クルト同時ニ檢査ヲ受ケ且精確ニ標示ニ從ヒタルモノタル事ヲ記載セル檢定證ヲ受クヘシ

豫定水準線ヲ示テレ居ル場合ニハ入口地覆石ヲ据付ケタルトキ並ニ歩道ノ構造ヲ終リタルトキニ直ニ前項同樣ノ手續ヲ經ヘシ

第三章　認許

第四條　市參事會及助役ノ認許ヲ得スシテ左記ノ事ヲ爲スヘカラズ

一公道ニ面スル建物、壁、外構ヲ新築改築變更修繕又ハ取毀ツ事並ニ外構ニヨリテ圍繞セラレ居ルト否トヲ問ハズ如何ナル地面ニ於テモ建物、壁ヲ新築改築シ又ハ或建物ヲ住居ニ變更スル事

一規定ノ手續ヲ經タル街規線平面圖ニ據リ公道ニ編入サルヘキ地面內ニ於テ新築改築等ヲ爲ス事並ニ此等ノ地

面ニ於テ其公道ノ境界ヨリ幾何ノ距離ニアリト雖モ既設建物ニ變更ヲ爲ス事又ハ保存上ニ必要ナル工事以外ノ工事ヲ施ス事

一土工ヲ施ス事

一井戸ヲ堀ル事

一糞尿溜ヲ設ケ又ハ改廢スル事

一公道ヲ橫斷シテ下水並ニ其支線等ヲ設クルカ或ハ如何ナル性質タルヲ論セズ溝ヲ設ル事及腐蝕性ノ汚水ヲ公設下水ニ注入シ又ハ之ニ蒸汽ノ排出口ヲ接續スル事

一公道ニ面スル壁ノ上又ハ之ニ倚頼シテ如何ナル性質タルヲ論セズ器械ヲ取付ル事

一如何ナル地所タルヲ問ハズ工場多衆集合ノ場所（芝居、覩世物等）ニ適用スル事又如斯認許ハ或ハ地所ヲ厩舍ニ使用スルカ又ハ便所等新設ノ場合ニモ必要トス

第五條 總テ家屋及之ニ附屬セル建物ノ持主ハ工事着手前市參事會ヘ所有地所ノ平面圖庭ニ使用サルヽ地積ヲ示シタルモノ並ニ既設物ノ平面及斷面ニ書キ入レ及色分ケ等ヲナシタルモノヲ提出スベシ又清潔法ニ關シ與ヘラルヽ命令ハ服從スルモノトス

建物ヲ變更又ハ修繕セントスル者、店舖ノ大硝子窓、壁或ハ他ノ總テノ外構ヲ新設改造變更又ハ修繕セントスル者ハ其建物ノ前面硝子窓又ハ外構等ノ構造ヲ示ス平面側面及斷面等ニ總テ書キ入レヲ施シ之ヲ其認許請願書ニ添付シテ差出スベシ

壁ノ厚、椽ノ突出、入口、窓、大硝子窓等ノ明キ鐵梁柱及持送リノ位置及其寸法並ニ建物ノ跨腹ヲモ示スベシ

此等ノ圖ハ家屋持主ノ署名ヲナシ一米突ニ付二仙米突ノ尺度ヲ用ヰ二通調製スベシ

此二通ノ圖面ハ請願受付ノ際捺印シ寫布ニ引キタル一通ハ綴込ニ保存シ厚紙ニ引キタル一通ハ若シ變更ヲ命シタル場合ニハ其レヲモ記入シタル上精確ニ之ニ從テ施工スル爲メ申請者ニ返付スベシ

第六條 日覆、看板、街燈等ノ如キ公道ニ突出スル物体新設ノ認許ヲ得ントスル者ハ請願書ニ物体ノ形狀寸法並ニ此等ヲ取付ントスル建物ノ部分ノ圖ヲモ示スベシ

第七條 市參事會及助役ハ圖面提出ノ日ヨリ十五日間ニ其建築ニ關シ調査決定ヲ與フベキモノトス

尤モ之ハ規定ノ街規線平面圖ニ於テ道テ公道ニ編入サルベキ地面内ニ於テ爲ス工事ニアラザル場合ニ於クルモノトス若シ然ル場合ニハ市參事會ハ請願受付ノ日ヨリ三ケ月以内ニ調査ヲ遂クベキモノトス

所有權ノ問題ニ關シテハ如何ナル場合ト雖法廷ノ判決ニ反セザル範圍ニ於テ市參事會及助役ノ決定ニ對シ府參事會又ハ場合ニヨリ皇帝ニ上願スルコトヲ得ルモノトス

第八條 第四條及第七十條ニ揭ケタル認許ハ其認許ノ日付ヨリ一ケ年以内ニ執行セザルトキハ無效トス

市參事會助役ハ工事ニ著手セントスル日ヲ書面ヲ以テ通知ヲ受クベキモノトス

第四章 届出

第九條　市參事會及助役ニ前以テ届出ヲ爲サズシテ左記ノ事ヲ爲スベカラズ

一公道ニ面スル建物ノ前面又ハ外構壁ノ漆喰塗、ペンキ塗、胡粉塗工事

一又如何ナル件質タルヲ問ハズ足代架設又ハ假ニ歩道上ニ物体ヲ置ク必要アル工事

本條ニ揭クル届書ハ所有者ニ依リ工事ニ著手セントスル日ヨリ少クトモ四十八時間前ニ市參事會ニ提出スベシ

市役所ニ届書ヲ差出濟ノ事ハ市參事會ヨリ所有者ニ交付スル領收證ニヨリ證明スルモノトス

第五章　工事ニ保安法

第十條　本規則第三章ニ揭ケタル工事ヲ施行セントスルモノハ其認許證ニ先ツ其工事施行地所轄警察官ニ依ヲ奥印サ乞ヒタル後ニアラザレバ着手スベカラズ

尙其工事タル公道ニ接シ施行スルモノタルカ又ハ柵或ハ人除ケヲ設クル必要アルモノナル時ハ所有者ハ著手ノ日ヨリ少クトモ二十四時間前警察ニ届出ベシ

第十一條　建築師、受負人、石工、其他共以上示ス所ノ工事ニ關シ必要ナル認許ヲ受ケタル後或ハ第九條ニ於テ規定セル届書ヲ差出シタル後ニアラザレバ着手スル事ヲ禁ズ

第十二條　公道ニ面スル建物或ハ外構ノ壁ヲ築造シ改造シ又ハ取毀ツ時又ハ建物ノ前面ノ變更ヲ爲ス時ハ其所有者ハ少クモ二米突ノ高サヲ有スル柵又ハ人除ケヲ其所有地ノ前面及左右折曲リ共設ケタル後ニアラザレバ著手スルコトヲ得ズ

此柵ハ警官ノ指圖ニ從ヒ堅固ニ設クベシ

柵ハ歩道上ニ於テ其車道境ノ椽リ石ニ沿ヒ設置スルモノトス

柵ノ内ニ設クル入口ハ内開キトシ鐵物及錠前ヲ附シ毎日工事終業後ハ閉鎖スルモノトス

材料ハ柵ノ内ニ置クベシ

持主ハ市參事會ノ特許ニ依リ柵ヲ公道敷石内ニ設ケタル時ハ其撤却後敷石修繕ノ爲メ一米突ニ付キ五十仙ノ償金ヲ市ニ拂フ可キモノトス工事受負人ニ上記ノ工事ヲ柵取付ケ前ニ着手スル事ヲ禁ス若シ持主及工事受負者ノ不注意ニヨリ本條ニ反スル事アル時ハ柵ハ其者等ノ費用ヲ以テ市役所ニ於テ設置ス

第十三條　建物ノ前面或ハ外構ノ壁ノ變更ヲ爲ス時又ハ一部分ヲ改築又ハ取毀ツ時其持主ハ場合ニ依リ市參事會及助役ヨリ柵ヲ設クル事ヲ免許サルヽ事アルベシ

第十四條　持主建物ノ前面又ハ公道ニ面スル外構壁、屋根等ヲ修繕スル時ハ其修繕スル所有地ノ両端及其歩道ノ巾全部ヲ占ムル樣曲折リニ人除ケヲ設クルモノトス

建物ノ前面ノ壁及ペンキヲ塗替フルモノ又同樣ノ義務アルモノトス且此工事ハ梯子又ハ足代或ハ市參事會及助役ニ依テ其使用ヲ許可サレタル職工ノ生命ヲ安全ニ保護スルニ足ル道具ニヨルノ外施行スベカラズ建物ノ前面及外構壁變更ノ許可ヲ得タル所有者及其一部分ヲ取毀チ又ハ改築スル者ニシテ市參事會及助役ヨリ柵ヲ設クルコトヲ免許サレタルモノ又前同樣ノ義務アルモノト

ス

右ノ外本條ニ於テ揭クル工事ガ變災ヲ釀スベキ疑アル時ハ市參事會ハ上記ノ外必要ト認ムル他ノ注意方ヲ命スル事ヲ得

第十五條 工事ニ使用スル足代及梯子ハ公道ヘ職工及材料等ノ墜落セザル樣堅固ニ取設ケ其歩ミ板ハ固着セシムルモノトス足代及梯子ノ各床ハ木製ノ丈夫ナル二本ノ横木又ハ充分丈夫ナル二本ノ鋼ヲ一方ノ建地ヨリ他ノ建地ヘ取付クルモノトス、其内一本ハ歩ミ板ノ上端ヨリ五十仙米突ノ高サニ於テ又ハ他ノ一本ハ体ヲ支フル樣手摺ノ如ク取付クルモノトス

同樣ノ手摺ハ可成上部ノ床ニモ同ク取設ケ置クベシ

足代ニハ少クモ一ケ所ノ登リ梯子ヲ取設クベシ其梯子ノ子ハ鐵製持送リノ如キモノヲ取付平均一段六十仙米突ノ距離ニスベシ工事場ニ圍ヒヲ設ケザル場合ニハ足代及梯子ノ下端ハ歩道ノ表面ヨリ三米突以上ニアラザレバ設クルコトヲ許サズ

特別ノ場合ニヨリ梯子ヲ歩道ヨリ假設スルトキハ建物前面ノ兩端ニ高サ二米突ノ丈夫ナル柵ヲ足代ノ巾丈ケニ取設クルモノトス總テ道路面ヨリ架設シタル梯子ノ下部ニハ常ニ職工ヲ一名付ケ置クベシ

滑車、綱其他總テノ工事用器具ハ丈夫ナルモノニテ且完全ナル狀態ニアルベキモノトス

第一階以上ニ達スル梯子ハ建物ノ前面ニ取付ケタル滑車及綱ニヨリ之ヲ建テ且其上部ヲ支持スベシ

第十六條 市參事會ノ許可ヲ得ズシテ公道上ニ卷揚ゲ起重機虎綱又ハ杭等ヲ設置スベカラズ

此等ノ道具ノ際ニハ通行者ニ注意ヲ與フル爲メ一人付ケ置クベシ

工事中ニ休ミノ時ハ綱虎綱等ヲ外シ少クモ二米突五十仙以上ノ高サアル鳥居ノ上ニ置クベシ

虎綱、尻手止メノ杭ハ可成歩道際ニ設ケ且其椽石高サヲ超エザル樣スベシ

歩道ノ際以外ニアル杭ハ地盤ノ高サヨリ越ユベカラズ

敷石補修ノ爲メ杭一本ニ付一「フラン」ヲ納ムベシ

第十七條 公道ヲ横斷シテ溝堀等ノ工事ヲ爲ズコトヲ許可サレタル者ハ其工事ヲ施ス箇所ヲ交通安全ノ爲メ市役所ノ指圖ニ從ヒ人除ケヲ以テ繞ラスモノトス又歩行者通行ノ爲メ所々相當ノ距離ニ於テ溝堀ヲ上ニ橋ヲ設クルハ勿論市役所ニ於テ許可スル場合ニハ工事ノ進行ニ從ヒ一部分ツヽ埋戻ヲ爲スベシ、下水ノ修繕又ハ取毀チノ場合ニハ其下水ヨリ出ル泥土ハ公道上ニ置ベカラズ若シ實際ニ於テ暫時之ヲ置クノ已ムヲ得ザル場合ニハ有效ナル消毒劑ヲ加ヘタル後ニアラザレバ之ヲ爲スコトヲ得

ズ且其泥土ハ直ニ取除クベキモノトス

溝堀ノ缺陷又ハ其他ノ危險ナキ樣腹起シヲ爲スベシ

第十八條 公道上ニ行フカ又ハ之ニ沿フテ施ス工事ハ柵、人除ケ又ハ足場取設ノ上ハ直ニ著手シ中止スルコトナク最短時間ニ竣工スベシ若シ工事ヲ中止スル時ハ場合ニヨリ交通ノ不便ヲ來サヽル樣一時取除クカ又ハ街規線上置替セ

シムルコトアルベシ

第十九條 石ハ直ニ据ケラルヽ樣切リタルモノヲ建築場ヘ搬入スベシ

若シ之ニ關スル現場ニ於テ其形狀ヲ變更スル必要起リタルトキハ職工ハ石屑及破片等ニヨッテ通行人ニ危害ヲ與ヘザル樣石ヲ置キタル後加工スベシ

總テ壁塗、石切又ハ彫刻等ハ建物前面ノ兩側及其總高サヲ覆フ樣透間ナキ柵ヲ設ケ公道又ハ隣家等ヘ塵埃、屑等ノ散亂セザル樣設備シタル後ニアラザレバ之ヲ爲スベカラズ

第二十條 家屋ノ上部又ハ內部ヨリ屑、芥、材料等ヲ公道上又ハ下水或ハ道路樣リ流水中ニ投棄スルコトヲ嚴禁ス之等ハ注意シテ取下ロシ建物又ハ柵際ニ置キ日沒前ニハ取リ除クルモノトス

屑芥、土砂等ヲ運搬スル車ハ其所有地內ニ牽入ルベシ若シ內部ニ入ルヽコト能ハザル場合ニハ其所有地ニ並行ニ車ヲ置キ決シテ公道ニ直角ニ之ヲ置クベカラズ

第二十一條 市參事會ニ於テ必要ト認ムル時ハ工事ヲ施ス場所又ハ其柵人除足代等ノ架設中ノ公道ニ持主ノ費用及注意ヲ以テ日沒ヨリ日出迄適當ニ點燈セシム

第二十二條 持主ハ其建築、修繕又ハ取毀ヲ中ノ建物ノ前面又ハ外構ノ全長ニ渉リ其公道ヲ工事中清潔ナル狀態ニ維持スベキモノトス

第二十三條 公道ニ面スル建物其大畧ノ構造ヲ終リ屋根ヲ葺キ終リタル後ハ直ニ柵、人除ケ、足代ヲ取拂ヒ且總テノ材料取解材、塵埃等ヲ取片付ケ、一時工事場又ハ材料置場ニ充テ居タル公道ノ通行ヲ復舊スベシ工事中止ノ場合ニモ之ニ從フ

材料又ハ埃塵ヲ命ゼラレタル時間內ニ取片付ケザル時ハ警察ノ命令ニヨリ官ニ於テ持主ノ費用ニテ之ヲ爲スベシ

第二十四條 建築ハ總テ瓦質ノ材料ヲ用ヒ構造方ノ法則ニ遵ヒ之ヲ行フベシ

第二十五條 構造又ハ土地建物全部ノ臨檢又ハ其他檢查ノ必要アルトキハ持主又ハ其居住者ハ本則並ニ許可證ニ於テ命ジタル條項ヲ遵守シタル公然ノ認可ヲ受クル迄ハ關係吏員ニ其便宜ヲ與フベキモノトス

若シ吏員ガ法律規則或ハ市役所ニ於テ認可シタル圖面又ハ認許證ニ於テ命ジタル條件ニ違反ノ廉アルヲ認メタル時及足代板、梯子、滑車、足場、網其他ノ工事用器具ノ必要ナル丈夫サヲ缺ク コトヲ發見シタル時ハ直ニ其持主又ハ受負人ヘ工事中止或ハ其不完全ナル器具ヲ運滯ナク取替フル事ヲ申付ケ且報告書ヲ市參事會及助役ニ直ニ呈出スベシ

前項ノ申付ニ服從セザル時或ハ其申付ノ實行ヲ運滯スル時ハ市役所ハ法律ニ準據シ命令ヲ下スモノトス

市吏員ト持主又ハ受負人トノ間ニ構造材料或ハ用具ノ件ニ關シ紛議ヲ生シタル時ハ市參事會及助役之ガ判決ヲ爲スモノトス

役員及職員

理事長　片岡安藏（主記）
理事　宗兵寅（編輯）
　　池田一（編輯）
　　葛野壯一郎（編輯）
　　吉井長七（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄
　　波江悌夫
　　佐藤四郎
　　江村郊邨
書記　越山達繁
　　渡島

會員	一七六	會員（地方）	五一
名譽賛助員	七二	終身賛助員	四一
特別賛助員	九	普通賛助員	二五〇
合計	五九九		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正九年四月三十日印刷（每月壹回）
大正九年五月一日發行（一日發行）

發行兼編輯人　大阪市北區相生町一三四　電話（東一八八三番）　伊藤幸太郎
印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地　兼
印刷所　大阪活版所　大阪市東區今橋一丁目十一番地
發行所　日本建築協會　電話本局二二四一番　振替口座大阪三九九七五
特約販賣店　柳々堂書店　大阪市西區京町堀羽子板橋北　電話（土佐堀二四四〇番）　振替口座二〇八四番

●第三集　第五号　掲載広告一覧（掲載順）

浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
葛野建築事務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
山本窯業商店
池田勘蔵

大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中建築部
山本組
鴻池組
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
清水組大阪支店
木村組
清水工務店
銭高組
内外土木建築材料

熊取谷熊次郎
石井定七
矢橋商店
濱恒次郎本店
ホーン大阪支店
三石耐火煉火グレー
新田ベニヤ製造所
東洋コンプレッソル
明正社
砂崎
東洋コンプレッソル大阪出張所
日本コルク
コルク工業
穴原商会
村井工業所
野沢幸三郎商店
山本コンベス商会

大野正営業所
大阪窯業
銀座建築用品店
大阪煖房商会
大阪電気商会
高田商会
松尾和助本店
大阪鉄筋混凝土工務所
横河橋梁製作所
高石商会本店
米国貿易会社
浅野スレート大阪出張所
共同建材製作所
栄進社
日本石綿盤製造
東洋鉄網製造
須賀商会
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所

川崎工場
旭家具装飾
茂木
巣鴨製作所大阪支店
北木島石材大阪出張所
日本建築協会
日本建築紙工
萩原煖房工務所
高田商会銀座販売店
